

令和五年七月一日発行 毎月一日発行  
創刊大正十三年 通卷一一五四号

# 川柳塔



日川協加盟

No.1154

七月号

# ― 路郎賞・川柳塔賞の応募は

## 八月号の刷り込み用紙で―

① 川柳塔欄・水煙抄欄に6か月以上、出句した人に応募資格を認める。

② 令和四年九月号から令和五年八月号までの入選句（自分の句を出句する）から自選。

③ 八月号刷り込み用紙に5句を楷書で書き8月15日必着のこと。

## 昨年九月から今年八月の間に 誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選択して応募して下さい。

ただし「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いないようにお願いします。

## 選者交代のお知らせ

九月号（七月投句締め切り分）から来年八月号までの選者を次の通り交代します。

水煙抄 川上大輪

檸檬抄 鈴木いさお 共選  
川本真理子

川柳塔社

## 「檸檬抄」課題

共選

発表	月	課題	締め切り日
5年	9月	記号	7月15日
	10月	本気	8月15日
	11月	裂く	9月15日
6年	12月	彩り	10月15日
	1月	半端	11月15日
	2月	のほほん	12月15日
	3月	泥	1月15日
	4月	宇宙	2月15日
	5月	情報	3月15日
	6月	ざろり	4月15日
	7月	筒	5月15日
	8月	印象	6月15日

# 雅号

小島蘭幸

昭和38年9月、第6回近県川柳大会が竹原市の森川邸で開催されました。出席者132名、投句者77名の盛会でした。竹原川柳会の会員になったばかりの私たち同級生4名も出席しています。高校1年生の時でした。

東京を一生知らず竹細工

冬二

課題「竹」、岡田俗菩薩選の天位句です。津山市の定金冬二氏の作品でした。

初めて出席した川柳大会で私が一番驚いたのは、出席者の皆さんの呼名です。選者が入選句を読み上げると、間髪を容れず大きな声で呼名をされるのです。個性的で独特な節回し、衝撃でした。山内静水竹原川柳会会長も普段の句会ではみせない程の大きな声で呼名をされていました。「セイスイイ」今でも私の耳底に残っています。

大会が終わって暫くして、私は静水会長に「雅号をつけて下さい」とお願いしました。しかし、まだ高校生ということで雅号はいただけませんでした。

高校卒業を間近に控えた私は、雅号は自分でつけることにしました。そこでバツと浮かんたのが小学4年生からのニックネームでした。「ランラン小鳥」、小島君はいつも小鳥のように楽しそうにしていると転校して来た友達がつけてくれました。そうしてみんなから「ランちゃん」と呼ばれるようになったのです。「ランちゃん」の「ラン」と本名の「和幸」の「幸」を合わせて「蘭幸」は生まれました。当時、私は尾上梅幸という歌舞伎役者がいたのは知っていました。

「蘭幸」にしたのはもう一つ理由があります。友達の中には「ランこう」「ランこう」と親しく呼ぶ人もいたのです。よしいつか、「蘭幸さん」とさん付けで呼ばせてやろうと思ったのです。

高校卒業と同時に雅号をつけたのは私と、静水会長の次男「静雨」君の二人だけでした。

あれから57年、今では可愛い二人の孫が、「蘭幸さん」と雅号で呼んでくれます。

座右の句

恋人の膝は檸檬のまるさかな

橘高薫風

私の句

身の丈の倅せでよし福寿草

川崎 ひかり

## 川柳塔 七月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「アオサギ・閻魔灘」

### ■巻頭言 雅 号

仏教から見る路郎の句

小島 蘭幸 ……(1)  
西村 哲夫 ……(2)

川柳塔(同人吟)

小島 蘭幸選 ……(4)

菠薐草の花⑦

野沢 省悟 ……(36)

英語 de Senryu ⑬

吉村 侑久代 ……(37)

俳風柳多留一三篇研究 35

山田 季賛 ……(43)

自選集

木本 朱夏選 ……(44)

句集の森

温故知新

水煙抄

橘高薫風句集『肉眼』

愛染帖

新家完司選 ……(62)

## 仏教から見る路郎の句

西村 哲夫

無常とや猫も金魚も死んで見せ 路郎

無常とは常がない事である。その表現の仕方は色々であって良いと思うがしかし、「生が常で死が無常」ばかりではない。死ぬるばかりが無常ではない。無常なるが故に花も咲くのである。

花が咲くこれも無常の成せる業 哲夫

檀家参りの一コマ。

「綺麗な熱帯魚沢山いますね」金魚からグッピー・メダカまで飼っては水槽を洗い、そして死なせる事の繰り返し、一時期水槽は空っぽになっていた。中にいたメダカは玄関先の手水鉢の中。いつものごとくそのメダカ3匹に挨拶して、玄関に入ると、空っぽのはずの水槽に綺麗なグッピーみたいな奴が泳いでいる。ネオンテトラと言うらしい。青色の蛍光色を発している。「人間の目から綺麗な魚と見えますが、勝手なも



檸檬抄「サイズ」	江島谷勝弘・永見心咲共選	（66）
一路集「救う」	杉野羅天選	（70）
（「目移り」）	齋藤さくら選	（71）
初歩教室「本」	水野黒兎	（72）
川柳塔鑑賞	藤井宏造	（74）
水煙抄鑑賞	工藤千代子	（76）
せんりゆう飛行船 <sup>⑩</sup>	新家完司	（77）
インスピレーション・ナビ 印象吟	大西泰世	（78）
■新刊紹介『良い川柳から学ぶ 秀句の条件』新家 完司著	栗原道夫	（80）
六 months 本社句会		（81）
各地柳壇（佳句地十選／高瀬霜石・古久保和子）		（86）
柳界展望		（99）
七月各地句会案内		（100）
■編集後記（ひとこと／藤田武人）	道夫・勝弘・眞澄	（126）

座右の句

立話長うて犬も坐り換え

橘 高 薫 風

私の句

大阪弁ひときわでかいオノマトペ

村 上 玄 也

のですね」ご主人のこの趣味を暖かく見守る奥様がそう言う。「本当、本当いい加減なのはいつも人間の方です」と私。どんな魚も一所懸命生きているのだ、それを綺麗とか可愛いか人間の勝手な見方に過ぎません。自他一如、生死一如の念仏が、慈悲の姿で私を莊厳し、私をすくい取って下さるのである。

諸行無常——それはこの世の中で変わらないものはない、変わっていかないものは存在しないという意味である。私の存在は奇跡とは言わない、縁のつながりで存在し合っているのだ。唯一真理となる仏法のみだけは変わらないのである。無常なるが故の「老病死」の苦悩は自分自身ではコントロール不可能であり、自然界もまた同じなのである。この苦悩を越える道は、真理に目覚めた仏と関わり続けること。仏のみが私を生かす存在なのであった。

自分中心の世にあって、ブレーキをかけて下さる仏と共存する事だ。それはまず、念仏を称えることから始まる。

無常とや猫も私もニャンマイダ 哲夫



小島蘭幸選

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

口約束いつまで待てばいいですか  
群像の中で普通が光ってる

マナーモードしてから午後の喫茶店

鶴の舞いまねてよろけている日傘

静かにいるとすみれの紫が匂う

さよならの五分前から好きになる

大阪市 高杉 力

ゴメンネとただそれだけの置手紙

常連も景色になつてゐる酒場

あさつての方に向かつてうさぎ跳び

ハッシュタグ多めにつけておきました

ざらついた街で終わりのないコント

酔うて寝るこの世も捨てたものじゃない

笠岡市 藤井 智史

荒れ球を投げて受け取る妻でした

ゴールデンウィークの無い介護現場

婚活を終えて幸活へと走る

大漁旗を振る愛の待つ港

ユーモアじゃないおもしろい句を作る

おしゃべりな心を川柳に宿す

大阪市 谷口 義

一緒に頑張ろうと友達と話す

ふつくらとした明日をお願いします

半分子供半分大人のおばあさん

知らん顔してたらその内に終る

私の人生クリーニングしておきましょう

生きているのが不思議ぐらいの夏の空

大阪市 平井 美智子

一粒の涙の痕がある手紙

春の風ですか切ない恋ですか

葉桜の下に恋しき人の影

ビタミン剤五錠飲んでもまだ淋し

淋しさの分だけ覗く冷蔵庫

泣いていていいよと雨が降っている

尼崎市 山田耕治

今日あたり竹の子御飯きつと来る  
桜降る下で八十五の写真

ケアホーム見舞えば遠き日の話  
肩抱いた写真いつまで見ているの

秒読みを聞こえぬふりで生きている  
暖かくなればと墓へ行く話

堺市 楽原道夫

知らんぷりして葉桜の下を行く

悔恨のひとつは猫に舐めさせる

逃れ来て嘔みしめている水の味

蝶が遊びに来たので暫し遊ばせる

波が手を挙げるので手を挙げ返す

一瞬にして永遠の水の輪や

西予市 西田美恵子

力を抜いてふわっと飛べば良いのです

洗っても青田の匂い父のシャツ

ポケットから手を出しなさい春です

私も好きあなたが好きと言ったから

遺品整理こんな所に亡妹が

お疲れさんと淹れてもらった茶が旨い

大阪市 寺本実

うっかりと空の財布を持って出る

借金をこわったから今も友

偏差値が足りず極楽いけません

真似をした料理本家よりうまい

ラッキーといつも努力を無視される

お別れの手紙切手もはってない

鳥取県 斉尾くにこ

目的地通り過ぎてた聞き上手

持ち味は天然素材添加無し

雨バージョン晴れバージョンのファッションショー

手料理の楽しさ口を楽しませ

博識の横で仕入れた人生訓

一滴も残さぬ磨かれたシンク

枚方市 栃尾奏子

街中がいま燃えているトマト投げ

人々の垣塙を支配してトマト

トマト粥夏をいのちを戴いて

プチトマト庭でウインクしています

千の顔みせるトマトの虜です

わかるかな さやまるアイコ桃太郎

松江市 藤井寿代

黄昏れて老いを楽しむ難破船

ミサイルが飛んでブランコ揺れている

ウクライナ思えば日本パラダイス

飽きが来ない星降る夜の天体ショー

プライドを脱ぎ捨て明日もぼんやりと

生一本空けて今日を折りたたむ

岸和田市 岩 佐 ダン吉

四面楚歌それでもこの道を歩く  
しんどいと言うても楽になりまへん  
聞く力ないけどやる気までもない  
括られたその他の中で吠えている  
口癖はぼちぼち敵も作らない  
責任は私にあるとだけを言う

西予市 黒 田 茂 代

羽ばたきは雛鳥リハビリはわたし  
こころ安まるわが家での眠り  
まだ舊退院待ってくれた椿  
気遣いもなくゆつくりと爪を切る  
親友の来訪一日が早い  
心なごむ友はわたしの観世音

奈良市 米 田 恭 昌

今更に亡父の怒声が懐かしい  
布張りの「のらくろ」鎮座する書棚  
地味な顔洒落たマスクは手放せぬ  
堅物の意外に広い夜の顔  
平凡と喜びあつていい夫婦  
六甲おろしにフツフツと湧く闘志

香芝市 大 内 朝 子

新緑に生気を貰う誕生日  
眼裏に心やすらぐ星の景  
五十グラム新茶を買った老いの贅

ゴールデンウィーク友はもう居ない  
病む足が外に出たいと駄駄こねる  
一花へ老いと戦をするお洒落

横浜市 川 島 良 子

会話ある暮し 会話のない暮し  
余生にもリズム感ある時間割り  
天国は寂しくないか亡夫に聴く  
風薫る今日も侍絶好調

東大に拘る訳があるらしい

人生いろいろ好きに生きてもいい齡

大阪市 田 中 ゆ み 子

数えきれぬ約束果たしたのはいくつ  
端っこに座る当てられぬように  
二十四時間働く父を見て育つ  
途中下車ころ変りをしたんだね  
豆苗が伸びた命をいただこう  
優しい人と思うか金魚わたくしを

和歌山市 柏 原 夕 胡

7月のイベント私の誕生日  
ネコのためですクローラーは消せません  
ふるさとにまだ叔母も居る友も居る  
真夏でも湯舟に浸かりたい私  
プランターの花よ暑さに負けないで  
蚊に愛されながら水やりをする

松山市 大内 せつ子

春色のきみにもらったビターチョコ  
風呂敷をかぶって化けたはずでした

「なるほどね」って軽く背中を押されたの  
ちぐはぐな君を抱きたくなるのです  
乱れ飛ぶもの大和魂とやら

松山市 栗田 忠士

残生は神に任せて鋏を振る  
父の日も仕事休まぬ父だった

僕の手紙が亡父の文箱に残ってた  
父よ母よ冥土の水は合いますか  
托卵の礼は言わないホトトギス

松山市 古手川 光

子供の声聞こえはしない子供の日  
設計図あるのか蜘蛛の巣を眺め

三途の川の手前でまたも引き返す  
ボケちゃった財布持たずに買物へ  
AIに弄ばれていくヒト科

松山市 宮尾 みのり

道具みな軽さで選ぶ歳になる  
コロナから割り切ることが多くなり

その昔カバや文庫に恩がある  
後悔はすまい選んだ岐路だもの  
墓まいりしだした友が案じられ

松山市 柳田 かおる

失って大切なこと気づいたの  
生きていくための筋力つけなくちゃ  
身の丈というがサイズが掴めない  
心晴れない冤罪は晴れたけど  
なんとなく貰っておいした試供品

今治市 永井 松柏

無人駅に降り立つときの無重力  
偶像を毀し続ける男の手

抜かれたり抜いたりヒトも競走馬  
動揺を抑えるように爪を切る  
戦好きさではホモ・サビエンスだな

今治市 安野 かか志

廃屋のぺんぺん草が花を付け  
静止画の水面を染める花吹雪

爛漫の春へすつぱり落椿  
カルガモの列が塞いだラッシュ時  
筒抜けの隣近所が温い村

土佐清水市 辻内 次根

五月入る庭にトンボの飛ぶ姿  
更新を絶えずしてくる山の風

手渡しで手紙受け取るいい天気  
有り余る時間で沖を見て帰る  
四月二十二日転んだ



高知市 三谷 松太郎

絶景の高い眺めは猫も好き

ゼレンスキーモナリザ顔になつてきた

椎の木がもういいかいと花仕舞い

詠みよみて叙事人間と心得た

プーチンさん久米仙人が呼んでたよ

阿南市 小畑 定弘

三面鏡開いたままの亡妻の部屋

新樹光独りの卓のにぎり飯

行間に心変りが埋めてある

七回忌遺影の妻はまだ熟女

カープミラーあの老人は誰だろう

東かがわ市 川崎 ひかり

猫抱いて猫好きが寄り猫自慢

油断なくコロナそれほど甘くない

これからを明るく生きる夢を編む

これからも左脳鍛える辞書を繰る

朝採れキャベツ美味いと虫が保証する

北九州市 小松 紀子

自分史のハートに光るボランテア

頑張っている満身創痍ではあるが

おしゃれより体の線をかくす服

少年よありがとう席立つてくれ

よりわかる種に祈りを深くする

唐津市 坂本 蜂朗

平等に皆美しい厚化粧

検査値は高め安定美味い酒

傷付けず傷も付かない片思い

惚れた人美人でしたよ皆故人

異状なしの結果に杖を置き忘れ

熊本市 杉野 羅天

戦闘へり即死救えぬのが疑問

世界平和背負う日本の桜花

請求に合掌とある面白さ

戦争のミスは雁首まで晒せ

逆境を薔薇の優雅に支えられ

札幌市 小澤 淳

開花日の締めは根室に稚内

畑産の香りない独活酢味噌和え

京ブキはわが坪庭で群生す

わらびぜんまい古代人から贈りもの

タンポポの黄は可愛くて外来種

黒石市 石澤 はる子

誕生月力が入るスクワット

菜園へ今年も増やすナストマト

朝の日課折り込みチラシまず点検

お茶一服チョコ一粒のサブリメント

夕暮れの鐘に急かされ草むしり

黒石市 北山 まみどり

また風に乗りそこなつて現在地  
ときどきは風の温度を確かめる  
生温い風には少し飽きた頃  
行く先のひとつがあなただとしても  
桜さくらサクラあっけなく過ぎる

弘前市 稲見 則彦

スカートをひらひら揺らす風が好き  
ソロキキャンプ先の先に君いそう  
シヨパン聴くたつたひとりでシヨパン聴く  
四月の訃桜もとうに散りました  
桜からの詫び状続く津軽 春

塩竈市 木田 比呂朗

5類とや胸にしみ入る生ビール  
少しずつシナリオずれる昨日今日  
終章を磨くカルチャー惑いだす  
グルメ旅などと家内のクーデター  
今朝もまた妻と一緒にのシヨータイム

上尾市 中村 伸子

AIが何でも造り出す不気味  
夫入院知らない電話無視できぬ  
入院へ届け忘れの乾電池  
コーヒータイム娘のお土産と孫話  
免許返納して良かったと思う事故

朝霞市 前田 洋子

父譲り瘦せた体も呑めるのも  
好きだったジジの魚拓を飾る孫  
独り居は自分で私守り立てる  
野良ネコはちゃんと独りで生きている  
戴冠式ライブで見てるビール手に

越谷市 久保田 千代

甘い物あるよと誘う友が出来  
句読点なくて多弁なティータイム  
老人が口癖にする佳き時代  
洪滞のテールランプのニュース見る  
長生きをしそう じつくり策を練る

東京都 川本 真理子

改行をしよう散文の人生  
ぜんまいを巻く方式で生き直す  
ボールペンこどものような字になつて  
老化とは一を立てれば二が立たず  
そうまだまだあるかもしれぬ青い山

八王子市 川名 洋子

脱マスク心ゆくまで花と風  
風任せなるようになる老いの恋  
導眠剤の代わりにと罪と罰  
大谷とふる里一緒鼻高い  
抱きしめてほしい時ありでも独り

横浜市 菊地 政勝

大山市 金子 美千代

帰省して時代遅れの里に会う

抜いても抜いてもドクダミのど根性

庇い合い分かちあいする老夫婦

通販へ頭を冷やす三四日

急げない歩行速度に老いを知る

コロナ解禁さあこれからへ痛む膝

物価高老後の資金揺さぶられ

通販が祝ってくれる誕生日

今ここにある幸せに気がつかぬ

住み慣れたこの地で最期までいたい

各務原市 喜多村 正儀

大山市 関本 かつ子

様子見をしながら出番待つコロナ

当然のように単身子も五十

見送ってますます深い母の海

三代代久方ぶりのバーベキュー

ふる里の橋のたもとにある初心

父と子の会話を繋ぐのもビール

来し方を問うふる里の山と川

マスク無しの子供生き生き遊園地

雪どけの山山遠い人思う

遊園地優しいパパの多いこと

可児市 板山 まみ子

豊橋市 西郷 紀美代

卒業後七十年のクラス会

覚えない夢に疲れて冴えぬ朝

マスク取れようやく旅へ出るプラン

不便さも承知でスマホ置いて行く

そのうちが禁句になった高齢者

くり返す歴史の中にいる不穏

期限切れそこそこにある備蓄品

どこでどう間違ったのか子の育ち

災害があっても日本ワンダフル

誕生日サービス券でとるランチ

名古屋市 山本 三樹夫

愛知県 早川 遡行

宇宙開発いよいよ月に国旗立つ

些細なことに憤る歳になり

生きよと叫ぶ咲くひまわりに陽があたる

薔薇の字は書けなくていいバラである

摩訶波羅密頭を空に朝の経

元氣だと元氣を出して言ってみる

ジクジたる思いの政治選挙来た

目ぐすりを差しても変わらない日本

偏西風望まぬ黄砂持つて来る

惨状へ当り障りのない支援

石川県 堀 本のりひろ

びつしりと敷き詰められた妻の愛  
山の神にマスクの下で舌を出す  
ハーモニー微妙にずれる私たち  
ずーと耐え生きていきますこれから  
得て勝手やってきたから独りぼち

奈良市 東 定生

うわさ話聞き飽きている露天風呂  
戦争は望んでいない自衛官  
万博に行けそうもない現金派  
古希過ぎて埋まる手帳に酔いしれる  
三年分の話が弾むノーマスク

奈良市 大久保 眞澄

尾を振ってあなたと散歩しています  
帰って来いと子供に言ったことがない  
眠れない夜の拷問足が攣る  
閻魔帳も改ざん自在脱ハンコ  
自転車にヘルより欲しい免許証

奈良市 加 藤 江里子

ローレライ口ずさんでた亡母のこと  
幅寄せが苦手でいつも傷だらけ  
貴女という採点されているようで  
ゴングは鳴る地味な私の暮らしにも  
近くなる宇宙遠くなる平和よ

奈良市 高 橋 敬子

思ったとおり美術館には客は居ず  
奇術わぬ昭和の絵画波長合う  
連休の無聊を救う招待状  
解説を読んでから行く能舞台  
連休終り平常心になる財布

奈良市 辻 内 げんえい

金婚式子らの計らい同じ場所  
婆娘孫みんな丸顔心根も  
好物のタケノコのため山椒植え  
喜寿夫婦駆け巡り行く観光地  
日暮れまで立ち話してまた明日

奈良市 山 本 昌 代

時どきはにこつと猫をかぶります  
割り切って今は昼寝の時間です  
スグおこりスグにわらって日が暮れる  
マイペースもいいじゃないのと老いの道  
「ひのとりに」に乗ったと孫のご報告

生駒市 飛 永 ふりこ

噂りが脳の霞みを押し開く  
拘りがミルクココアに解けていく  
亡き友のアマリリスです根が強い  
下地ある方はどこでも自然体  
三年ぶり三日外出ああしんど

香芝市 山下 じゅん子

保護ネコが母を見守る一軒屋

心配事解決した日の朝風呂

うさぎ島へ卯年生まれの子と孫と

バランスボール使いこなしてお家ジム

嫁が来る気合いを入れて掃除する

桜井市 安土 理恵

影に日向に夫の脇を支えねば

風呂あがり夫の白い爪を切る

あと少しせめて越えたい父母の齡

実山椒青青と煮て夏を呼ぶ

ビーズのような揚羽の卵見ってしまう

奈良県 安福 和夫

意気揚々繁る若葉に励まされ

シルバーの剪定作業気が抜けぬ

脚立踏む足許ぐらり補佐が要る

耕運機じいは助手席孫主役

施肥撒布今はドローンが飛び廻る

奈良県 谷川 憲

尽きぬ好奇心AⅠには負けぬ

読むたびに発見のある愛読書

黄砂来て大和三山見えぬ春

喧嘩しても加減知ってた昭和の子

顔のない肩書だけが歩いている

奈良県 中原 比呂志

言い切って妥協の道を埋めたまま

蜘蛛の巣にもかく自分を見た寝汗

この椅子に座りなさいと父正座

連休は畑を耕す夫婦いて

帰省車に餃子豚饅匂う混み

奈良県 中堀 優

階段で年だと気づく昨日今日

貴方ならきつとやるはずやれるはず

のど自慢妻が好きなら俺も好き

年の数かける百歩は歩こうよ

頼んだぞと言われた父の顔浮かぶ

奈良県 長谷川 崇明

戦止めぬ地球氷山の涙

聞けブーチン戦争による平和なし

スーダンもまた過ちの戦する

核というスキル目指して民は飢え

人の欲これ程怖いものはない

奈良県 渡辺 富子

友達のひとりふたりとホーム入り

笑えない思い違いが多くなる

二人しておぼろの記憶つなぎ合う

二年先の約束は無理ふと思う

今晚も想い出語り眠ります



和歌山市 上田 紀子

多国籍食材頼る明日不安  
本当の私写さな鏡

ローギアに変えよう人生ゆったりと  
以下同文昨日と同じ明日が待つ  
海見るとテンション上がる海が好き

和歌山市 松原 寿子

柔らかなくの外して聞いてみる  
閉じ込めり流れる日日にある不安  
生きる欲ないが命の尊さよ  
落ち込めば犒う仲間いてくれる  
聞き流すだけでは前に進めない

橋本市 石田 隆彦

コロナ抜け群がる人をのむホール  
ワクチンで嫌いな注射五回打つ  
村起し地産地消の食まつり  
飾らずに支えてくれた妻感謝  
微笑みは人生の花日々咲かす

京都市 清水 英旺

値上げ値上げ食後のデザート姿消す  
水たまり飛びそこなつてああ年か  
ヘルメットいらぬ出費と妻ばやく  
戦争が好き御仁がいる限り  
お役ご免マスク路傍に無残なり

京都市 藤井 文代

電話は今悪い奴等の入口に  
大勢の中独り居るより尚淋し  
ポケットの中すぐに出せます「ありがとう」  
泣かされたことみな忘れ今ひとつ屋根  
捨てるより溜めること好き貧乏性

京田辺市 北野 クニオ

私のアナクロニズム昭和流  
長生きの秘訣と聞かれ趣味と言う  
借りた恩キツチり返す真面目人  
健康とヤル気があれば夢叶う  
鯉幟今日の天気がありがとう

長岡京市 山田 葉子

母卒業遊べる人になれるかな  
鶯鳴くまだまだ下手と耳すます  
楽しい日声が大きく高くなる  
居るだけで和む可愛さ犬の徳  
誕生日メール電話に癒される

八幡市 武田 悦寛

臆病が出会い求めてひとり旅  
老いの坂ふたつのいのち杖と杖  
飛べるかなやさしく誘う水たまり  
雨の日は濃いコーヒーと文庫本  
気まずさを忘れるように米を研ぐ

大阪市 東 敏郎

さらさらの血に入れ換えるジェネリック

口笛を吹いて初音に挑む苑

立ち呑み屋袖擦りあつて友となる

アプリには魔力が潜む知らんけど

石頭歳を重ねて軽くなる

大阪市 石田 孝純

二人にひとりだからあなたは大丈夫

病室で三食付きの雨宿り

一回休み双六だつて盛り上がる

病気ですが病人ではありません

メルカリで病を越える靴を買う

大阪市 磯島 福貴子

国際色豊かに活気観光地

スーパ―に無い温もり通う個人商店

被災地で尊い汗のボランティア

北から南地震のニュースいつ我が身

早朝も苦にならず見るショータイム

大阪市 井丸 昌紀

保護色でみんなに紛れ枯れてゆく

錯覚が覚めずあなたはまだ奇麗

やさしさと誤解されてる気の弱さ

はいはいとベルト緩めた飲む誘い

本になったら立派に見える僕の駄句

大阪市 岩崎 公誠

値上げ波ざんぶとかぶる高齢者

スマホには怖いおばけも棲んでいる

不満ない健やかな日は茶もうまい

値札つく土産もらつて気軽なり

月末は特売並ぶうちの膳

大阪市 岩崎 玲子

マスク取り顔一杯に受ける春

サークルの役が決まつて惚けられぬ

今日ひとつ私がんばる事探す

疲れました三本立ての夢を見て

純でした文通してた今の夫

大阪市 内田 志津子

友卒寿記憶減退くやしがる

遠まわりしたけど晴れて華燭の典

アンバランスな二人おやつはプリン

言訳は短く提言は長く

かさついた指先眺めよう生きた

大阪市 宇都 満知子

連休に笑顔残して子が帰る

椅子持つて少年野球の応援

木のベンチ漏れ日揺れて誘います

ふくらはぎ覚えています金剛山

ふた月を年金だけでの窮屈

大阪市 江島谷 勝 弘  
マスクしてないと落ちつかぬ私

「専守防衛」治山治水も万全に  
ありがたいことだ水の豊かな国  
句会の日は診察予約ずらします  
二人とも忘れていました金婚

大阪市 大 沢 のり子

母は言う一喜一憂しなさんな  
一番水供えて母を恋う夫  
ひも切れた靴は古里恋しがる  
枯れ井戸に水 わたくしは生きている  
再会はピアニツシモの雨の朝

大阪市 奥 村 五 月

財布には諭吉たつぷり気が強い  
プーチンが先に地獄へ送る金  
あの世では妻より恐い閻魔さま  
若い時もてた私も白い髪  
連休も何処も行かずに犬の守り

大阪市 小 野 雅 美

淋しくはないかと月が添うてくる  
酔い醒めの水が昨日を責めてくる  
ピンク色のハンガーに干す地味な服  
滲み出る涙を吸っている枕  
温もりをあげると猫が寄ってくる

大阪市 川 端 一 步

武器でなく話し合いして痛み分け  
ああ夕陽人間小さいなと思う  
じつと手をそんな詩歌が訴える  
盤を磨くところだんだん澄んでくる  
大空のこころ緋く薫風忌

大阪市 古今堂 蕉 子

耳鳴りが凄い 明日は低気圧  
あんたが大将子に意地張るのやめました  
飯面つけ宝石盗むとは錯誤  
自己責任とれずマスクも取らぬ人  
入院したつもりで今日は出歩かぬ

大阪市 近 藤 正

外遊で金をばら撒き民飢える  
異次元は軍拡予算だけだった  
島壊しトマホーク基地草伸びる  
Jアラートテレビジャックで煽り立て  
憲法を総理無視していいのかい

大阪市 坂 裕 之

先生にせめて散歩は五十歩と  
真っ直ぐに歩いたはずが何で此処  
新しい事始めたらしめられん  
傘寿会飲むは歌うはみな元氣  
子供らが遊ぶことから教えられ

大阪市 高 杉 千 歩  
独り言しつかりせいとしか言わぬ

お元氣ね笑つときます車椅子  
断捨離に遠く施設の片隅で  
せつかちはいないホームの夕餉どき  
少しづつ極楽見えて笑い皺

大阪市 田 中 廣 子

雨の中園遊会も大変だ  
葉桜も雨に打たれて美しい  
ネモフィラの優しい色を見ましたか  
イギリスの戴冠式はおごそかに  
能登地震続く余震は氣の毒だ

大阪市 津 村 志 華 子

地獄極楽みんな此の世の絵空ごと  
蛇口から迸るのは命の賦  
青い風と日向ぼっこをする至福  
近景にぶどう園ありケアハウス  
何はともあれ九十七の誕生日

大阪市 中 井 萌

無になれず凡人のままのうのと  
呑みましょかたまには妻に誘われる  
御神木守る庭師が草を抜く  
とりあえず夫がそばに居る安堵  
読経より雑談長いお住職

大阪市 原 田 す み 子  
小さな棘ひとつに笑顔消されてる  
連休の人はニュースで味わう

日常マンネリ里は田掻きの頃  
仲直りコンビニキーキ役に立つ  
夫を看る友の話をじつと聞く

大阪市 平 賀 国 和

薬師寺に瓦を寄進幸祈る  
薬師寺の落慶祝い二千人  
コロナ明け五月の空氣清清し  
ベランダに子雀も来て春祝う  
三年振り同窓会の知らせ来る

大阪市 降 幡 弘 美

血圧は正直ですね不摂生  
リバウンドすぐする部屋と体重と  
探してる時間が長いお買い物  
どんな日も楽しかったと書く日記  
捨てる対モッタイナイのせめぎ合い

大阪市 宮 崎 シ マ 子

日向ぼこする事ないので耳そうじ  
同居する事に嫁が一番先賛成  
一日でいい娘の家へ泊りたい  
因果とも思わずホーム四人の大声よ  
少し助けてほしい子よ孫よ

大阪市 山本 加お里

町会のゴルフ誘われやみ付きに  
顔と名が分かった頃に閉鎖され  
鏡見て笑う練習しています

8000歩あるいて自信つきました  
また違う景色見たくて遠まわり

大阪市 横山 里子

プロに頼んだ遺影 母じゃないと娘

母の亡い子に母の日は辛かった  
春うららひっそり暮す人ばかり  
手に負えぬ農地遺産に貰っても  
友の記憶から零れ落ちた私

堺市 今井 万紗子

淋しくなるとそっと引き寄せ聞くラジオ  
高齢者ですがワクワクしてもいいですか  
最後まで言えたらいいねありがとう  
ジェットコースター五歳の孫にしがみつく  
愛しい人よ三途の川で出逢えたら

堺市 柿花 和夫

裏表のない付き合い綾取りのように  
日の丸はスポーツだけでいいのでは  
昭和史の罪を令和に生かさねば  
日記帳私だけの小宇宙  
父の背も母の心も広がった

堺市 源田 八千代

記念句集配り旧交を深める  
一気咲き躑躅に牡丹花水木  
ミニ畑に大玉葱が鎮座する  
皆同じ連休前のATM  
妹のおつむ撫でなでする二歳

堺市 齋藤 さくら

悩んでる時間無い無い締め切り日  
好き勝手言える友達居てくれる  
ひとり居の友の笑顔が背中押す  
ウクライナ平和な暮らし見えて来ず  
連休ではしゃぐ日本まだ平和

堺市 坂上 淳司

9条の歯止め外した防衛論  
政権とへだたる僕の防衛論  
台湾有事あれば沖縄即戦場  
兄二人甲種合格して戦死  
ギブミーとジープ囲んだ子らが居た

堺市 澤井 敏治

咲いて散るまた来年と百寿まで  
もう走るまいゆつくり老いを楽しまん  
白内障の癒えてあらたか風光る  
タンポポがミサイル発射する五月  
なんか変と魚介が騒ぐ日本海



堺市内 藤 憲 彦

うれしそうにコロナ禍あけて咲く野バラ

今日もまた同じところに居る感謝

カズレーザーに負けないように辞書を繰る

都合よく呑み屋見つけた俄雨

無になあれ木魚たたいて般若経

池田市 太 田 省 三

エコカーのラベルを貼った三輪車

交代の野手が防いだサヨナラ打

坂道が濁流となるニュータウン

十五ポンド軽々投げる喜寿の腕

旅先の地震あわてて宿探し

貝塚市 石 田 ひろ子

息子とのドライブ何時も病院へ

価値観の違い昭和の遠くなる

仲良しの姉妹も老いが遠ざける

誕生日の祝い忙し孫曾孫

生きる欲の応援貰う五月晴れ

河内長野市 大 島 ともこ

お早うとスマホと共に動き出す

想像がつかぬスマホの無い暮らし

トリセツはカタカナばかり高い壁

タッチ一つで世界が僕を覗いてる

スマホ依存高齢者までひたひたと

河内長野市 木見谷 孝 代

古家の整理孫子三代で

亡夫よゴメン維持管理が無理になる

町に寄付シエアハウスで役に立つ

後鳥羽上皇の歌碑に別れを告げ

いつかまた旅人で来るふる里よ

河内長野市 坂 野 澄 子

手のひらに命の雫もらう朝

手後れか医者が真顔で見るカルテ

もみじの手しかと握った夢の種

子を守り生きぬく父の分厚い手

あの世でも一緒と妻の手を握る

河内長野市 中 島 一 彌

くたびれたラジオお伴に野良仕事

野辺の幸摘んだ土筆の卵とじ

OB会誘いが来るとシヤンとなる

フードロス出す国あれば飢餓の国

50年関白の座は遠ざかり

河内長野市 藤 塚 克 三

手の内を明かした裏も読み取られ

痩せ我慢意地っ張りなら妻に勝つ

軍事化の予算あやふや鯖を読む

悪友には愚痴も自慢も聞いてやる

スキャンダル逆手に取って芸広げ

河内長野市 村上直樹

ガマンなんて止めた卒寿はすぐそこに

コップ酒をお猪口に替える物価高

マスク派で通す手抜き隠れ蓑

父さんも丸くなったと子の不安

夢で逢う妻は二十歳の初心のまま

河内長野市 森田旅人

追う夢のある幸せよ道続く

海に来て尾びれのあたり痒くなる

散骨の後は魚にかえります

星のない海も癒やしの香を放つ

バランスをとって晩節水滴ちる

吹田市 太田昭

越すことも越されることも無い孤独

ライバルを越す助走路が短過ぎ

冷奴ほどの軽さで愚痴を聞く

底辺に生きて片意地張り通す

駅弁を開き車窓の春を食べ

高槻市 片山かずお

月日の経つのが速いと友とボヤキ合う

頭を垂れて祈る形で見えるスマホ

動けるうちは動けと迫る予定表

カーテンを遮光に替えて寝坊癖

マスク必須がなくなりワイワイが戻る

高槻市 島田千鶴子

前進も後退もして今がある

常識で計りきれない二刀流

オカリナの音に誘われて河川敷

八十の壁に向かって助走中

もやもやが消えて軽くなる歩幅

高槻市 初代正彦

汗だくで雑草を抜く今日の幸

五月晴れ気分もゆるむ庭簾

したたかに芽吹いていますこぼれ種

やわらかいことは後から効いてくる

五類の今こそ試される私

高槻市 富田保子

悲しいか哀しいなのか辞書をまた

お元気ですか直訳すれば生きてるか

季節感なくなり旬の香を嫌ひ

三才児自分の意志でマスク着け

老いたかなテレビが怖い臆病に

高槻市 鳥居宏

子供等も思い出すだろ桜道

鶯はまだ下手だねと茶を入れる

親鸞の声響くよな花吹雪

杖を曳く一歩一歩のありがたさ

友ありてプーチン和解のチャンスなり

高槻市 松岡 篤

泣き虫の娘も遂に子の親に  
シヨウヘイを朝昼晩に聞いている  
推すというより押し付けた自治会長  
ピンチには神に頼むしサブリ飲む  
鍵火元夫婦でチェックし合う古い

豊中市 池田 純子

母の日は自作自演のちらし寿司  
裏話聞いて偉人が近くなる  
いつだって嬉しいハンコ宅急便  
置いてくぞ兄ちゃんなりの激励法  
補助輪がまだ付いている四十路

豊中市 上出 修

AIもびっくり聡太打つ一手  
コレも買いアレも買いたい初賞与  
山もあり谷もあったが悔いはない  
六年振り新刊を手にはルキスト  
大統領見事演じるゼレンスキー

豊中市 藤井 則彦

うぬぼれも多少は持つてこそ元氣  
古本屋で名著が欠伸する輪廻  
咳くしゃみもマスクを付けてからにしよう  
お祝いはいっっそりでよい米寿です  
人並のお洒落をすると呆けも去り

豊中市 松尾 美智代

年賀状に会いたいとあり友と逢う  
楽しくて三十年が飛びました  
春の陽が今日は心をあたためる  
庭の草引きかわいい花は残しとく  
一気に庭を華やかにするアマリリス

豊中市 松田 蟻日路

ノラ犬はうろうろ僕は千鳥足  
世話かけた母を見守る歳になり  
キビキビと身体起こせぬ四つん這い  
働き蟻に反体制派いるのかな  
余力あるはずのおつむが悲鳴あげ

豊中市 水野 黒兎

マスク外し春の息吹に身が躍る  
いたどりの酸っぱさこれも里の味  
新茶飲む最後の滴までを飲む  
悪筆は直らずせめてもの楷書  
卒寿へと師の句を囓んで消化する

富田林市 中村 恵

朝夕に独り占めするペアカップ  
滾る汗浴びてわたしも熱くなる  
時効になるまで許し乞うている  
年輪か律儀に贅肉を重ね  
新しい風が明日はきつと吹く

富田林市 山野寿之

満開の桜にスマホなど笑止

追い風がそつと背を押すきつと吉

当たら人間狂う買わぬ簞

気兼ねなくたつた一人のコップ酒

お雛さん終い甲胃鯉のぼり

寝屋川市 川本信子

あと十年被れる帽子買いに行く

タンポポの綿毛気になるGPS

孤独死が頭を過るそんな夜も

生んだのはヒトです核もロボットも

老いたから子に従えという遺影

寝屋川市 伊達郁夫

合掌の形で蓮は泥に咲く

空き缶をグシャリと今日の負け戦

うつかりと歳を忘れて蝶を追う

もう気楽昨日も今日も負けました

酒飲んで身体の調子確かめる

寝屋川市 富山ルイ子

昼寝朝寝夕方寝てばかりいる

冬物と夏物の入れかえはまだ

三時迄ねむられぬのは今もまだ

神様が助けてくれているのです

昔昔すべて忘れて恥ずかしい

寝屋川市 平松かすみ

月面に届く手前でああ無念

じいちゃんの鎧兜と久し振り

五月人形年中出しておこうかな

通院もきつちり守るヘルメット

川柳は長寿の元と誘い込み

寝屋川市 廣田和織

行動の全てカメラににらまれる

一輪の花も咲かさず終活期

そのうちにきつと着られるMサイズ

約束は忘れてしまうからしない

樹木葬お勧めですと枯れ木立

羽曳野市 磯本洋一

行く水と親の教えは逆らえず

優しさと笑顔と和えた母料理

我が家には派閥がなくて皆笑顔

駄菓子屋さん子供等集う宝島

月回る戦いのない地球なれ

羽曳野市 宇都宮ちづる

到着ロビー三年振りの孫を待つ

テンションが上る鏡だ美容室

弁当作り今日で終りに子から札

卒業式ばあも来るかと言ってくれ

土日でも宅配便は来てくれる

羽曳野市 徳山 みつこ

東大阪市 佐々木 満作

やっぱり嬉しい母の日の花束

キリキリ舞いだ郵送事情きびしくて

朝ドラの土佐弁リビングに染みる

多くのご縁いただき孫の金屏風

ヒト科の愚行はいつまで続くのか

羽曳野市 藤原 大子

値上げラッシユ年金減っていく憂き目

神様にすがってみたり恨んだり

あイタタ起居に輪唱老い二人

時々は青春たぐる写真帳

作句する浅慮さひしと感じつつ

羽曳野市 三好 専平

正解のある道人間にはあらず

頼って生き頼られて生き合掌し

アートから反逆児生れ世を変える

白寿まで生きたし声の涸れるまで

コインランドリーの屋根の上の猫ねむる

羽曳野市 吉村 久仁雄

四面楚歌筋通すのに丁度いい

最後の我通し散骨準備する

小百合の推しキリンビールを選んで飲む

バランス崩しても平和へ前のめり

声枯らし叫びつづける非戦論

もう少し令和を泳ぎたい八十路

子の未来過度の期待はしないこと

社の裏も表も熟知する古参

人生の節目に置いてきた微罪

健康であれば贅沢は言うまい

東大阪市 西村 哲夫

尖鋭の思想家きつと読書好き

人生の余白に欲は似合わない

核シエルターどんちゃん騒ぎ出来ますか

夏の夜に河内音頭が聞こえない

断りの下手さが苦悩連れてくる

枚方市 谷 英也

ランドセル親の心が踊ってる

いいきかすこの坂越すとパラダイス

気はせくがゆつくり歩め八十路過ぎ

姉といもうとボケとつつ込み花見酒

台風も粹なことする空気澄む

枚方市 藤田 武人

リビングでゴロゴロ掃除したいのに

下町に生まれ新居も下町に

スロープを付けてくれよと虹に言う

AIの審判きつとおもろない

二次会の誘い一度は嫌と言ひ



藤井寺市 太田 扶美代  
あちらこちら義理欠きながら生きてます

退院祝い空気清浄器を所望

私の勝手でゆつくりと歩く

素敵な女老いを隠そうともしない

歯止めしたのは自分の中の大人

藤井寺市 鈴木 いさお

外出週5お爺ちゃんよく遊ぶ

五類とや酒場がこんなにも流行る

菜の花忌また読む「坂の上の雲」

世話人の汗が支える趣味の会

盛り付けが美しすぎて箸が出ぬ

藤井寺市 吉田 喜代子

家売って喜んで入居した友が

ホームでも安心出来ぬ終の家

眠れぬ夜柳友の句に刺激され

好きなコーヒー三度に一度は止めておく

コロナ無くなったわけでないマスク

松原市 森 松 まつお

渋滞のニュース静かな街で観る

開け放つ窓へ花粉と黄砂くる

散歩道不機嫌そうな犬に会う

ややこしい事案論吉に頼もうか

近頃は昼を過ぎると草臥れて

箕面市 大浦 初音  
長く生き油も切れて錆もうく

かたい石もやさしく包みバーの勝ち

バラのつばみ数える至福春の朝

深紅のバラ部屋がたちまちはなやかに

駅ピアノさりげなく弾く格好よさ

箕面市 酒井 紀華

待つと言う孤独をしたた老いの恋

猫が逃げ男がにげた台所

しあわせな人はゆつくり返事する

ペダルこぐ風を味方に逢いました

恋おおきおんなのさがにふたをする

箕面市 出口 セツ子

贈呈の優しき本に夢中です

優しさに感謝宝になった本

川柳の輪の温かい中に居る

口下手で上手に礼が言えませんが

人が好き心触れあう瞬間が好き

箕面市 中山 春代

おおぶりに切った筍祖母を恋う

カラーペンの絵手紙「イチゴありがとう」

逆上がりできてたころが華だった

思いでを食べる故郷の板若布

断捨離を笑う五月のウインドウ

箕面市 広島 巴子

新緑を浴びて心身リフレッシュ  
初物の枇杷おいしいと孫の笑み  
孫の武者ちまき菖蒲湯柏餅  
物価高目が点になり手が出せず  
コロナ5類何だか不安マスクする

八尾市 寺川 はじむ

治る気にさせる名医の声を聴く  
補聴器を外し聞いている妻の愚痴  
的少し外して風を見定める  
数えたら真ん中辺に居る安堵  
珍しい人が立ち寄る選挙前

八尾市 村上 ミツ子

コロナ五類に移ってもかわらない  
久し振風邪をひく咳とまらない  
知らんけど言うて教えてくれるひと  
お礼のハガキやっこさ書きました  
申告敬遠にして一先ず通過

大阪府 米澤 淑子

生きていくリズムに合うてくる歩幅  
平凡な暮らしに初夏の陽が匂う  
ひと呼吸おけば景色も変るのに  
形悪いが味で勝負の露地莓  
財産無いが曾孫六人宝もの

神戸市 上田 和宏

辻の向こう今日も一つの新発見  
緑の山まちの騒音吸い上げる  
主知るや置き去りつつじ満開に  
失敗談包まず出来る日が来たる  
闇バイト素顔はみんな普通人

神戸市 奥澤 洋次郎

はやいてる間に過ぎた五十年  
ああ上野駅日本の明日が消えてゆく  
一撮みの塩の加減にある文化  
路地酒場行ってみたいな宝くじ  
なんだかだ言うも確かな血の絆

神戸市 城戸 誓子

夕焼けの向こうに透ける過去未来  
褒められたレトルト料理恥ずかしげ  
母さん化している気象予報士も  
プライスレス子の描くママの肖像画  
ひと言が沁み入り恋の幕は開く

神戸市 奥水 弘

老いの勘まぐれ当りで止めておく  
太い指こぶしはデカイよりどころ  
ネクラなのにも明るくムリをする  
デジタル社会アナログ情緒休み処  
地球にはブーチン論す人おらぬ

神戸市 近藤 勝正

休眠がないか確かめ念の為

五類でもマスク着用ひげ隠し

自己判断民主的だが難しい

自己判断決めてくれると楽だけど

出国のラッシュテレビでああゴールデン

神戸市 斎藤 隆浩

無理するなそれがそもそも無理なこと

何故余るちゃんと飲んでる風邪薬

へそくりの諭吉そのままブックオフ

おばちゃんと呼ばれうっかり返事する

あと10年ラケット握り走りたい

神戸市 敏森 廣光

瀬祭を書けるし飲める大丈夫

神戸の五月楽車だんじりの音風に乗る

五月のバラためらう僕の背を押す

私も妻も七十年ものヴィンテージ

幾つになっても邪魔をしてくる正義感

神戸市 富永 恭子

抜けていく髪に未練の白髪染め

身を守る術を覚えて句を迷う

核心を突けばロマンが遠ざかる

生真面目へ魔が差すという落とし穴

握る手を信じカイトは舞い上がる

神戸市 能勢 利子

新大久保圧死しそうな人の波

東京では渡りきれずに赤になる

並ぶ列きちんきちんと美しい

富士山見え旧友ふたりにも会えた

四年振りの旧友の背も丸かった

神戸市 松倉 正美

過疎の町此見よがしに武者幟

二刀流晩酌済んで柏餅

なめたらあかんカメラは全てお見通し

ミサイルを父子で楽しむ変な国

ヌーママも良いがショーヘイママも見えて見たい

神戸市 山崎 武彦

筋通す男と飲むと肩が凝る

黙祷の一分ぶれず立てますか

飴と鞭使い分けてる子の躰

一日を二食にしてもラ・フランス

ほんものの愛は確かめ合わずとも

明石市 梶谷 和郎

トンネルが長い誤解はまだ解けぬ

絵も余白残した方がいらしい

うるさいがみんな生きてる音なんだ

人が好き仕種さが好きで憎めない

日溜りにほろほろ溶かす冬のウツ

芦屋市 荒牧孝子

尼崎市 羽奈和子

調子者ほめられ育つ私です

好きな人きつと会えるよあの世でも

図書館でハッと横顔亡父かと

古いぬようプライドずつと捨てません

真面目に生き怖いものない我が老後

芦屋市 新阜義明

シウカツの就終あなたどちら派で

比較する他人よりまず過去自分

成るように成るしかないよ座る腹

丈夫安作業衣料の年金者

登れずもキリマンジャロはコーヒーで

尼崎市 近兼敦子

ピカソ展わからないけどおもしろい

二十年前のそば屋に手をたたく

ビル風に慣れてないので地下潜る

スマホでピッ便利さ知ったお支払い

子のお古ハイスベックなパソコンで

尼崎市 永田紀恵

女より女の色香出す女形

イケメンを見ると乳房が上を向く

母を捨て女に還りたい時も

独り居は女の方がサマになる

モト彼をスマホに五人飼っている

口紅の広告も出たこれからだ  
鏡見る時はほほえむことにする  
歎異抄ひらかないまま逝きそうだ  
おばちゃんでも合うヘルメットありますか  
酒タバコ知らないままに死ぬ私

尼崎市 藤井宏造

勝った日の六甲風息が合う

人の靴ばかり見ている靴屋さん

雑菌がうじゃうじゃいてる抱き枕

砂時計のくびれしつかり時刻む

ロボットは人を疑うこと知らず

尼崎市 藤田雪菜

血圧は測定場所で大差ある

桜散る別れの音をしのばせて

検査値を気にし節句に柏餅

連休も体力維持とジム通い

懐かしい歌しつかり昔連れてくる

尼崎市 森菊江

一人ぐらし無理になったと友ポツリ

コンクリートの割れ目に育つのも運か

明るい日差し家具の汚れを指摘する

心配するな子離れしてと十九歳

信号待ち個性の見える車間距離

美容院頭も口もすつきりと

尼崎市 山田 厚江

三年ぶり会った友達老けていた  
お爺さんツープロックで仕事行く

へこんでもすぐに復元できる嫁

妻が居るおかげで僕も生きられる

加西市 山端 なつみ

バス路線無く自家用車だけが足

市の中心地空気を運ぶバスもある

認知機能検査はちよっと自信あり

目的地へ自動運転車が欲しい

空を飛ぶ車で見たい晴の富士

川西市 山口 不動

遅く来て厚化粧なる八重桜

老夫婦見かけなくなり「売家」に

山藤は天女忘れたイヤリング

田の水は八十八夜数え張る

ありがとうそして皆様さようなら

三田市 足立 つな子

しあわせをこの手でつかむ川柳会

花を愛でみどり豊かなこの住み処

風青し足もかるやか新学期

仲よしの手をつないでる新学期

手をつなぐ母も園児もおしとやか

希望とはこんな色かな柿若葉

三田市 稲角 優子

メールから君が翼をくれました

許されて許して愛は深くなる

合鍵を返し涙も捨てました

運だつて一途な努力きつと好き

三田市 上田 ひとみ

欲しいものあんなにあつた若かった

声が出るだんだんやる気起きて来た

母の日は母になれた日アリガトウ

幸せは私の決めることだもの

こんな夜は眠らなくてもいいのです

三田市 大西 重男

朝飯は不味くないけど美味くない

今日一日どう過ごすかとバラに聞く

マスクするしない判断風まかせ

棲みついたイライラ虫を飼い馴らす

ライバルに今日のところは花持たす

三田市 九村 義徳

暇ができ財布を見ると空でした

W杯夢を見させてくれました

アラートより先にミサイル飛んできた

制裁という名の網は穴だらけ

相槌を打つが本音は見せません

三田市 住 吉 美和子

子供の日柏もちよりバーベキュー

背くらべしてた兄姉もう故人

大笑い楽しんだ日は夜ぐっすり

都会っ子うぐいすの歌に大感激

連休は緑の中でリフレッシュ

三田市 多 田 雅 尚

少子化に鯉のぼりさえ見当たらず

三歳の孫も覚えたプーチンを

戦いを止めればきつと五月晴れ

家庭ではナンバー2が僕の席

国境も知らぬと黄砂風任せ

三田市 野 口 真桜子

義理チョコと言えどそこそこ嬉しがる

よろず屋をコンビニと言うおらが町

このハーブティー沐浴剤と同じ香だ

簡単な道が楽とは限らない

縁側でとろりばあちゃん眠り姫

三田市 堀 正 和

律儀だな今年も黄砂やつてきた

日本晴れどこで戦争などしてる

予定などないが毎朝髭は剃る

朝昼晩残さず食べるのがノルマ

鉄棒で背筋を伸ばす散歩道

三田市 村 田 博

現金は無いがポイント貯めてある

ビールの泡消えても続くコマージュル

変わっても変わらなくても出る不満

二重三重殻を破って出る本音

幸せだプータンカレー食べたから

高砂市 松 尾 柳 右 子

目に青葉喜怒哀楽を包み込む

発散をするカラオケの共白髪

何もかも娘まかせの日が過ぎる

雨の日も感謝感謝の送迎車

広過ぎる独り住居の善後策

宝塚市 丸 山 孔 一

何時までか自分で切れる足の爪

買う気無いのに一センチのカタログ

どうしても月の背中を見ると言う

妻は留守ポリウム上げて聴く演歌

黄泉の国愛犬が待つ散歩待つ

丹波篠山市 北 澤 稠 民

逝くまでにすることがあるまだ死ぬぬ

連休の団欒終り老い二人

青田風吹いて蛙の子が孵る

いつまでもマスクが売れる世が怖い

春だから少しことばの無駄遣い

丹波篠山市 酒井健二  
館くれたおばちゃん今に品がある

男の手見比べ合つて同期会

ヨッコラショ体力保持のジム通い

年とれば保守的になり嫌になる

飼いたくは無いの鬼が住んでいる

丹波篠山市 藤井美智子

今朝軽く動けるうれし般若経

連休が終わつて財布に出た疲れ

いい色を探して歩む八十路坂

ひ孫たちが家のアイドル持つ癒し

わが道を信じ迷わず明日へ生く

西宮市 緒方美津子

真つ当に生きて顔中笑い皺

二歳児の安全地帯祖父の膝

方言で話すと電話長くなり

廃屋を守るが如く燕の巣

田の水は瑞穂の国の命なり

西宮市 亀岡哲子

剪定のミニバラわつと咲いて初夏

婚約の彼を迎えるハーブティー

満月も祝つてくれている集い

江戸っ子は関西弁に笑い出す

ビンテージとボロの区別が分からない

末弟と御室の桜言葉出ぬ

ここ一番平常心の見せ所

マスク取る仲間の笑顔少し老け

改めて9条見直すこの平和

背が縮みパンツの裾をまた直す

西宮市 福田正彦

花達は今年も咲く日忘れない

進まないベンにモーター付けたいな

ジョークでも音符外せば鐘一つ

職務解けこんな自由有ろうとは

蹟いた事は貴重と調査する

南あわじ市 萩原狸月

悪口を読唇術に読みとられ

留年の息子へ予算組み直し

アナログが落着くのです老いの日日

衣裳変え仮面付け替え今日の僕

お互いの神を担いで殺し合い

岡山市 大石洋子

夢も命も預け観光バス旅行

観光バスおきているのは運転手

はしゃぐにも力がいつて餅を食う

魂を空にささげるような朴の花

元気といえば元気という筈が好き

西宮市 福島弘子

岡山市 工藤 千代子

一夜干し囓めば美味しくなる投句  
身に余るお言葉空も晴れてきた  
朝風呂でストレス洗う今日も雨  
ストレスが溜ると廻る寿司へ行く  
生きてればもう古稀ですな弟よ

岡山市 丹下 凱夫

散歩している訳などを聞かれても  
失語症かも知れないと長閑なり  
山桜いつ咲いたのか散ったのか  
バス停を賑やかにするハナミズキ  
老いるとは思ってなかった二十歳頃

岡山市 永見 心咲

慈雨甘雨あなたが笑うそれだけで  
蒲公英のゆれる角度でわらいましょ  
雲百態いろいろあるわ私も  
カーテンを開けましょロング・プレスして  
蒜山の清水の音が聞こえます

岡山市 前田 恵美子

これからもまだまだ翔んで跳ねてみる  
甥と孫どことなく似て血を思う  
父母のこと話す相手は従姉妹たち  
夏野菜待ってくれてる人がいる  
親友の優しさ触れる電話口

岡山県 藤澤 照代

矢車の音をお供に柏餅  
必着の文字に感じるプレッシャー  
わたくしの我が儘入れた冷蔵庫  
野の花を挿すと空き瓶歌い出す  
記憶力スマホに頼り錆びてくる

広島市 岸 本清

人間のエゴで地球は傷だらけ  
明日は明日今日一日を楽しもう  
いやなことほどよく忘れ楽に生き  
安全と言える所がない地球  
お茶漬が好きなの夫婦は薬漬け

竹原市 岩 本 笑子

この道を歩こう二人でもいいか  
雨ばかり今日の涙は誰の為  
鯉のほりいくつ数えたスニーカー  
桜は散った鯉のほりの出番です  
海広し鯉のほりを泳がさん

三原市 笹 重 耕三

目覚ましはOFFに余生の高軒  
よそ行きのモードに嵌まる厚化粧  
帳消しにしまししょう原発の神話  
活断層の上で胡坐を崩さない  
もうパパとは呼ばぬ参観日の子ども



岩国市 上村 夢香

名宝の声聴きたくて美術館

古都巡り忍耐力を試される

紅変えて見知らぬ街を闊歩する

さりげなく肩叩かれてはっとする

血眼でほしいサイズをゲットする

防府市 坂本 加代

止まらないこれが大事な活性化

猫車農家に一つある理由

ひとり旅本音で話す心地よさ

流行るのは二年遅れの片田舎

果てしない日常そして歳を取る

鳥取市 池澤 大鯨

虫動き山菜求め山に入る

悪意などドボンと池に沈めちゃい

生きのいい烏賊透明になって見せ

政界に透明度問う無駄なこと

パン食い競争私はいつもビリだった

鳥取市 奥田 由美

二升酒飲んで醉えない夫の留守

ポチがする待てのポーズはソクラテス

春爛漫季節忘れた花ばかり

読経より財テクうまい若和尚

擦り寄った婿にも分ける万馬券

鳥取市 岸本 宏章

年毎に遅れが目立つ腹時計

ありがたい水と空気に色がない

少しずつ実ってほしい茄子胡瓜

鳥取の目玉にしたい砂像展

スーパーの存続知事も立ち上がる

鳥取市 岸本 孝子

願わくば介護されずに終りたい

もう歳でガンと聞いても怖くない

今になり娘が一人欲しかった

冷蔵庫までも小型で事足りる

大望の普通サイズの服を着る

鳥取市 田賀 八千代

若草色まつて春と同化する

わだかまり時計の針が溶きほぐす

脳ミソが震えた今日のジャズの味

固定電話スマホの影で欠伸する

着古したラブソングです胸沁みる

鳥取市 棚田 大

講演に時計気になり聞き忘れ

時計にも生かされているありがたや

うん無事よその言葉聞き元気湧く

春もまた俺を育てる大感謝

宿題のごしてくれと孫あまえ

鳥取市 谷口 回春子

心配の種と埃は無尽蔵

キリがない心配性の爺と婆

キャツシユレスなかなか慣れぬ昭和の生まれ

お買いものママチャリ酷使筋トレだ

留守番はクロスワードと仲良しだ

鳥取市 永原 昌鼓

大好きな人が待つてる浄土とや

ヘルメット着けて自転車もう少し

胃ガン検診今年も無事に通過する

恋しくてまたアルバムを出して見る

週末はわくわく過ごす無職でも

鳥取市 中村 金祥

花開くりズムに合わせ生きている

子育てを終えてリズムが軽やかだ

都市砂漠彷徨い田舎恋しがり

悪人も喉に仏を持っている

私を忘れないでと花が咲く

鳥取市 福西 茶子

銀行は消えたがコンビニが出来た

無防備と知って空から来る矢弾

寝て待つとフレイルという客がくる

イヤな世だ回転ずしも予約制

疲れたら転べと新緑のじゅうたん

鳥取市 前田 楓花

決断は私一人と糸切り歯

いい世だな早寝遅起き平和な日

口喧嘩あなたが居ればこそできる

暗記して買物せめて三種類

山の道ナビも迷って黙り込む

鳥取市 山下 凱柳

川柳でのんびり日々の暮らし詠む

失敗に懲りずリセット繰り返す

大丈夫です認知テストにホッとする

がんばれと旅立つ孫の背を押す

感心だ翔平君の所作一つ

鳥取市 吉田 弘子

畑に出る不思議な力湧いてくる

太陽にビタミソ貰い畑仕事

マスク越し君の笑顔はすぐ解る

平和とや競い合ってる軍勢力

まあいいか今日も崩れるマイルール

倉吉市 大羽 雄大

ヨッシャと起きてそれから考える

溜め息を出して身の内軽くする

こんには晩なりましたいい町だ

お疲れさん労り今日の日が終る

背の曲り顔はせめても前見せる

倉吉市 牧野芳光

フワフワと四月の野辺に身を委す

おちおちと眠れぬ草の伸びる音

右見ても左を見ても暇だらけ

生ビール下戸の私にわからない

良い人だったと言われるために生きてない

境港市 藤原久直

小粒だがために動いて日々暮らす

高齢者ほっと一息年金日

予定なし今日は朝から五七五

八人家族賑やかだった昭和

晴れた日は心も弾む万歩計

米子市 池田美穂

ライバルはA・Iという近未来

連休に結婚式と葬式と

開店後あつという間に卵消え

オムライス包むのは無理のつけよう

薬師寺へ修学旅行以来です

米子市 伊塚美枝子

ボケたかな夫可愛く聞いてくる

食べて飲む七十路夫婦平和です

雨の日のゴルフも笑顔老いパワ―

若き日の失敗談に尾ヒレ付く

若作りしても背中に歳が出る

米子市 後藤宏之

乗り換えの効かない舟で旅をする

建て前と本音なかなか気づかない

倉庫からかかしの準備田植どき

思い切り削った鉋屑を撒く

やばい時つくり笑いで切り抜ける

米子市 後藤美恵子

目こぼしの青虫が舞い楽しめます

遊園地に歓喜の声が戻りだす

揺り籠に宝が眠るお静かに

医者の前血圧上がる初心な老い

肩で風切つてた猛者も好好爺

米子市 妹能令位子

あなたを守るって嘘だったのね

9条が守護神の座を譲り出す

見栄なんて捨ててなんぼのつかみどり

限りなく軽い同意のイイネ押す

腸が言うヨーグルトより納豆菌

米子市 竹村紀の治

散るときもよく弁えて咲く桜

おしゃれ着の下にしつかり貼るカイロ

雲行きに合わせて変える旗の色

盛り塩が屋台の頃を忘れない

忠告を肴に意地の手酌酒

米子市 中原 章子

鳥取県 竹 信 照 彦

大木を支える根っこ必死なり  
日が長くなってうれしい爪を切る  
スーパールのチラシ見比べ独り言  
前倒し母の日の花やって来た  
ちょうどよいサイズになった古い服

米子市 成 田 雨 奇

先輩が酒量が減ったと言っていた  
ズボン脱ぐ片足立ちができなくて  
転ぶ時金魚の鉢を掴んだか  
金魚死ぬ死因急性心不全  
四合の酒に酔うとは不甲斐ない

米子市 野 川 宣 子

田舎道若葉マークが突っ走る  
コロナ禍を守ったマスクボーイ捨てに  
合格だどこのお守り効いたやら  
空っぽの財布だけれどヴィトンです  
若くても許されぬことあるんだよ

鳥取県 門 村 幸 子

そう言えばとふと思ひ出すカーボン紙  
心にも薬わくわく本夢中  
用心す脚立だんだん恐くなる  
今日生きていることに集中老いの意気  
さっぱりと思ひ直してまた明日

公園のベンチに歩いては休む  
杖二本突くと体が軽くなる  
一日が元気に消える八十路坂  
あやめ池モネの睡蓮だって咲く  
公園で一人ボツンと空を見る

鳥取県 細 田 裕 花

エネルギーの塊朝陽浴びている  
極楽の住人でした9連休  
新卒の靴は東京へと向かう  
昔話多くなったと思う友  
「スーパーはくと」久し振りですピョンと乗る

鳥取県 本 庄 ひろし

人柄はお酒を飲めばすぐ分かる  
ひざ枕ものの二分で高いびき  
進まない平和な世界夢の夢  
コンビニのはしご嬉しい酒追加  
息が合い波長も合って五十年

鳥取県 山 下 節 子

内緒には出来ぬ深夜の救急車  
写メールが結ぶ孫との会話ふえ  
有線が修学旅行無事告げる  
独居とはこうゆうものか妻入院  
新築に正座をしない部屋ばかり

松江市 石橋芳山

イソギンチャク何かを隠してる気配

また来ます冷たい嘘と知りつつも

乾杯に出掛けた打楽器管楽器

肺よりも先に錆びだす脳と膝

バリケード跨いで爆弾の出前

松江市 松本知恵子

澄む空気元氣な村の鯉のぼり

芍薬の控えめ牡丹よりも好き

何か主義あるのだろうか残り鴨

カーネーションあげる幸せ母がいる

新緑が溢れ生命力貰う

出雲市 伊藤玲峰

コロナ去り童等の声弾んでる

先生もみんなに会えて元氣出る

通学路小川のメダカ列組んで

八十の友は痴呆が出たらしい

苦勞があり早く痴呆になったかな

(前月分) 大阪市 大川桃花

出馬するたび所属政党かわる人

日本を飲み込みそうに来る黄砂

もうシャガの頃かと野山懐かしむ

ローカル線の待合室にお座布団

ワンテンポ遅れた詫びへすきま風

(前月分) 大阪市 宮崎シマ子  
夕陽沈むおにぎり三つ持たせよか

嬉しいな何の御用かベルが鳴る

それはそれは可愛いヘルパーさんもある

白い特急が窓際走るのりたないな

靴も片減り消しゴムも片減り

### 「川雑」語録 ②

## 技巧の問題

出で  
口ぐら  
雨あめ  
町まち

母親の氣樂になつてどつと老け 狂雨

右の句をかりに「母親は……」とすれば普遍的になり、「母親が……」とすれば限定的になる。そこで作者は「の」を用いたのである。この「の」は「川柳的トリック」とでも云ふべき特殊な文字であつていはば「上五」「中七」を作る為、或ひは句語の聯絡の為に使用されるにすぎないのである、言葉をかえて言へば「女親氣樂になつてどつと老け」とやつても意味に変わりがないと言ふのである。だからこの「の」は普遍的でもなく限定的でもない漠然とした処を言ひ表はすのによく用ゐられる。

(「川柳雑誌」昭和5年1月)

# 波稜草の花

⑦

## 野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

### 七十七伊達や酔狂で生きている

藤井宏造

川柳人のあり方としてこうあるべき、そんな覚悟の感じられる句。伊達とは、おとこぎを示そうとすること。酔狂とは、物好き。と辞書にあった。どちらも、どう転んでも金持ちにも偉い人間にもなれない。しかし矜持をもつて背筋を伸ばし胸を張って生きてゆくのだ。たとえ、しよつちゆう妻に叱られても、小銭を落としてくよくよしでも、だ。七十七歳、まだまだ若い。

### 狂い咲きとは違いますひとり咲き

北山 まみどり

この句も覚悟の滲む句。狂い咲き、ときどき秋に桜が咲くことがあり、きれいではあるがどこかはかない。でも作者のいう「ひとり咲き」は、こんな狂い咲きとは違うだろう。青春から遠く離れてしまった、しか

しその時よりも輝くのだという覚悟。咲くためのエネルギーなら、たとある。川柳というエネルギーが。

### 嫌われても杉懸命に花咲かせ

山口 美穂

春が来てほっとする間もなく、飛散してくる杉花粉。好きな人は誰もいない。でも杉だつて木であり花を咲かす。桜と全く同じはず、ただ懸命に生きているだけである。そんな杉にもわれわれ川柳人はしっかりと目を向けるべき。

### 被災地に被害押し付け汚染水

近藤 正

政府はフクシマの汚染水を、海に放出するという。3・11から十年以上過ぎているが、フクシマを全く制御できていない。ある人は、原発事故ではなく核災だと言い換えている。単なる事故ではなく大きな災害であることを忘れてはならない。汚染水を放出すれば、福島海は一瞬にしてフクシマの海になるだろう。フクシマを見つづける姿勢が川柳人には必要と思う。

### 怪談は怖くない街にあふれてる

酒井 健二

「怖くない」で切れる句。怪談がただ怖

いだけでなく楽しいのは、結末がわかっているから。しかしこの句の、街にあふれている方は本当にコワイ。殺人・詐欺・強盗などなど、結末がわからず、何よりいつ自身にふりかかってくるかわからない。貞子さんやお岩さんは、まだまだ可愛い。たまに川柳大会にまぎれ込んでいるかもネ。

### 葬儀場一年前はラブホテル

太田 省三

穿ったような句ですが、たぶん事実を素直に一句にしたいと思います。僕の住む青森市でも、歓楽街の一面が、コロナで騒いでいる間にセレモニーホールになっていました。街の様子は日々変わってゆきます。おそらく川柳をしていなければ、ただ見すごすだけでしょう。この句は川柳眼で捉えた鋭い一句です。

### お宝はあるかと聞いてくる電話

野川 宣子

この句も川柳眼で掬いあげた句。何度か我家にもかかってきました。あるはずないんですヨネエ。いやいや、よく考えてみれば、僕自身がそして妻が一番の宝。今度かかってきたら、そう言つてやりましょう、一円にもならないと思いますが。

## 英語 de Senryu ⑬

麻生 葭乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

へちま へちま ここは行水するところ

*scrubbing loofah, loofah,*

*this is the place*

*I wash myself in the tub*

木綿着の心安さよ子と眠る

*in cotton wear*

*I sleep peacefully*

*with my lovely children*

---

*scrub* こする *loofah* ヘチマ *place* 場所 *wash oneself in the tub* 行水をする  
*cotton wear* 木綿の衣類 *peacefully* 安楽に *lovely* 可愛い *children* 子供 (child) 複数形

---

～リバーウィローのため息～㊦ 郡山直<sup>なおし</sup>(東洋大学名誉教授)先生の創作活動④

沖縄、喜界島出身で現在、96歳の郡山直先生は年を重ねるごとに創作（日英詩、日英短歌）への闘志が漲ります。「今日は君が地上で生きることのできる唯一の日だ」の一部を紹介します。

今日は君が地上で生きることのできる唯一の日だ / 君は昨日をもう一度生きること  
はできない / 君は明日を前もって生きることもできない

だから 君は今日の この瞬間 / 今朝の新鮮な空気を / 君の肺の最深部まで / 吸い  
込め / 君は今日の この日を / 嬉しい心と穏やかな精神で生きろ / 昨日の間違いを気に  
せず / 一昨日の栄光も考えずに

*Today is the only day that you can live on Earth./ You can't live yesterday  
again./ Nor can you live tomorrow/ In advance.*

*So you inhale all the fresh air of this morning/ To the innermost part/ Of your  
lungs/ At this very moment.*

*You had better live this very day/ With a happy heart and a mild mind./ Never  
thinking of yesterday's mistake./ Nor of the glory of the day before yesterday.*

# 誹風柳多留一二三篇研究 35

細井 龍夫・伊吹和男

高野 範雄・山田昭夫

小栗 清吾

清 博美

280 朝おきをして老人ものてれて居ル

細井 一人者だからとて何時も朝寝坊とは限らない。早起きをすることもある。しかし早ければ早い、近所のかみさん連中に「おや、今朝は早いお目覚めで。倅さんは元氣かい」などと寄つてたかつてからかわれるので大いに照れる。独り身はつらい。

一人者目のさめる迄うなされる 五四44

老人もののかみさんたちになぶられる

二二21

小栗 賛

への子から朝おきをする老人もの

安八仁5

近所のかみさん連中を登場させないで、へ

の子の朝起きを一人で何となく照れているという光景の方が好きだが、そうは読めないかな。

清 一人で何となく照れているのである。この句に第三者を介入させては、その面白さがふつとんでしまう。からかわれたからではない。小栗説は鑑賞の範囲で……。

281 あたりを払ふ出たちへかごいかご

細井 四手駕籠の多くは火の見櫓の下などに陣取つて、遊里行きの客待ちをしていた。今様のタクシーの溜まり場だ。そこへ辺りを払うような立派な身なりのきんきん野郎が通りかかれば、目ざとく見付けて、「旦那、旦那。かごいい、かご。駕籠に乗つてくだ

せえ」と駆けつける。

清 賛。もし旦那／＼と四ツ手かつちかち 二四13

282 十ツ手のゆびさすハこころまちといふ

細井 『大学』の「十目所視、十手所指、其巖平」の文句取で、誰が見ても間違いなく素晴らしい遊女が馴染客を心待ちにしている、というのか。それとも、絶世の美女であるあの遊女を一体誰が揚げるだろうかと期待一杯に眺めている素見連中か。いずれも張見世の情景。

うれのこりげに十目クの見るところ 二二28

十の目をはづればた餅店さらし 舊二19  
伊吹 両説考えられますが、どちらかと言えば前説に賛。

高野 張見世に絶世の美女なんていますか。引用句③と同じように解釈しましたが。

山田 ②に賛。心待ちは「心の中で期待しながら待つていること」(「日国」)。

なお、「張見世に絶世の美女なんていますか」とのことですが、張見世の正面中央には毛氈を敷いた席にお職が坐っていますから、「絶世の美女」かどうか分かりませんが、



高級女郎である事は確かです。

小栗 「心待ち」の意は山田兄のいわれる通りで、吉原句の場合、前説のようにしか読めないと思う。でも、何が面白いか今一つわからない。並の連中はお呼びでないというとか。事實はともかく、花の吉原の三分は絶世の美女です。

清 賛。

### 283 三ツぶとん坊主禿のかたをこし

細井 三蒲団は三枚重ねの最高級のもの。大尽客は遊女に無心されることが間々あり、その敷初めの折の情景だろう。坊主禿は六七歳の幼児だから、三尺以上もある三蒲団と丈くらべをしても負ける。

敷初めの夜具と禿ハ丈くらへ

五四 10

三ツふとんよつ程天へちかくなり 二二 28

高サ三尺あるふとんなり

安九礼 3

清 賛。

### 284 三みせんのみね打チわるい御酒のうへ

細井 おそらくお留守居役の面々の宴席でのことであろう。酒の上とはいえ三味線を弾いている芸者のお尻をちょいと抓ったの

で、三味線の撥の手に持つ部分で叩く真似をした。その実、これで転びの稼ぎが出来る、と喜んでいるのかも。

三みせんハあいつけたりとばちてぶち

一八 14

三みせんハよそうかねへとぶざけ出し

天七豊 1

高野 賛。三味線の峰打ちがわからない。礎稿のようなことなんでしょうね。

山田 賛。撥の峰、つまりグリップエンド

で打つ真似をする、ということですよ。

清 賛。

### 285 こわくないおやから貰ふみたらい

細井 女性が婚期に及んで初めて鉄漿を付けてお齒黒にする時、親族や知人の中から福徳な婦人が鉄漿親に選ばれてその世話をした。実の親ではないので恐くはない。その恐くない親から鉄漿付け専用にと両端に柄のついた耳盥を頂戴した。初鉄漿のお祝いにくれたのだろう。

高野 賛ですが、「恐くない親」がわかりません。

山田 賛。「恐くない親」を含む句は、本句しか管見に入りませんので、確かなことは

いえませんが、礎の解でよいと思います。即ち、鉄漿親。

清 賛。鉄漿親は、実の親ではなく叱られることもないので、恐くない親と表現したまでのこと。

### 286 男ハの式文もないと出合茶屋

細井 激戦を終え、精力を使い果たして蛻の殻のようになって帰って行くペアの男を見て、出合茶屋は評して曰く、「あれは酷い。すっかり搾り取られて一文の値打ちも無くなつてしまったわ」と。男は一文も持っていないとも。

ありつきり男をしぼる出合茶や 安七仁 4

出合茶や男ハ半死はんしよなり 安四信 7

女の跡トからよわりはてたおとこ

安六宮 3

山田 「あの男は、二文の銭も無い奴だよ」と出合茶屋が言っていると思つていますが……。

秋おまへ出シなと払ふ出合茶や 明七宮 2

小栗 山田説の如く解すべきか。

清 同。女に連れて行かれた男。さんざんに奉仕させられる。男はその機能上辛いのである。そのかわり支払いは女。

# 自選集

小島蘭幸

嵐の中に池田勇人の像がある  
バレエとバレエ個を大切にして姉妹  
ふたりなら無敵と思う旅つづく  
昭和からふわりと舞って来た螢  
昭和邂逅今てのひらに在る螢

森山盛桜

媚売らぬ自信は食パンの四角  
道管の途中で呆気なく迷う  
生きるなら回転印の律義さか  
数式のゼロを侮ってはならぬ  
迫り来る軍靴と大量死の魚

薫風さんのこと

八木千代

「どこへでも出向くからな」と電話口  
ずっとやりとりした ありふれたハガキで  
「弟子になつてくれ」と乞われた藤の寺  
枯野から電話 枯野の声絶え絶え  
花吹雪桜となつて散り給う

山本希久子

浮雲のさだめを生きてきた米寿  
スマホ無言のままなり外は雨  
魂の抜けた私をもて余す  
念ずれば届く願いだ怪我快癒  
師の叱咤聞く乱丁の頁から

居谷真理子

縄ばしごゆらゆら夢にまだ遠く  
ふところに青の時代のその欠片  
四月尽黒いブラウス捨てました  
こんなにも海に水ある恐ろしさ  
恋つてさ保湿効果があるんだよ

川上大輪

年寄りの言う事だから信じよう  
寺社巡りみんな欲張りなんだから  
深呼吸吸ネジをも一度締め直す  
その指に止まると二度と戻れない  
野次馬になつてしまった好奇心

北野哲男

拝殿へ寄らずじまいの花の宴  
十連休孫は電池切れならしい  
長幼の順序を死語にしたスマホ  
ダイヤ婚回転寿司で祝われる  
この次はメダカにしようを聞いた猫

木本朱夏

もしも もしも もしもと雨は降り止まず  
浪費した若さを惜しむ茜雲

懐かしい景色 父居て母が居て

あのときの父母の哀しみ今にして

茫茫とわが来し方は風の中

新家完司

ハンドルを握り「こっくり…」命取り

10分もウトウトすればシャンとなる

年金でせめてウクライナへ募金

アマリリス我が家で咲いてしあわせか

雨が降る夜は寂しい早く寝る

高瀬霜石

時価なんて書いてあるから見ないふり

串揚げ屋キャベツで腹いっぱいになる

テレビから得るものすこし料理など

ロールキャベツって大人の味だねえ

ラーメンもカレーも食えるから元気

津守柳伸

五月晴れ 掃除洗濯トレーニング

外出は控え GW テレビ漬

初物の西瓜母の日教えられ

足音へ金魚8匹寄ってくる

郵便は来ぬ連休に運ぶ足

西出楓楽

色々あつてつまるころは現在地  
空澄んでおためごかしが通じない

お日様がよいしょと昇る朝もある

五体脳現状維持をしたいけど

梅田へ行くとびおのほりさんになる

仁部四郎

入院や自分史まさに走馬灯

入院や嘘の吐き方また一つ

入院ややはり読めないカタイ本

入院や時計はちゃんと合っている

入院や窓の外には四季がある

平田実男

抜擢と思っていない東大出

挙式から六十五年光陰で

中味より宅配料が高うつき

遠くても私と分る歩き方

会長が顧問の僕に気を使う

福士慕情

嬉々として葦原さわぐ春の川

葉桜がやつと祭りの疲れとる

季の移り雷様が幕をあけ

立夏という猛暑の後の寒気団

岩木山の雪は黄砂に負けてない

藤村 亜成

とことん付き合うよ嬉しい日 哀しい日

起こさぬよう毛布そつと掛けてやる

氣付かぬよう小遣い少し足しておく

やさしさが僕にはいちばん良い薬

犠牲者をどこまで出せば済む戦争

松本文子

ありがとうこわれた心癒やす花

咲かぬまま又この道を帰るのか

耳鳴り続くくらの叫び聞いた夜

加齢と共に多くなる負の遺産

手を振ったがさよならは言わぬ

三浦 強一

嬉々としてデイケアへ行く妻の春

撮り鉄の涙廃線ラストラン

応募にはIT作句禁とあり

死語となる車粉に代わり黄砂降る

草野球親の目に皆オオタニさん

三宅 保州

マドンナの最たるものはかぐや姫

冗談も飛び交っている回復期

将来性有望という荒削り

曾祖母の名が刻まれた鯨尺

他人から見たら気楽な倦怠期

村上 玄也

下火でもコロナから目は離せない

2類から5類脅威は変らない

知らぬことすべてスマホに頼つて

高機能ほど狭まって行く使い道

ランドセルが歩いているよう一年生

「川雑」語録 ②

初心者に与へる

大谷 五花村  
おおや ごかそん

凡そ川柳を素人に強いて見ると必ず、川柳らしくと願つて却つて川柳にならず狂句に墮する事、殆んど万人が万人である。所謂概念句の大部分となるのである。かくて自分自身の真の叫び、真の詩情を言ひ表はす事なく虚偽の文章のハシ切れを構造せんとする、憐む可く、噴飯の沙汰である此等素人の観念を絶無にする事が吾人川柳家の責任であり務めでなくてはならない、而も概念でもいゝ、素人でもいゝ、暫らく作句を続ければ、其処に真の人生詩を見出だす事は訳はないのである。初心者よ大胆に、勇敢に作句し給へ、先輩も先生もないのである。

（「川柳雑誌」昭和11年3月）

# 森の集句



## 『鉄道草』

山<sup>やま</sup>田<sup>だ</sup>季<sup>き</sup>  
賛<sup>さん</sup>

バスの窓田植も済んだ水の色  
夜桜をぬけてパチンコして戻り  
貯金とは蓄らぬもので一家無事  
お隣の子は本当を言うてくれ  
機関車へ貨車ぞくぞくといいて行き  
コマギレの予算半端な橋が出来  
二本立終れば静か外は雨  
早朝を夜逃げのように宿を出る  
エンコしたバスの車窓へ蟬が鳴く  
前任者呑み助だった話聞く  
生前がほうふつ眼鏡置いてあり  
そよ風がここまで来てた牛が鳴き  
女房の手編みやっぱりあたたかし  
出勤を隣の犬に見送られ  
影法師今日の自然へ逆らわず

(昭和52年6月19日発行、竹原川柳会)

## 温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

文豪という語がありき漱石忌  
米寿には米寿の演技 笠智衆  
男なら投げられた餌は拾わない  
三冊の辞書を調べてきた自信  
見る人によつてメダルの裏表  
何もせん日があつたかてええやんか  
清貧と愚直に生きた父の墓  
冷や酒は男の涙知っている  
新世紀生きるつもりの土ふまず  
高倉健に似た人に逢う北の町  
目立たない人がトップに選ばれる  
さあという時にはいない責任者  
しなつくる観音もあり春の寺  
中年がみんな抱いてる不発弾  
貫禄がついて影武者おろされる  
清流に棲んで大魚をうらやまず  
言い負けてわら人形は灰になる



木 本 朱 夏 選

大阪府 岡 田 恵 子

ネモフィラとしばし初恋談義など

スキップができないままでおばあさん

金平糖いろとりどりの恋ばなし

ハッシュタグに群がる淋しがりやの蟻

幸せを詰めた鞆の鍵がない

隠したいさけだしたい胸の奥

しがらみを断ち切りひとり行く荒野

尾道市 小 川 道 子

ゆつたりと自分らしさで居れる椅子

浅瀬で雑談ひそひそ雑魚の群れ

一歩ずつ今来た道が遠ざかる

青天に熱き言葉の矢を放つ

寡黙だが心で通じ合う絆

ゆつくりと翼やすめて明日を待つ

貝塚市 吉 道 あかね

自然治療 傷舐めながらなめながら

頼杖をしたまま春を見送った

後期高齢ぐずつく天気多くなる

朱を足してみても淋しい色である

ネモフィラの海天国のひたちなか

一面の青に私を解き放つ

大阪府 森 田 遊 子

誰そ彼と問えば貴方が振り返る

哀しみは言葉にできぬ青い霧

木の葉持ち狐狸に弟子入りしたい夜

渴いてる私にわか雨が降る

厭いつつ悠か黄砂の旅想う

大阪のオバチャンという隠れ蓑

山口市 中 前 幸 子

大河滔々小さなことにこだわらぬ

街のカラスは人間が好きらしい

チョコレート誰の噂もしてくれぬ

わたしが私でない日メイクを忘れている

錆のきた思考背伸びはもう出来ぬ

荘厳なフィナーレ夕焼けの鼓笛隊

大阪市 森 廣子

優しさが葉の様に浸みて来る  
楠の木と無垢な心は折れ易い  
恋や愛心を寄せる花言葉  
思ひ出は朧の月に閉じ込める  
螢火が寄りそつて来る三回忌  
冷静にマグマを貯めている女

佐賀県 真 島 久美子

意思疎通して紫陽花になつている  
無限などないから泣いていいんだよ  
じゃんけんのとつても平等なハサミ  
シャンパンの栓が宇宙へ行きたがる  
黒魔術なんて知らないカラス達  
生意気な犬のおやつを買いにいく

加古川市 石 賀 邦 子

もう一度逢いませんかと留守電に  
心地好いおだてに乗つてこいのぼり  
何もかも変わる予感の午前二時  
狙い目は半歩はずして隅の席  
懺悔録そつとあの世へ持つて行く  
世界には平和知らない子等もいる

神戸市 村 松 久 江

怒るには気力体力まだ足りぬ  
理屈っぽいあなたの話スルーする  
譲り合い押し付けあつて元の位置

人生のレース半ばの小休止  
食欲で哀しみ癒やし良く眠る  
運だけは良いと信じて生きている

倉吉市 若 松 由紀子

盗まれて困る物などない我が家  
不足なし雨風しのぐ家がある  
荒れ放題先祖に詫びる家田畑  
遊びすぎ足腰いたいとも言えず  
掃除機よりパツパツアと手帚で  
歳重ね亡母と同じ顔となり

高砂市 裕 木 る い

貴方にはあなたの神がいて濃霧  
余命宣告蜘蛛の巣からは逃げられぬ  
恋をして太り失恋して太り  
振り向いて欲しくて落とす羽根ひとつ  
意地張つてみても流れる砂時計  
流されぬように浮輪を持ち歩く

尾道市 村 上 和 子

ときめいて風の一押し待つハート  
合鍵を渡すと逃げた恋ひとつ  
八起き目でやつと何かを掴んだ気  
半額を粹なお皿に盛り付けて  
Mサイズ吊るして励むダイエット  
くちびるに紅の花咲く脱マスク

尼崎市 八木 幸彦

あの時に許せなかった悔い残る  
夫人から訃報無言の電話口  
反論を書く筆先が失りだす  
代走を頼みたくなる腰の張り  
師のハグは免許皆伝かもしれぬ  
不協和音ばかりモンクのソロピアノ

東大阪市 青木 ゆきみ

忘れ物届けてくれる父でした  
病室に笑顔が戻る笹飾り  
子や孫の生まれ日避けて父が逝く  
蠟石で路地に描いた絵希望だけ  
初恋はメンコ交換した相手  
マンションが建って秘密の路地なくす

泉佐野市 檜葉 良子

正義勝つ時代劇見て憂さ晴らす  
その答弁誰も納得しませんよ  
女子会に違和感のない爺がいる  
こんなにも脆いと知った普通の日  
思い出に色付けしゃべる老いふたり  
風向きに合やす自分がイヤな時

柏原市 神崎 江

夜をてらす桜と君と風の音  
ジーンズの色落ち青春の軌跡  
休もかな朧月夜の砂時計

亡父の歳超えて迎える誕生日  
手探りで生きておりますお亡母さん  
隠れんぼしているような君の愛

吹田市 岩口 のぞみ

食事会親戚集い背比べ  
夏までに肉の浮き輪を脱ぎ捨てる  
口紅を選ぶ楽しさまた来たる  
どこ痛い不調自慢で盛り上がる  
自粛した日々取り戻せ西東  
旅立ちを前に心に羽が生え

大阪府 奥野 健一郎

飾ってるだけで和みをくれる書架  
流行を追わずサイズはゆったり目  
戦争よりずっと増しだろ平和ボケ  
泥かぶることはへっちゃら蓮の花  
くどいほど説明聞けどメカ音痴  
決心が揺るがぬように言い触らす

三田市 馬場 貴美江

ブランドの春のコートはへそくりで  
瓶の中へそくりコイン五万円  
あなた誰認知の母をいとおしむ  
年金の枠はみだした物価高  
電飾のきれいな花は風を呼ぶ  
夫が待つ西方浄土まだ彼方



三田市 松下英秋

投げたボールくわえてもどる犬の無駄

この春に遅れてデビュール花粉症

ロビンギャの子キラリと光る誇り見せ

うるさいが草刈りもする高齢者

笑いつつ老いの苦勞を語り合う

待つことも味わっており旅名人

和歌山市 北原昭枝

いくつもの出会いと別れ流れ雲

描き直すデッサン夢を追って行く

屋根裏にまだ残ってた子供の絵

新聞のコラム読んでは知る世界

老々介護ここまで来たら最後まで

来た道を辿る足跡会者定離

和歌山市 定松宏枝

二重丸付けてアピール誕生日

ケーキなど食べて家族の誕生日

頼り無いわたしに頼る人は夫

何げない日常が好き豆ごはん

巣ごもりもマスクはずしてスニーカー

あれこれと箇条書きする遺言書

和歌山市 まつもと もとこ

国境に色とりどりの薔薇と棘

下心蹴り上げ地球ひと回り

七月の風に誘われ一人旅

あかんやろ遮断機こえて撮る写真

計算は早いがお金貯まらない

頓服を持つて戦う平和な日

海南市 山中閑

れんげ草無邪気なころの腕飾り

ネモフィラの空色こころ癒やすいろ

スベシヤリストの飽和潜水いのちがけ

鉢合わせ猫もわたしも身構える

御先祖さまおもいめぐらす百回忌

さすが産地車窓みかんの花盛り

和歌山県 三枝眞智子

ふる里は雨に煙って病んでいる

老木の執念風を受け止める

日本の窓を開ければ富士が見え

空き家にも花の命は遅しく

冗談の一つも言ってみたい石

翔び過ぎるあなたにリズム狂わされ

鳥取市 狭武紫陽

子供の日風の子だった誕生日

嬉しいかさて悲しいか六十五

六十五まだ見ぬ空の戸は開く

熟女四人はしゃいだ後の疲労感

マイブームゴミだけ残しどこへ去る

蹴躓き一人笑って一人泣く

米子市 川 本 美津子

膨らんだ希望も今は夢の中  
猫2匹夫と私の潤滑油

我が家知るツバメ今年もやって来た

思ひ出は断捨離出来ぬ胸の中

膨らし粉増えて噂が止まらない

テレビ見て得よ旅行気分を少しだけ

福山市 新 庄 芳 春

庭いじり私の居場所ここにあり

雑草が生きる生きろと散歩道

桜散る我慢するのはもう止めた

戦争にコロナそれでも花が咲く

不発弾抱えたままで花愛でる

一番の花はやっぱり妻だろう

大洲市 花 岡 順 子

人間の欲がポイント溜めている

カラフルなマスク外せば高齢者

手も口も前頭葉もそれなりに

神さまへ通りすがりの手を合わせ

待ち時間クロスワードを持って行く

お茶摘みが三連休の仕事です

松山市 郷 田 み や

草引きは気分転換いい時間

庭の草スマホに名前聞いてみる

柔らかな新芽と会話したくなる

札状は直ぐのつもりがもう五月  
元気ですと今年もそら豆が届く  
連休は集まる食べる笑いあう

宮崎県 恵 利 菊 江

読み辛いひらがなばかり欠伸する

しつかりと布石を打ってゆくあした

見開きのページに意欲立ち上がる

静寂が遠い汽笛を呼び寄せる

腹立ちを眉間の皺は物語る

不義理して誰も咎めぬ筆不精

横浜市 巖 田 かず枝

広島に世界の人を招きたい

食前の薬なぜだか忘れがち

夫コーヒー妻は紅茶のおやつ時

朝ドラに植物採集思い出す

牛肉は長寿の秘訣らしいです

データーを医者に褒められ飲んでいる

船橋市 中 嶋 常 葉

残り火を燃やしてそよ風が誘う

ときめいた色に染まらぬ白い画布

好きだからグラデーションのラッピング

狂おしい恋も今ではモノトーン

デッサンで終る束の間の出会い

ひたひたと音程狂う息遣い

鳥取市 上山一平

ファンファール八連休も先ず近場

連休の砂丘を埋めた県外車

大砂丘らくだが人を蟻にする

風かおる早くも熱砂四十度

さらさらと無心にはずむしゃぼん玉

鳥取市 大前安子

終活を部屋の真中で思案する

あっそうだ生きざる為の屈伸を

手足まだ動くが頭振つてみる

スニーカー買ったばかりだ遠回り

人様の台本だから歩が合わぬ

鳥取市 山野すみれ

君との間透明な橋架ける

褒められて柱の傷が消えました

あの頃をしゃべる柱の背くらべ

電柱の上でカラスのひとり言

ハクシヨンに合いの手入れるホーホケキョ

倉吉市 宮田風露

春うらら出合い頭に嫌な蛇

葉桜の間に可愛いサクランボ

窓開けて鉢合わせしたごきぶりと

夜遊びが過ぎるごきぶり追い詰める

やって来た洗濯日和青い空

松江市 中筋弘充

八月十五日母が負けたと笑つて

八月十五日もうB29は怖くない

父帰る母がとっても嬉しそう

大の字になつて昼寝ができた夏

マドンナと遂に踊れたクラス会

松江市 山根邦代

久々の電話を受けて安堵する

背中おす友のおかげで作句出来

夢の中サッサと歩く自分いる

寒い朝離してくれぬ布団なり

カクレンボ上手でこまるさがし物

安来市 原徳利

気持よく脱いで飛びたつ黒揚羽

ジョンガラの口三味線のリハビリ

普段着の着こなしうまい桜草

腰かがめ九尺藤の花のれん

バリバリと煎餅打線は沈黙

美作市 岡本余光

ご好意を素直に受けて老いの礼

あとがない心の準備黄泉の旅

行く道を外れぬように黙々と

慎ましく生きて逝くときさわやかに

神仏に真心だけを申し上げ

広島市 田 桑 恵 子

五月晴れ小さな庭でバーベキュー  
逆転打一気上がるボルテージ  
外出着迷ってるのはまだ若い  
待ち合わせマスクの顔に紅を引く  
車から手を振っている知らぬ人

広島市 松 尾 信 彦

百歳を目指しはかない杖ぐらし  
土曜日は赤いポストも充電中  
義理チョコも孫からひとつ進む古い  
川柳で耕しほぐす古い傘寿  
たけのこを催促したよなハガキの絵

広島市 森 田 博 之

お互いを繕い合って今を生き  
先に逝き早くおいでと額の猫  
お名前が浮かばないまま興に入る  
人生のイフを問うてる転車台  
朴念仁をその気にさせる片えくぼ

尾道市 小 畑 宣 之

耐えて生きる神も仏もきつという  
旨い話危険な匂いに近付かず  
八十路坂危険信号数多し  
八十路坂短い未来遠い過去  
懐かしい鉄腕アトムカムバック

竹原市 <sup>あに</sup> 土 井 輝 恵

こんな世になると解っていたか亡兄  
ヘルメット製造元が間に合わぬ  
子を持って大人になって行く孫よ  
思い出の酒蔵を観る朝ドラマ  
なれるとは思わなかったヒイバアちゃん

府中市 岸 田 武

詐欺だなどと思う電話も丁重に  
茶柱が立って会う気になってきた  
ああこれが唐三彩か眼を寄せる  
ちゃらんぼらんのようで隙はない  
ありがたい昨日と同じ朝がきた

唐津市 前 田 廣 幸

合の手の「あゝそれぞれ」の物忘れ  
夢叶い嬉しさよりも安堵感  
後期入りメトロノームもアンダンテ  
金額に合うた店主のお見送り  
ランドセルカネは爺やが背負ってる

豊見城市 あ ら さくら

スマホ手に世界のニュース早わかり  
失敗を重ねた結果日が当たる  
里帰り移住者増えてここはどこ  
巻き返し孫と競って脳トレだ  
右させば左へ曲がるあまのじやく

富士見市 中 島 通 則

こどもの日今年は兜売り切れか  
AIに答弁させて居眠りも  
父さんの遺影はいつも恵比須顔  
知らんけどT i k T o kの甘い罨  
甘党がダイエツトする休甘日

横浜市 加 藤 佳 子

地震慣れ揺れても起きる気配無し  
神仏に祈るしかない体たらく  
八十路でもこの世は楽し文句無し  
紫陽花がもう咲いている五月晴れ  
花の名をスマホで探す趣味追加

神奈川県 小 田 幸 子

この人の若い日を知り今も知り  
踏み出して歩くのは君析るべく  
生まれつき使命きわめる孤独連れ  
祈り願ひ囲って守る小さな芽  
手を合わす主人の横に座る犬

東京都 尾 畑 なを江

東京都 高 岡 弥 生

四年振りマスク使わぬ夏が来る  
次世では何をやるうか妄想中  
外国人増えて経済活性化  
こだわりの食材求めさまよう日  
沢山のパンやお菓子をやめてみる

東京都 宮 田 栄 子

泪橋あしたのジョーに出会う街  
猪牙に乗りタイムトリップ柳橋  
向島荷風偲んで桜もち  
合掌す遊女が眠る浄閑寺  
雨音が心に響く恋を知り

豊橋市 小 松 くみ子

ミツバチに言い寄られてる朝の庭  
新しいエサ金魚も味がわかるらし  
「らんまん」が草花見る目変えさせる  
根なくとも挿し木の薔花咲かす  
チューリップみんな笑って揺れている

白河市 鈴 木 たけし

春の宵一杯飲んで良く眠り  
過ぎた事どうでも良いよ聞き流し  
桜散るあとは青葉にお任せと  
日本には宝の四季がデンとある  
控え目に暮らし家計簿うす笑い

生存権認めたような第五類  
小児科の泣き声やがて国を負う  
春彼岸ついに治らなかつた腰  
四季の国落丁乱丁増すばかり  
王様の椅子に触れると火花飛ぶ

京田辺市 加山 勝久

総選挙二世三世大手ふり

難民の実態カメラが炙り出し

ドローン飛びロボット指揮する近代戦

ゴミ捨て場総替えしたいうちの家具

次郎無く一郎だけの核家族

大阪市 今村 和男

本当は若葉が自慢とか桜

まだ若い定年間に五月病

雨の日はコート着て来る新聞紙

寝る暇が無かったはずが持て余す

鳥たちの歌に口出す老いカラス

大阪市 尾崎 文子

風呂炊きや昔の話次々と

アナログの昭和生れと話あう

レジ並びがんばっている高齢者

昼ごはんキャベツと鮭缶あればいい

ひまわりはロシアにも咲く花なのに

大阪市 近藤 直美

うたた寝の少女のうなじ風薫る

充電が必要なのは私です

厨房に入る男の楽しげな

人生は迷路出口を探してる

原石はあれども磨く人おらず

大阪市 阪本 秀子

起きぬけに先ずは命の深呼吸

ご先祖がお待ち炊きたてお仏飯

懐かしい声きく電話うれしい日

この星の平和こわれぬよう願う

素直さを授けてくれた天の父母

大阪市 白谷 よしみ

エアまくら故郷の空がつめてある

町歩きばらけたリズム アンダンテ

君という傘一本で雨うれし

手の平で転がしてから捨てたもの

病める子にハーゲンダッツ買い走り

大阪市 滝井 えみこ

干からびた「ごめん」うるおう加湿器で

過ぎた日が古新聞に染み込んで

少しかだけ糠味噌くさい母の手は

「あれ」「これ」と夫の指す物当てる日々

カツ丼も恋も上手にとじられず

大阪市 田原 康雄

長谷寺の長い坂道叶うなら

長谷詣で妻機嫌よし牡丹よし

花見には鉛筆ノート連れ歩き

膝痛の妻タイムセールで駆けだした

袋詰め放題妻が若返り

大阪市 中村 峰子

楽しいな創作日記綴る夜  
泥よけて歩いてきたが泥だらけ  
一張羅着こんでいるが似合わない  
あいまいな暮らし楽しい極楽だ  
猫が逝き何かさびしい物足りぬ

大阪市 原 幸子

組板の凹み夫は料理好き  
家庭菜園に毎朝やってくる小鳥  
後期でもまだまだ出来る凜と恋  
ひとりぼち退屈凌ぐ雨の音  
独りじゃない病の時は人が寄り

大阪市 宮 本 千恵子

野良猫の目は生きるさびしさ知っている  
備忘録もう二冊目になりました  
ワクチンの予約日だけは忘れない  
古稀以上でも笑顔でカバー フラダンス  
藤浪君へまず一勝を願ってる

大阪市 吉 積 栄 次

結婚を反対してた義父看取る  
倍速で会話しているリズム感  
右出すか左足出すか今日の運  
白い歯で清潔感を出してみた  
傘さして何処にも行かぬ定年後

堺市 古川 光雄

年いけど酒量は減らず元氣あり  
元氣だが論吉財布で睡眠中  
年行けど益々元氣妻の口  
気をつけていたけど成りそう粗大ゴミ  
コタツない我が家みかんの山もない

池田市 倉 本 一 弥

ポテトサラダのポテトゴロゴロ我が家流  
金婚式皴婆さんになった妻  
高校生部活はまさに青春だ  
気が利きすぎ箸添えてある洋食屋  
古民家を太い柱が支えてる

泉大津市 葛 城 隆 雄

我が胸の思いの丈をペンの先  
今に見ろ小兵の意地が力貯め  
雑記帳開けて五七五にらめっこ  
ホームラン兜が似合う翔平は  
難題に手を焼く事もまた楽し

泉大津市 助 川 和 美

閉店の予告をすれば満席に  
覚えたて九九誦んじて孫自慢  
体育館響くドリブル部活動  
今度こそ三日坊主のひとり言  
説教の気分そがれた子の欠伸

交野市 山野 双葉

故郷の湖に隠してきた小舟  
ドラレコに別れ話を聞かれてる  
お見舞いは花も団子も断られ  
雨の日はポチとドライブデートする  
樹木葬夫と選んだハナミズキ

河内長野市 穂口 正子

昔からカンナが似合う夏生まれ  
良い方にかなり勝手な思い込み  
窓の灯り家に待つ人居る安堵  
群衆に魔法かけてる悪い奴  
万象輝くそろそろお呼びかな

吹田市 西沢 司郎

あと少し届け米寿に背を伸ばす  
翔平が目覚まし時計になる暮し  
ワクチンに射ち抜かれては鈍る腕  
人生は人それぞれにワイドショー  
ご無沙汰はコロナのせいと当て擦る

摂津市 野々村 レイ子

新学期心弾んでシャッターオン  
蕾には未来を灯す光あり  
花が好き母と一緒に居るようで  
ふわふわと心をほどく春の風  
本音はきカチカチ心つやつやだ

高槻市 三谷 白黒

人により老後の歳は違います  
届かないメール送ったはずなのに  
人生も最終コーナー悔い無しに  
雨の日はよく聴こえる気がします  
選挙済み先生方は偉くなり

豊中市 貝塚 正子

念じても通じぬことを知る日暮れ  
また明日十二時間後に逝った友  
もういいかい空の姉からまあだだよ  
昔写真今はスマホで孫に会う  
手に汗をかいて待つてるホームラン

豊中市 齋藤 奈津子

お礼状気持ち伝える花切手  
カタカナ語ばかりで話す解説者  
母さんは古いものから食べていく  
必死で二度寝夢の続きが見たく  
春の目ざめ別れと出会い入り交じる

寝屋川市 長尾 千賀

ミートパイ温めて済ます昼ごはん  
春よ来い呼び出し音はビバルディ  
シツプ貼る丸い背中に羽根の跡  
「知らんけど」浪花女のアバウトさ  
ノックして下さい老いもデリケート



羽曳野市 黒木ひとみ

草木の新芽の旨さ知る昆虫  
水をやり新芽出たかと鉢覗く  
春菜の筍若布出合い物  
八十越えた三婆揃い旅をする  
極楽と言つて過ごした祖母の顔

東大阪市 青木隆一

釣竿の先に蜻蛉を見る平和  
先々を言う妻の声胃で聞いて  
御先祖があつてこそやと墓参り  
先の先読んで全てがつまらなく  
二度寝して見たいどうなる夢の先

八尾市 田邊浩三

解らないテレビCM多すぎる  
最近では真っ先に見る計報記事  
黄砂には文句は言えぬ中国に  
子が減つて女性議員が増えていく  
今これも残り人生の一部だな

大阪府 浦上恵子

太陽も月も拝める日々平和  
踏み込まず程良い距離で笑い合う  
老年の三年振りは残酷だ  
デジタルに今更乗らぬ天の邪鬼  
諦めの悪さ生き抜くエネルギー

大阪府 高木道子

お百度の石は文久山寺に  
何れ程の祈り聞いたる百度石  
一願の直向きも観た百度石  
リハビリの人揺れながら鬼の面  
色褪せたページに紙魚と遭遇する

神戸市 青木公輔

それなりの覚悟はちゃんと出来ている  
サイの目が語る人生分岐点  
申告敬遠これもいじめの始まりか  
句読点打つて未来へまっしぐら  
川柳中毒こんな言葉もあつてよい

神戸市 石川克美

真赤だね火のように咲くゼラニウム  
人生を笑うしかない私なの  
わからないチャットGPTなるものは  
ふえてます記憶の彼方の事柄が  
このところ頭の中は空回り

神戸市 米田利恵子

ふるさとの方言について振り返る  
紅白のつつじが誘う途中下車  
大声の注意段差がありますよ  
鉛筆を借りた私の句が抜ける  
ここが折り返し点です女坂

神戸市 酒井 宏

趣味の囲碁だんだん弱くなる傘寿

傘寿です約束などはできません

脳トレも三日坊主で効果なく

久し振り乾杯音頭とる花見

会長などとてもないと嬉しそう

神戸市 田本 古鈴

春祭りだんじりがゆく神がゆく

朽ちてゆく家も植木も私も

青空が今日の取柄となりにつけり

あの人は私の駅にとまらない

神に問う私は役に立ちますか

神戸市 山根 弘華

淋しさを救ってくれた子の手紙

自己主張すぎて私が浮いている

ボケットが好奇心ではち切れた

引き出しの奥にしまった黒い過去

何気ない友の言葉に癒やされた

尼崎市 清水 久美子

三キロの徒歩をノルマにするタベ

おばさんはおばさん服を着ながらぬ

パールをワンポイントに白髪染め

意に介せず捨てている複製品

無意識に無駄遣いする年金日

尼崎市 宗 和夫

老い二人いつもと同じ五連休

夫婦漫才ボケとツッコミ日替わりで

妻はまだ白馬の王子待っている

喧嘩より漫才が好き妻が好き

連休が明ける梅酒を仕込まねば

尼崎市 山本 百合

ゆつたりと吹かれるままに雪柳

真四角が憧れている楕円形

期待され肩が重たいニューフェイス

この空に続く戦禍の子の未来

型崩れしたが持ち味残してる

小野市 田中 辰夫

すり傷はつばで治せた昭和の子

父の日を三日も過ぎて思い出し

肥後ナイフ鉛筆けずる子の動悸

腎臓に石食べた覚えはありません

金婚式苦勞かけたと金メダル

小野市 藤原 泰宏

さわやかな朝のうちにとした剪定

草引きも花を見つけて手がとまる

やんわりと諭せば耳は聴いている

逢いたくて溜った気持筆走る

役下りてゆつくり寝れる幸せさ

三田市 生田 えい子

竜宮に居たかのように見る桜  
終活と断捨離混せて慕仕舞い  
皿の中有明海で満杯だ

母介護いつか私も紙おしめ

深夜でも光漏れてる子供部屋

三田市 辻 開子

久しぶり上げ膳据え膳癒やし旅

月一回湯好き外泊のめり込む

一泊で介護のお札娘を誘う

落ち椿赤いじゅうたん足を止め

子に愚痴るあーせーこーせで嫌われる

三田市 野口 龍

過去から未来心の居場所探してる

浅い眠り見る夢悪夢正夢か

百面相顔で本心悟られぬ

良い人になりきれぬ不良でした

メルヘンの恋物語花言葉

三田市 森 玲子

寒暖差ありすぎ今年春バテよ

診察券増えた体の赤信号

タッチパネル指先迷う高齢者

思わずうつふ猫のいびきに二人笑み

ウグイスの声聞きながら家事も終え

三田市 幸田 厚子

何くそと腹をくくった女道  
祝日に国旗も見ない町並に

地震ミサイル急なテロップマンネリ化

解除の里澄み切る空に花は咲く

アクリル板取れてメニニューが踊り出す

丹波篠山市 河南 すみえ

よい目覚め今日もスタート靴が鳴る

ふる里の風はおいしい初夏の味

きれいだよ花に優しく声かける

いつまでも溢れる涙父母のこと

歳月は人を待たずとは我のこと

丹波篠山市 澤 良子

飛び起きるホットな夢見日本晴れ

風に乗り綿毛たんぼどこへ行く

どっちにしよう迷い迷って運まかせ

素朴でも言葉の奥の深さ知る

育苗の背伸び腰曲げ度がすぎる

西宮市 高瀬 照枝

介護タクシー仲良くしたい杖だもの

保護猫の命あずかる日々がある

猫の手も借りて庭番草を抜く

リハビリに耐えてチャンスを待っている

乗り物はわたし無理やと感じた日

西宮市 高橋 千賀子

かしわ餅で勞うヤングケアラ  
こいのほり猫にとつてはネコジャラシ  
捨てようと思つたバラが蕾もつ  
値段すえおき中味を減らす物価高  
5類になつてもマスクとおともだち

西宮市 藤原 みよし

八十路なの仕事頼まれ拳グー  
吹いてきた幸せ風に乗りましょう  
よき人がいつも後にいる氣配  
マスク取る決心したが伏し目がち  
ボランティア久し振りです背をのばす

生駒市 饗庭 風鈴

涙腺が故障してます天氣雨  
天氣晴朗七つの海へ舟を出す  
低氣圧愚痴を言つても始まらぬ  
氣道確保の姿勢して深呼吸  
銀河鉄道途中下車はできません

生駒市 永田 芙美子

新緑の杜御朱印帳が闊歩する  
柿若葉母の待つ里Uターン  
懐かしい物ハデに着て案山子立つ  
連休も平凡な朝前を向く  
夜独りラジオを友に添い寝する

奈良県 室田 行久

スマホなど必要ないと手帳出す  
町起こしパワースポット岩や木を  
微笑むと望み叶うと孫の知恵  
歴史好き懺悔も兼ねて寺社巡り  
親族に任せられない遺言書

和歌山市 佐藤 まき

スカパーの野球契約娘の配慮  
楽をしてテレビ機敷で応援に  
解禁の応援太鼓打ち鳴らす  
行楽地中継茶の間で絶景  
頼もしい次世代をみるフェスティバル

和歌山市 鍋嶋 澄子

空よりも青いネモフィラ立ちつくす  
思い出すときめくハートかくれんぼ  
雨降るをながめ逢いたい妹よ  
鳥さわぎひとつ残さずサクランボ  
オニギリ持ち浜で貝掘り あれは夢

和歌山市 西川 千鶴

惚れちゃいそう若き主治医の優しき眼  
何だかなア分割払いのペットたち  
氣紛れな風が吹聴する噂  
看護師は正に天使と知つた夜  
午前二時熟女の舐三重奏

大阪市 前川善之

老人は連休なれど行き場ない  
物価高金の多くは前借で  
高額の家賃払うて嫁がない  
初夏の風腹一ぱいで泳いでる

大阪市 松田 聰

GTPヒト科の脳を駄目にする  
寒暖に負け風邪気味になる卯月  
5類でもマスクはずせぬ花粉症  
シヨパンから魔法かけられ目をつむる

河内長野市 三輪くにお

買うだけで夢が広がる宝クジ  
国境の隔てが海である平和  
チヨウは春トンボ梅雨明けセミの夏  
カレンダー印が並ぶコロナ明け

摂津市 荻布律子

違和感は消えてしまった砂粒か  
こつそりと夫の品だけ断捨離し  
本音でも失言みたい謝るわ  
冷奴油断できない崩れあり

藤井寺市 松井正義

待ち望む平和の光見える春  
良い季節お庭で食べるバーベキュー  
混雑のニユース横目に家レジャー  
値上げにもコロナのお陰異議が出ず

尼崎市 板谷賢二

花ならば菊でしょ私意地っぱり  
認知症痴呆さし足しのび足  
二十一番モーツァルトが媚びている  
また足を踏んで家内の三拍子

三田市 木村 マユミ

居るはずの無い君の香に振り向いて  
言葉から言葉を紡ぎ出すサギ師  
介護から命の愛おしさを知る  
プライドも今は禍いサヨウナラ

和歌山市 平松栄次

京の街住人歩けずこまつてる  
九条を世界の法にしなければ  
改憲論不要な物の一つです  
句会報読んで勉強一時間

鳥取県 田中重忠

ケアハウス僕の川柳はつてある  
妻や娘の遺影を飾るケアハウス  
後戻りもう出来ませんケアハウス  
安楽死ねがつていますケアハウス

松江市 相見柳歩

初恋の橋は先生へと続く  
叫ばずにスマホに元氣吸いとられ  
好きだからスタイルさえも良く見える  
咲いているうちは「キレイ」と言われます

津山市 高橋 由紀女

草刈のリズム狂わすうつぽ草  
もう少し待ってみようか芽の気配  
熱いはなしスマホも熱くなってくる  
ドラえもん好きだと言えば笑う孫

三次市 伊藤 寿子

スタミナを配分しつつ店へ立つ  
3歳の孫からなんといたわられ  
悪夢を続編までみる もうダメか  
夢のはなし夫は耳にふたをする

那覇市 禰 モモト

遊ぼうよメール文句に誘われて  
あせらずに時間が薬病気には  
恵まれず漫画読めない成人に  
庭の花春夏秋冬リレー咲き

那覇市 宮 すみれ

目標へ眉毛逆立て巣立つ孫  
漂白し二度と着るまい白い服  
ユニークの友笑い取るテクニク  
月に映えしなる先生ムーンヨガ

弘前市 小山内 真由美

花も緑もやっぱりにかなわない  
お向いの花今日も家主を待っている  
元氣印大きくなった金魚たち  
薬にもなるBGMのビートルズ

## 第17回「ふるさと」川柳募集案内

課題『味』

(1口2句提出・12人共選・複数応募可)

選者 米山明日歌・吉崎 柳歩・赤松ますみ・  
石橋 芳山・梅崎 流青・浅利猪一郎  
他

締切 7月31日(消印有効)

投句料 1000円(小為替・切手不可)

投句用紙 (コピー可) 他便箋など

賞 最優秀賞1点(樺細工色紙掛 仙北  
市産品) など

発表 柳誌「湖」10月号予定

投句先・問合せ先 〒014-0602

秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85

浅利猪一郎 方

第17回「ふるさと」川柳事務局 宛

電話 0187-48-2236

主催 川柳「湖」(うみ)

## 川柳信濃川『納涼川柳』誌上大会

新作2句詠(一人一組、定形のリズム)

兼題と選者「かける」

相田 柳峰 表 よう子 居谷真理子

柏原 夕胡 伊藤 寿子 吉道あかね

ほか7名の選者

締切 7月31日(消印有効)

投句料 1000円(現金または郵便小為替)

90歳以上の方は無料(証明書不要)

投句用紙は自由

発表誌は9月10日

賞 コシヒカリなど

投句先 〒940-2042

長岡市宮本町3-2433

相田柳峰宛

電話 0258-46-5999

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

悼 住田乱耽氏

晩年という日のなかりける男

水仙にはあたたかすぎる風邪の部屋

便り来て咳こぼれたり うれしい咳

長尾鶏 李白は如何に叙すならん

通り抜け 花の濃淡夜に入りぬ

陰陽席 つつじの燃える頃となる

中尾藻介兄へ

男へもやさしい手紙書く男

父の愛娘にあつし 富士桜

切手にも金魚が泳ぎ風薫る

梅雨明けの雷どんと 路郎の忌

路郎の忌 白の鉄線一花でよし

路郎の忌 形見の肉池藍あせず

路郎の忌 立膝癖も師父ゆずり

路郎の忌 句を奉り香華とす

路郎忌に 松の洩れ日のなつかしき

路郎忌に塔の影なす酒の曇

路郎の忌 天牛に来て落着きぬ

路郎の忌 睡蓮水の旅つづけ

戦傷の盲人堀江正朗氏はかつて路郎忌句会に  
上阪を欠かせしことなければ

その人を待つ 路郎忌も七回忌

胃を切除つて夏冬ながし 誕生日

生け花の師匠にもある邪推かな

馬籠・妻籠にて 三句

お六櫛 われを籠らすひともなし

櫛の齒に秋の近づきいたりけり

雨上がり 猫はや歩く石畳

雲 波に 波 雲に似し はたちの日

ベトナムの難民に似た瘦昼寝

生き死には碁石のことでないのなり

一日は鎖一環 倦怠期

# 愛染帖

## 新家 完司選

(投句253名)

奈良県 長谷川崇明  
揚げ雲雀視力聴力まだいける

(評) 散歩中に聞こえてきた「ピーチクピーチク」はて何処から?と振り仰げば、遙か上空に黒い点。耳も目もまだまだ大丈夫だ。

和歌山市 まつもとともこ

病院もUSJも長い列

(評) 行楽時期の休日ともなればユニバーサル・スタジオ・ジャパンは満員。一方、季節に関係なく病院の待合室は高齢者で満員。

大阪市 江島谷勝弘

久し振り百円玉が落ちていた

(評) 長い長い人生航路、たまには良いこともあるものだ。お巡りさんへ届けるべきだが、百円では「変人か?」と思われるかも…。

松山市 柳田かおる

トンチンカントンチンカンと元氣です

(評) 何事もテキパキ処理するのだが、トンチンカンが混じるのが玉に傷。しかし、それは「元氣なおかけのトンチンカン」である。

丹波篠山市 酒井 健二  
別嬪を三秒ながめ睨まれる

(評) 別嬪さんに目が行くのは男性の本能であり極めて自然なこと。だが、三秒は長すぎる。一秒以内の「チラッ」で我慢だ。

箕面市 中山 春代

賞味期限の順に並べる棚の菓子

(評) 頂戴した饅頭や自分で買った菓子類など。賞味期限の順に並べておいて、その順番に食べる。極めて合理的な生活の知恵!

三田市 堀 正和

半分は理解出来ないコマーシャル

(評) 何を言っているのか解らないほど早口のコマーシャルが増えていく。ひょっとして、そのように困惑しているのは高齢者だけ?

鳥取市 狹武 紫陽

値上げですかひと痩せしてるメロンパン

(評) 物価上昇が家計を直撃している昨今。稀に「あつ、上がっていない!」と思ったら数が減っていたりスリムになっていたたり…。

大阪市 奥村 五月

大谷が兜をかぶる子供の日

(評) 今シーズンからホームランを打った選手に兜を被せて祝っているエンゼルス。やはり一番似合うのは大和男子の大谷翔平だ。

西宮市 高橋千賀子

ヤングケアラ一子供の日でも休めない

(評) 一学級に一人か二人はいる家族の世

話をしている健気な子ども。軍備増強よりもこの子たちを支援するのが急務である。

岡山市 丹下 凱夫

徒然草マンガで読むとよく分かる

船橋市 中嶋 常葉

だらしない男の世話をしたくなる

大阪市 田原 康雄

綿棒に癒やされている風呂あがり

尼崎市 永田 紀恵

お互いに再会したくない齡

三田市 野口 龍

動と静勝ち気な妻がふりまわす

神戸市 城戸 誓子

パン啜え空中戦のクラス達

倉吉市 大羽 雄大

教習車の後ろに付いて教えられ

那覇市 宮 すみれ

背もたれにいいあんばいのふすま角

寝屋川市 廣田 和織

ヘアケアはもう諦めてフットケア

岡山県 藤澤 照代

船酔いの青いバナナを安く買う

鳥取県 斉尾くにこ

五月晴れ過去や過失をなぐさめる

大阪市 平賀 国和

岩手は凄いい翔平さんに賢治さん

塩竈市 木田比呂朗

家内までにわかオオタニ晶貞です



佐賀県 真島久美子  
むくんだらガラスの靴が入らない

豊中市 水野 黒兎  
注射され幼児返りか目をつむる

生駒市 飛永ふりこ  
熟睡で昨日のランチまで忘れ

大阪市 石田 孝純  
カニカマが大好きという孫が好き

香芝市 大内 朝子  
化粧する気力おんなのよみがえり

三田市 北野 哲男  
健やかに老いて気持ち今は今が旬

神戸市 富永 恭子  
卒寿過ぎまだ頼られるありがたさ

大だつて相手見てから吠えている  
連休は市民無料の森歩く

三原市 笹重 耕三  
病院に行くためだけの停留所

おじさんのプランコ疲れ切っている  
榎原市 居谷真理子

裏表私の知恵の見せどころ  
人間で不思議やなあと陽は西に

尼崎市 山田 耕治  
よく喋る患者と書いてあるカルテ

日記には良い血圧を書いている  
鳥取県 門村 幸子

落ち込んで「さて」と元氣を出すココア  
「昭和の日」わたしやっぱり昭和の子

堺市 内藤 憲彦  
我が家では筋金入りのイエスマン

大阪市 内田志津子  
近頃は応募するのか強盗も

鳥取市 山下 凱柳  
歳かなあふつと感じる疎外感

豊橋市 西郷紀美代  
転けぬよう手摺の側を歩く癖

米子市 成田 雨奇  
顔くらいちゃんと洗えと叱られる

弘前市 高瀬 霜石  
酸いも甘いも学んだ映画館の椅子

宗教がからむとぐつちやぐちやになる  
豊橋市 八甲田さゆり

青い鳥まだ探してる古稀の森  
マッチングアプリで遊ぶ老いの恋

尼崎市 宗 和夫  
楯突くと担当家事が増えていく

いつまでも家事見習いで据え置かれ  
大阪市 森 廣子

雨の坂以外神戸はみんな好き  
春雷へ二度も起こされまだ眠い

藤井寺市 鈴木いさお  
ナースに湯灌して貰うのは恥ずかしい

輸尿管付けてくれたはどのナース  
鳥取市 山野すみれ

ウインドーに歩く姿を検査され  
昼寝した月も空き家の上に出る

豊中市 藤井 則彦  
町が多く町の少ない西日本

三田市 上田ひとみ  
アラフォーがずらり私の子供たち

松江市 石橋 芳山  
私より顔が売れてる家の犬

藤井寺市 太田扶美代  
自尊心失いかけた事がある

大阪市 高杉 力  
故郷をジオリマにして持ち歩く

桜井市 安土 理恵  
たとえ逢うてももう足並みは揃わない

米子市 竹村紀の治  
控え目の自慢話も腹が立つ

黒石市 北山まみどり  
食欲が支配している匙加減

池田市 奥園 敏昭  
適当に忘れなければ身がたまぬ

香芝市 山下じゅん子  
少子化に踏ん張っている孫九人

鳥取市 谷口回春子  
孫の靴格好いいので爺が履く

富田林市 中村 恵  
怠惰な時間はコーヒーまでぬるい

橋本市 石田 隆彦  
皿の絵も食べようとしている視力

米子市 池田 美穂  
ニワトリも産めよ増やせと大変だ

広島市 松尾 信彦  
分担の家事もいずれば句のこやし

倉吉市 牧野 芳光

川柳脳になるまでポツリポツリ

防府市 坂本 加代

締め切りが集中力をアップする

大阪市 岩崎 公誠

こっそりと覗いてみたい俺の脳

香南市 桑名 孝雄

句の不作やと分かった脳委縮

河内長野市 森田 旅人

足すくむ句会場にはある怪気

大阪市 津守 柳伸

青い空今日はポストへ遠まわり

神戸市 能勢 利子

マスクには邪魔にならない低い鼻

西宮市 福島 弘子

低い鼻マスク重宝してたのに

高槻市 松岡 篤

マスク取る勇氣日ごとに小出しする

高槻市 島田千鶴子

三年ぶりシニアコーラスいざゆかん

宝塚市 岸田 万彩

ブーチンが理性失い天下布武

堺市 今井万紗子

ブーチンの錯乱地球泣いている

岡山市 永見 心咲

ブーチンの名が出ただけで不整脈

神戸市 敏森 廣光  
戦争こそ命と金の無駄遣い

京都市 清水 英旺

初夏なのにまだ冬の中ウクライナ

三田市 大西 重男

仏様お目覚めしてと鐘鳴らす

横浜市 川島 良子

日常がリアルに戻るGW明け

池田市 倉本 一弥

包丁使う妻はトントン僕ブツリ

東京都 川本真理子

少し腕鈍ったキャベツの千切り

鳥取市 田賀八千代

フライパンで世界旅行をするメニュー

奈良県 安福 和夫

厨房に今更入る気などなし

高槻市 片山かずお

そのうちにすると返して揉めている

大阪市 森田 遊子

チョイ悪のお婆さんなど目標に

朝霞市 前田 洋子

独り居は電話以外はひとり言

鳥取県 竹信 照彦

新玉葱採れたと妻の燥ぐ声

貝塚市 吉道あかね

幸せに老いてMからLになる

奈良市 米田 恭昌

ミニコラム荒む心に灯を点す

奈良市 加藤江里子  
人も魚も干物になって出る旨味

今治市 永井 松柏

同病の友と交換するエール

東大阪市 青木ゆきみ

肉うどん千円出さな食べられぬ

芦屋市 新早 義明

賞味期限決定権は妻にあり

神戸市 米田利恵子

孫の部屋贈った本が見当たらぬ

鳥取市 岸本 宏章

スーパ―も過疎化の波に耐えられず

豊見城市 あらさくら

読み終えた長編作に満たされる

生駒市 饗庭 風鈴

たのしみはまぶたの中の映画館

河内長野市 木見谷孝代

手離すと思うと惜しい里の家

堺市 坂上 淳司

隠してんのに老人斑が歳暴き

交野市 山野 双葉

車座になればみんなが主人公

男鹿市 伊藤のぶよし

久し振りにあった途端に笛太鼓

枚方市 栃尾 奏子

手をつなぎあなたとやじろべえになる

神戸市 近藤 勝正

休眠がないか通帳確かめる

高砂市 裕木 るい  
鼻だけを頼りに探す焼き芋屋

大阪市 大沢のり子  
水たまり越えてあんぱん買いに行く

美作市 岡本 余光  
抜け出せぬアナログ型の暮らしぶり

高砂市 松尾柳石子  
針と糸持てばしつかりママになる

加古川市 石賀 邦子  
お陽さまが早起きになり五月晴れ

石川県 堀本のりひろ  
白無垢のスマホ映えする剣岳

大阪市 岩崎 玲子  
新緑をべっぴんにする通り雨

大阪市 小野 雅美  
とっておきの声イケメンへ出てしまふ

高槻市 初代 正彦  
白内障術後さすがにいい景色

那覇市 禱 モモト  
琴の音にペランダ小鳥朝稽古

八幡市 武田 悦寛  
お引越し今日はどちらへかたつむり

鳥取市 上山 一平  
こどもの日何は無くともお赤飯

西宮市 緒方美津子  
食べて寝て油断してたらラ・フランス

松山市 郷田 みや  
地震速報テレビの中で揺れている

鳥取市 前田 楓花  
恋の夢見たか枕が濡れている

川西市 大坪 一徳  
生きてるか国も会社も聞いてくる

大阪府 米澤 俣子  
歳をとるほど外人さんは赤い服

倉吉市 宮田 風露  
青い空散歩コースを変えました

鳥取市 福西 茶子  
坂道の二千歩きよのノルマ終え

大阪市 中島 幸徳  
わが出番ここぞとばかり肉を焼く

貝塚市 石田ひろ子  
反省はするがへこんではいない

広島市 岸本 清  
対向車教えてくれたネズミ捕り

尼崎市 近兼 敦子  
少子化に静かになった町に住む

神戸市 斎藤 隆浩  
ちよい悪のDNAは親譲り

大阪市 坂 裕之  
声張って元気アピールし続ける

河内長野市 穂口 正子  
睨んでも長くない生命線

神戸市 上田 和宏  
そろそろ思案冥途土産と置き土産

大阪市 磯島福貴子  
極楽への日帰りツアーないかしら

富田林市 山野 寿之  
ローカル線酒を寿ぐ春の風

豊中市 松田蟻日路  
櫛酒列車車輻も客も昭和製

東京都 宮田 栄子  
リタイアで昼呑み会にデビューする

尼崎市 藤田 雪菜  
うれしい日悲しい日にも酒がつく

米子市 伊塚美枝子  
畑仕事冷えたビールが待っている

安来市 原 徳利  
パワフルな原動力に酒と歌

大阪市 井丸 昌紀  
咎める人なくて佐しく昼の酒

富士見市 中島 通則  
世渡りの一步を学ぶ父の酒

八王子市 川名 洋子  
二日酔いネオン灯るともう忘れ

札幌市 三浦 強一  
バックスと一献という至福時

三田市 多田 雅尚  
居酒屋百選見てはついつい進む酒

大阪市 平井美智子  
飲み過ぎた喜寿を介抱する傘寿

豊橋市 小松くみ子  
一合で気持ちよくなるお家飲み

土佐清水市 辻内 次根  
お湯割りが効いてあくびがひとつ出る

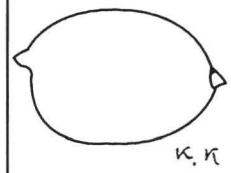
# 共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句312名)



## 「サイズ」 江島谷 勝弘 選

大盛がうれしかったなああの頃は  
ミニサイズ戦術核も怖い核  
サイズなど個人情報非公開  
災害のサイズふくらむ温暖化  
ちっぱけな日本の奥深い歴史  
放棄地のゆとりが過ぎた自給率  
物価高一万円が痩せ細る  
規格外才能開花二刀流  
川柳は十七音のサイズです  
晩酌のコップを猪口に替える老い  
盃がコップとなつて盛り上がり  
靴サイズ外反母趾でE4つ  
ピッタリだ間違えたかも人の靴  
足だけが特大サイズ親譲り  
履いて見て左右で違う僕の足

三田市	上田ひとみ	三田市	上田ひとみ
神戸市	上田 和宏	大阪市	岩崎 公誠
大田市	大坪 一徳	川西市	石橋 芳山
松江市	笹重 耕三	三原市	藤澤 照代
岡山市	近藤 正	大阪市	大石 洋子
岡山市	村上 直樹	河内長野市	村上 直樹
札幌市	三浦 強一	三田市	生田えい子
鳥取県	本庄ひろし	黒石市	石澤はる子
三田市	多田 雅尚		

## 「サイズ」 永見 心 咲 選

笑っているうちにどんどんふくらんだ  
じいちゃんは尺貫法で生きている  
物価高一万円が痩せ細る  
通販の品無駄に大きな箱でくる  
中八を小さい文字で書いたけど  
お月様のサイズ自然のプログラム  
ダウンサイズして一人居の暮らしよさ  
ポケットに入りきらない志  
負けず嫌いがMを持ち込む試着室  
リフォームの服軽やかに街に出る  
孫三人鴨居にお辞儀するサイズ  
スリーサイズは直線になつて来た  
生き方はお気楽にフリーサイズで  
バカでかい家が老後の悩みです  
行列が続くジャンボのタコ焼屋

東京都	川本真理子	富田林市	中村 恵
郡山市	安藤 敏彦	松江市	中筋 弘充
岡山市	藤澤 照代	越谷市	久保田千代
豊中市	齋藤奈津子	大阪市	宮崎シマ子
大阪市	井丸 昌紀	貝塚市	吉道あかね
鳥取県	斉尾くにこ	松江市	藤井 寿代
大山市	金子美千代	和歌山市	柏原 夕胡
		高砂市	松尾柳右子

六十年靴のサイズは変わらない  
労働の証し夫の太い指

桐箱に大梅干しが鎮座する

仕事やめ食っちゃ寝をしてLのL

新年度茶碗小ぶりに替えました

乾電池一から五までややこしい

空席のサイズ微妙で諦める

大仏様僕の心はミリサイズ

読む文字のサイズ大きい方がよい

Lよりも旨いみかんはSサイズ

どうせならビッグサイズの法螺を吹く

トム・クルーズに鼻の高さで負けている

仲間には規格外れも居て愉快

買い換える度にでつかるテレビ

聖子女史まねて鉛筆使いきる

お相撲さん服のサイズはいくつか

じゃが芋のかいサイズは中怪し

大小のお尻つめ合う五人掛け

細身だが胃袋だけはLサイズ

無限大実に見麗富士の嶺

リーダーは度量のかい人求む

大中小誰が決めたか飯の量

尼崎市 藤井 宏造

宮崎県 黒木 栄子

鳥取県 門村 幸子

奈良県 中堀 優

尼崎市 藤井 歌子

池田市 太田 省三

箕面市 広島 巴子

石川県 堀本のりひろ

米子市 中原 章子

海田市 山中 閑

三田市 九村 義徳

明石市 桃谷 和郎

堺市 坂上 淳司

河内長野市 木見谷孝代

羽曳野市 藤原 大子

尼崎市 山田 厚江

豊橋市 西郷紀美代

神戸市 富永 恭子

三田市 堀 正和

泉大津市 葛城 隆雄

奈良県 谷川 憲

東大阪市 青木 隆一

レシート捨てる 財布のエクササイズ  
はじかれて脹れっ面の規格外

うさぎ小屋住めば都のサイズです

家計簿もMからSになりました

菓子箱にちょうど収まる茶封筒

仲間には規格外れも居て愉快

人間のサイズ試される土壇場

ナノ以下が私の得意分野です

傷ついて地球のサイズ小さくなり

取り敢えず心のサイズ広げ聞く

成し遂げた父のサイズは変わらない

百式歳望郷しきりの豆句集

聡太とは脳のサイズは変わらぬが

尻の穴で人の大小はかられる

サイズ合うたら全部買うたる売場ごと

試着室フリーサイズという油断

健診を終えて飲み干すロング缶

買い換える度にでつかるテレビ

迷惑かけず棺桶は標準サイズ

背もたれにパンダサイズの妻が居る

同年代美人女優もきつとゴム

両国を訪ねLサイズ買う

笠岡市 藤井 智史

和歌山市 西川 千鶴

尼崎市 山本 百合

大阪市 川端 一步

奈良市 東 定生

堺市 坂上 淳司

鳥取市 前田 楓花

松山市 栗田 忠士

鳥取市 山野すみれ

小野市 藤原 泰宏

津山市 高橋由紀女

西宮市 福島 弘子

奈良県 室田 行久

鳥取市 池澤 大鯨

桜井市 安土 理恵

黒石市 北山まどり

大阪市 小野 雅美

河内長野市 木見谷孝代

岡山市 大石 洋子

鳥取市 奥田 由美

大阪市 岩崎 玲子

豊中市 水野 黒兎

饅頭のサイズ寂しくなってくる  
 イチゴ狩さつと手が出るしサイズ  
 サイズ忘れて可愛さだけで買い  
 サイズより重量で選る蕎麦<sup>ちし</sup>キャベツ  
 食べやすくていさめに切る介護食  
 ベビー肌着未来分だけ袖を折る  
 初めてののお出かけ靴<sup>くつ</sup>10センチ  
 入学に子の制服がチャップリン  
 成長の記録柱のセロテープ  
 スリーサイズ何のことだと孫は聞く  
 孫三人鴨居にお辞儀するサイズ  
 小六のひ孫がボクと同じ靴  
 女房は身体Sでも口はL  
 肝っ玉太い妻には勝てません  
 夫婦して小心者で気が合って  
 値引き品欲しいサイズが見当たらず  
 いつからかサイズ気にせずなつてもた  
 えるえるのパジャマ大好き若<sup>わか</sup>がえる  
 だんだんとパンツの裾<sup>すそ</sup>が長くなる  
 少しずつサイズ合わない服の山  
 リフォームの服軽やかに街に出る  
 ボディーライン隠す大きめの上着

神戸市	米田利恵子
神戸市	酒井 宏
大阪市	高杉 千歩
尼崎市	清水久美子
香芝市	大内 朝子
大阪市	滝井えみこ
寝屋川市	長尾 千賀
横浜市	菊地 政勝
大阪市	東 敏郎
尼崎市	宗 和夫
大阪市	宮崎シマ子
大阪市	川端 一步
鳥取市	山下 凱柳
河内長野市	藤塚 克三
大阪市	横山 里子
小野市	藤原 泰宏
大阪市	岩崎 玲子
西宮市	高瀬 照枝
箕面市	大浦 初音
大阪市	中村 峰子
越谷市	久保田千代
安来市	原 徳利

さあ食うぞベルトゆるめてバイキング  
 この頃の菓子パン小さくなりました  
 見栄張ってボタンが飛んだMサイズ  
 帽子とヘルメットのサイズはちがう  
 乾電池一から五までややこしい  
 店員のピッタリですを真に受けて  
 ちよい太が元氣と医者に宥められ  
 口までも負けております蚤夫婦  
 サイズ切れ ホツともしてる高い服  
 天まで届け団地サイズの鯉幟  
 大小のお尻つめ合う五人掛け  
 ちようど良いスマホサイズの祝い状  
 大宇宙人の尺度は知れたもの  
 王冠に頭合わせている儀式  
 カードみな同じサイズでありがたい  
 ひと冬を越したサイズにあるカオス  
 大木が咲かす小さな白い花  
 春の鬱フリーサイズという魔物  
 大盛がうれしかったなああの頃は  
 婚約指輪大きい方がわたしです  
 標準を諦めさせる試着室  
 可愛くてダイハツムーブみたいな子

米子市	竹村紀の治
西予市	黒田 茂代
横浜市	川島 良子
西宮市	緒方美津子
池田市	太田 省三
高槻市	松岡 篤
河内長野市	村上 直樹
鳥取市	山下 凱柳
大阪市	原田すみ子
今治市	安野かか志
神戸市	富永 恭子
神戸市	横田 次郎
奈良県	中原比呂志
唐津市	坂本 峰朗
鳥取市	岸本 宏章
船橋市	中嶋 常葉
岐阜県	喜多村正儀
大阪市	島田 明美
三田市	上田ひとみ
寝屋川市	長尾 千賀
富田林市	山野 寿之
尼崎市	板谷 賢二

レディースのMで間に合う父となる  
見栄張ってボタンが飛んだMサイズ  
一口が我慢できたらMサイズ

肝はS体はMも夢はL

縦はS横はLへと服選び

まずサイズ値段も柄も後まわし

通販の品無駄に大きな箱でくる

どなたにもフリーサイズのおつき合い

背丈は負けても目方で勝っている

わからないドーム何個と言われても

罫線をはみ出す文字で励まされ

悩んだら小さい方を取るんだよ

二回り小さくなった母を抱く

洋服も靴も妥協をするサイズ

Mサイズ筆筒の隅で欠伸する

Mサイズ何があろうとMサイズ

スリーサイズ関係なしの原始人

スリーサイズほぼ直線になって来た

秀句

向日葵はなにも競ってなどいない  
お月様のサイズ自然のプログラム  
人間のサイズ試される土壇場

三田市 幸田 厚子

横浜市 川島 良子

鳥取市 奥田 由実

河内長野市 中島 一彌

羽曳野市 宇都宮ちづる

尼崎市 藤田 雪菜

豊中市 齋藤奈津子

鳥取市 吉田 弘子

藤井寺市 鈴木いさお

河内長野市 森田 旅人

橿原市 居谷真理子

枚方市 栃尾 奏子

大阪市 石田 孝純

大阪市 平井美智子

和歌山市 西川 千鶴

大阪市 内田志津子

桜井市 安土 理恵

貝塚市 吉道あかね

佐賀市 真島久美子

鳥取県 斉尾くにこ

鳥取市 前田 楓花

わたくしのサイズ私にわからない

罫線をはみ出す文字で励まされ

大人のそれはちいさいなお葬式

画素数を上げると粗ばかり目立つ

旨そうに丼飯の作業服

わからないドーム何個と言われても

ウララウララと原寸で生きている

放棄地のゆとりが過ぎた自給率

コップ一杯入れたら水は溢れだす

ちっぽけな日本の奥深い歴史

肝っ玉かあさん4Lのハート

どうせならビッグサイズの法螺を吹く

トム・クルーズに鼻の高さで負けている

父の靴呑み込みそうなスニーカー

ごめんやでフリーサイズにや罪はない

イワシかと思うサンマを有難く

出るところ引つ込むとこが逆なだけ

2Lの衣かぶったえびフライ

秀句

父の日のメロンはきつとLサイズ  
向日葵はなにも競ってなどいない  
一ミリの違い鞘には戻れない

倉吉市 牧野 芳光

橿原市 居谷真理子

弘前市 高瀬 霜石

今治市 永井 松柏

犬山市 関本かつ子

河内長野市 森田 旅人

尾道市 村上 和子

三原市 笹重 耕三

大阪市 森 廣子

松江市 石橋 芳山

岡山市 丹下 凱夫

三田市 九村 義徳

明石市 靴谷 和郎

大阪市 津村志華子

松山市 大内せつ子

宝塚市 岸田 万彩

大阪市 高杉 力

神戸市 斎藤 隆浩

堺市 内藤 憲彦

佐賀県 真島久美子

鳥取市 狭武 紫陽

# 「救う」

(投句 219名)

杉 野 羅 天 選



ストレスをためた犬猫などでやる  
人数分にわたり飼育雌七羽  
お隣りの監視カメラにVサイン  
助けられあなた任せが癖になる  
物価高母の野菜に救われる  
勇気ある下山へいのち救われる  
最優秀救援投手は妻だ  
雲行きを見越し咄嗟の変化球  
ささやかでも被災地救う義援金  
凹んでも救いは二つ「食べる」「寝る」  
満たされぬ心を救うビターチョコ  
人間が地球を救うエゴイズム  
早期発見救われましたこの命  
私が自分を救い取れるなら  
人不信牧師の笑みに救われる  
支援品ブルカの奥に見る涙  
家計費を救うもやしが良く売れる  
救いの手心を鬼にして出さず  
コロナ患者救った医者に最敬礼  
ひと声で運命変えた「大丈夫」

男鹿市	伊藤のおよし
大阪市	石田 孝純
神戸市	能勢 利子
唐津市	坂本 蜂朗
米子市	池田 美穂
横浜市	菊地 政勝
笠岡市	藤井 智史
西予市	黒田 茂代
堺 市	澤井 敏治
鳥取市	門村 幸子
大阪市	岡田 恵子
和歌山市	まつもととこ
安来市	原 徳利
生駒市	飛永ふりこ
箕面市	出口セツ子
三田市	稲角 優子
大山市	関本かつ子
豊中市	齋藤奈津子
大阪市	古今堂蕉子
黒石市	北山まみどり

ゆっくりでいいよあなたの声がした  
パチンコに救われていた不遇時期  
背伸びして募金箱へともみじの手  
救いなき世にも五月の風は吹く  
迷ったら母思い出す羅針盤  
見つめられただけで救われたと思う  
神でなくお金がボクを救うのだ  
子規は逃す鋤簾の目の粗さ  
過労死はイカン手抜きを覚えよう  
大嫌いな人が救いに来てくれた  
原発用救命胴衣ありますか  
南無阿弥陀悪人だつて救われる

佳 句

三田市	上田ひとみ
藤井寺市	太田扶美代
大阪市	小野 雅美
大阪市	高杉 力
香芝市	大内 朝子
岡山市	永見 心咲
藤井寺市	鈴木いさお
松江市	仲筋 弘充
防府市	坂本 加代
大阪市	大沢のり子
奈良市	大久保眞澄
弘前市	福士 慕情
越谷市	久保田千代
佐賀県	真島久美子
三田市	堀 正和
大阪市	平井美智子
高槻市	松岡 篤
檀原市	居谷真理子
弘前市	高瀬 霜石
豊中市	水野 黒兎

少額でごめんなさいと募金箱  
救世主登場足を組み直す  
モンゴルに支えられてる国技とや  
傍にいてあげる話を聞いたげる  
救いよう無いほど音痴座が和む

人

地

天

軸

生き抜けと河童の皿に月の露  
頼りになるぞ昔の不良少年は  
人が人殺す地球を救わねば  
やれ敵だ味方だ救うのが基本



# 「目 移 り」

齋 藤 さくら 選  
(投句 215名)



同じ値段大きい品に手が伸びる  
女子会のランチメニューが決まらない  
ギョル見ると目移りをする悪い癖  
今もつてよその旦那が良く見える  
百均で目移りがして大人買い  
イケメン揃いあれこれ迷うのが楽し  
目移りに鏡が笑う試着室  
あれもいいこれもいいなと旬野菜  
まずビールそれから迷うお品書き  
美しいバラに目移りする私  
迷うだけ迷い買うのはまた今度  
目移りが過ぎて乱視になりました  
お連れさんちらりと見ては比べてる  
可愛くてどの子が欲しい猫選び  
友だちの彼に目移り悪いクセ  
最後には君に決めたと言われても  
どれにしよう取りそこなった迷い箸  
どの花へ耳打ちするか悩む蝶  
着てみたらすべて買いたい試着室  
目移りはほんの目先の浮気です

河内長野市	藤塚 克三	河内長野市	徳山みつこ	羽曳野市	松岡 篤	高槻市	宇都満知子	大阪府	居谷真理子	橿原市	坂 裕之	大阪府	小野 雅美	鳥取市	山下 凱柳	倉吉市	大羽 雄大	大阪府	森 廣子	香芝市	山下じゅん子	大阪府	島田 明美	堺市	澤井 敏治	岡山県	藤澤 照代	横浜市	菊地 政勝	生駒市	飛永ふりこ
-------	-------	-------	-------	------	------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	--------	-----	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

デバ地下でケーキ二つが決められぬ  
メニュー見て最後に決めただんご汁  
移り気な夫を繋ぎとめる食  
美人から美人目移りする目線  
スイーツは目移りなしと決めて行く  
結局は好きな物だけバイキング  
ついつい大きい方に手を伸ばす  
うどん待つ隣の蕎麦が美味そうで  
二択なら迷わぬ五択だと迷う  
目移りをびしやりと止める値段票  
妻と行く買い物時間長くなる  
どの花もみんな違ってみんないい

佳 句

目移りはしても品質重視する  
さくらんぼが笑う西瓜が招いてる  
惚れっぽい男と飽きっぽい女  
サンブルで迷いメニューでまた迷い  
次々と猫の額に春の花

人

柳腰目移りをして京の橋

地

目移りはしても結局もとの位置

天

高砂やもう目移りはせぬ覚悟

軸

お隣のステッキ財布首を振る

尼崎市	宗 和夫	和歌山県	三枝眞智子	富田林市	山野 寿之	富田林市	岩崎 公誠	大阪市	内田志津子	大阪市	江島谷勝弘	富田林市	中村 恵	今治市	永井 松柏	西宮市	緒方美津子	豊中市	齋藤奈津子	和歌山市	柏原 夕胡	東大阪市	佐々木満作	岡山市	永見 心咲	大阪市	高杉 力	堺市	坂上 淳司	三田市	北野 哲男	吹田市	太田 昭	大阪市	平井美智子	唐津市	仁部 四郎
-----	------	------	-------	------	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	------	-------	-----	-------	-----	------	----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------

# 初級教室

題 ー 本

水野 黒 兎

以下、今回は多くの句について具体化の参考例を示してみます。

☆ 映画みて原作本も読むつもり 名都子

☆ 映画見て原作を読む周五郎

☆ この歳で胸キュンとなるコミック本 名都子

☆ この歳ではだしのゲンに胸がキュン 栄次

☆ 開く本挟んであった恋と夢 栄次

☆ 寂聴本に挟んであった恋と夢

☆ ひとときのロマンに浸る本の中 邦子

☆ ひとときを「嵐が丘」に浸る午後

☆ 幼児より先に眠った読み聞かせえい子

☆ ごんぎつね子に読みながら先に寝る

☆ 単行本一気読みする徹夜して 開子

☆ 大地の子一気読みして二十五時 照枝

☆ わくわくと本を開いた一枚目 照枝

☆ 最初からわくわく星の王子さま

☆ 立読みの中身意外と覚えてる 博之

元の句から離れてしまっていますが

☆ 立読みで自分史探る蜘蛛の糸 泰宏

☆ ゆつくりと本読む時間至福時 泰宏

☆ ゆつくりと鍼医梅安読む至福 百合

☆ 背表紙の整列のまま忘れられ 百合

☆ 本棚にただ並んでる哲学書

☆ ドラマより時間気にせぬ本が好き 行久

☆ ドラマより時間忘れるクリステイ

☆ 結末を先に読んだらすぐ寝れるくにお

結末が気になって読み終えないと眠れない

ミステリーでしようか。このままで意味は分かりますが味気ないですね。

☆ 結末まで眠気我慢のミステリー

☆ 老いて読む絵本の深さ奥深さ 玲奈

☆ 小川未明の「野ばら」老いても奥深い

小川未明については後述します。或いは

★ 老いて読む周平が脳活性化

以上挙げた具体例はあくまで参考例です

のでご自分の好きな本、感動を受けた本

や作家で書き直してみてください。

☆ 孫の部屋贈った本が見当たらぬ 利恵子

見当たらないという事実だけではなく何

か物語性を含めるといいですね。

★ 贈った本を孫は卒業した気配

☆ 川柳誌やつと読み終えストレッチ 一平

☆ 川柳誌読み終え脳のストレッチ

☆ 文庫本折れたページに君がいた 龍

一編の短編小説めいた句で素敵です。

★ 借りた本の折れたページに君がいた

或いは村上春樹で具体化して

★ 本棚の奥で冬眠小公女

☆ 本棚ふかく眠り続ける小公女 えみこ

小公女はアメリカの作家バーネット夫人

の作品。このままでいいと思います

★ カナダ旅行赤毛のアンになつてみる

★ ふる里で赤毛のアンになつてみる

が漠然としていますので、例えば

☆ こんな時赤毛のアンになつてみる 風鈴

赤毛のアンと具体的ですが、「こんな時」

☆ は皆様の句、★は参考句です。

そんな例の句をまず二句。

人は理解しやすいと思います。

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり、触発され

て読めば素晴らしい事だと思えます。そ

のためには具体的にその本がどんな本な

か、どんな作家の本なのかかわかれば読む

てその本を読んで共感したり

★ノルウェーの森を開けば君がいた

☆夜更かしも活字を見ては眠りつく 弥生

★夜更かしのつもりの本が眼利に

☆趣味読書と言えた頃が懐かしい ひとみ

★趣味は読書と言えた二十歳が懐かしい

☆本で読む「寝床」味なし笑いなし

不二夫

文楽や志ん生が演じた落語の「寝床」のことでしょうか。

★本で読むと落語「寝床」は味気ない

☆もう彼岸教則本に師を偲ぶ

閑

★もう彼岸いま師を偲ぶ入門書

☆料理本頁をめくり作った気

律子

★料理本夕食はもう作った気

★写真から匂いまでする料理本

☆絵本読みさせる至福 乙なものの 貴美江

至福と乙なものとはダブル感じがします

ので

★子に絵本読んで寝かせて日々至福

読む本の他に字結びの句として、日本、

本気、本棚、一本、本当、などで詠んだ

句がありましたので少し紹介します。

☆日本を背負って二刀流は行く 賢二

★日本を背負い笑顔の二刀流

☆本棚に想い出詰めてみる余生 良子

★本棚に想い出の喜怒哀楽見る余生

☆隠れ家は暮らしの手帖諭吉さん 双葉

隠れ家とは素晴らしい表現ですね。題である本が脇役みたいにな句になっています

から上5の部分の部分が長くなりますが

★暮らしの手帳をわが臍線の隠れ家に

次はどの本、どの作家ということだけでなく一般的なものという物についての川柳です

から敢て具体化する必要のない句。

☆友として本との会話楽しむ日 さくら

いい心境の句でこのままでOKですが

★友として本と会話の弾む日々

☆積んどく本増えて来ました老の部屋

風露

事実かもしれません、淋しいのでたくさん読んだことにしませんか。

★積ん読の山を崩した家籠り

☆スマホよりページをめくる本が好き

のぞみ

★スマホよりページ繰る手間愛でる本

前回の課題「雨」の句を一月月遅れで投

句されたのが一件到着。せっかくの投句ですから紹介します。

☆絹の雨葉も花洗ふ神の雨 ミヨノ

★葉に花に神の恵みの雨となる

以下、今月の佳句です。

○十歳に小川未明のちよい怖さ 誓子

小川未明（1882～1961）は高名な児童文学者で多くの小説・児童書があり、中にはちよいどころかとても怖い物語があるようです。「野ばら」は素晴らしいとの評判です。

○川柳塔リユックに詰めて旅の空 栄子

川柳に対する熱心さを買います。

○「美味しんぼ」子らに料理を教えられ 智恵子

最後に字結びの佳作。

○本当の寂しさ老いが連れて来る 静恵

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

原稿を書いている今は四月下旬、コロナウィルスの第9波が始まったとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

# 川柳塔鑑賞

同人吟 藤井宏造

— 6月号から

わたしにはちよつと無理です。

心配も不安も母さん聞いたげる

上田ひとみ

またまたやさしいひとみさん。しかし、あんまり甘やかすと、すぐ人に頼つてしまいますよ。ほどほどに。

旅立つて行く子どもたち振り向かず

大羽雄大

しっかりと未来に向かつて、歩き出したのです。振り向きませんよ、親離れしているのです。子離れしましょう。

ちっぽけなことだと悟るしまい風呂

久保田千代

今日腹立てたこと、湯に浸かり思い返すと、些細なことで、思えばホツと大欠伸。あーあいい湯だな。

メモ帳になつてチラシが蘇る

柿花和夫

裏が白紙のチラシの再利用いいですね。わたしも作句に使っています。きつと、チラシも喜んでいるでしょう。

明日一つあざつて二つ笑うだろ

中村恵

前向きな恵さん、明日一つどころか三つも四つも笑うことでしょう。元氣をもらえ

青空のむこう戦がまだやまぬ

本田さくら

青空のむこう、爆弾が炸裂し人々は死に、街は瓦礫と化し地獄を見る思いだ。一刻も早く終戦を迎えてほしい。

戦争はごめん賛沢言いません

高杉千歩

賛沢は言いません。お酒は半分に減らします。だから戦争しないで下さい。この願いは一市民の思いです。

あと一歩進めば何か動くはず

平井美智子

そうです。あとほんのちよつと、皆が動くと変わるのです。始めの一歩大事ですね。変らないそれでも投票だけは行く

吉田喜代子

喜代子さんは偉い立派です。私の一票ぐらいでと、思いがちです。だけど投票に行く。その心掛けが大事ですよね。

春ウララこないいい日に救急車

酒井紀華

空一面青空が広がって、ポカポカ陽気。そんな時、ピーポーピーポー何があつたのか、これが世の中言うもんですね。

やあやあと故人もかすむ通夜の席

木田比呂朗

友達のお通夜久しぶりに、友達とも会いワイワイガヤガヤ健康談義に、孫談義ミニ同窓会ですね。お静かに願います。

葉桜が園児迎えた入園日

片山かずお

関西では、四月始めに桜が散つて入学式の頃は、葉桜になっていました。これも温暖化の影響ですかね。

孫のなせに答える為に図書通い

松岡篤

やさしい篤さん、孫のためならどこまで調べ、ていねいに説明するのでしよう。

る句、ありがとうございます。

吐いて吸う間に歳をとっていく

牧 野 芳 光

本当にその通りですね。息をするたび歳をとっていきます。一分一秒たりともおろそかにできません。

冷蔵庫がらんどつです旅帰り

斉 尾 くにこ

旅の前に冷蔵庫を整理するとは、さすが主婦の鑑。今夜は有り合わせで済まし、明日一杯買って満杯にしましょう。

介護には見えない金がかかります

九 村 義 徳

そうですね、お金がかかると思いますが、知人もそう言っていました。回りの人は、わかってくれません。大変ですね。

量には篝の音が懐かしい

辻 内 次 根

洋室も和室も掃除機の時代、篝のサツサツ懐かしい音ですね。逆さ篝も今はもう死語になりました。

人恋し詐欺と知らず話し込む

中 堀 優

大丈夫でしたか？ 詐欺にあいませんでしたか。寂しい心にスツと入り込むのが詐

欺師です。ご用心あれ!!

寂しくてキーホルダーに鈴を足す

中 山 春 代

まだ足すのですか、鈴の音は愛しい人の声のようで、いつも愛しい人に守られているような、なんてごちそうさま。

元カノが知らん顔して去って行く

上 出 修

いえいえ元カノの心は、ドキドキバクバクですよ。ここは演技上手。それで、修さんの表情はどう見えたのか？

恋をして可笑しいですか喜寿ですが

小 畑 定 弘

おかしいことありません。何歳でも恋をして下さい。気になる女性がいるようなら、すぐアタックガンバッテ!!

大陸になつてほしいとプロポーズ

藤 井 寿 代

これはビックリ、男から女にですよ、ね母のようになりますか？ それでオッケーさね。たんですね。今は幸せですか。

蕎麦を炊くもらつた人を思い出す

前 田 楓 花

いい句です。あげた人ももらつた人もいい人です。蕎麦を炊きながらニコニコしてい

るのでしょう。おいしいじゃない句いがしてきます。ああ、僕も蕎麦が食べたくなってきた。

しわしわの手で渡される妻のお茶

北 澤 稠 民

いい句です。ご夫婦の歴史を感じさせます。二人して艱難辛苦を、乗り越えられたと思います。お二人は夫婦であり、同志でもあるのです。これからは、おたがいをいたわりながら、長生きをなさって下さい。お幸せに!!

入学式輝く顔のマスク無し

荒 牧 孝 子

口角の筋トレせよと脱マスク

藤 原 大 子

マスク下三年分を陽に当てる

福 西 茶 子

マスク関連の句も以前と比べ、様変わりになりました。コロナが五類になり、マスクするしないは、自由になりました。とは言え、マスクはコロナウィルスの、侵入を防いだと思います。マスクには大変お世話になりました。マスクを道端に捨てると、言語道断です。ありがとうございます。これからもよろしくね。

# 水煙抄鑑賞

— 6月号から

工藤 千代子

## 生き様を勝手に推理計報欄

新庄 芳 香

大往生であれ離別は哀しい。まして自分より年下だと闘病、事故かと。平均寿命、健康寿命、健康寿命を全うしてほしい。生かされている今に感謝している。

## テーブルの文具が邪魔な夕餉時

岡本 余 光

「晩ご飯だから、これらを片付けて」毎回言われ食事時に繰り返す我が家の日常、だけどこのテーブルで名句、迷句が生まれ育ってくれる。食卓が私の書斎。

## 鈍行に乗ってゆつくり見る桜

永田 美美子

笑いながら咲き風と遊びながら散る桜を車窓から眺めている。喧噪から放れ、しばし母である事すら忘れて。駅舎の傍の桜は今日もドラマを見続けている。

## 焙煎の薫りおしゃれな雨が降る

原 徳 利

丁寧に焙煎された珈琲の薫りを楽しみながらの至福のひとつ、今日は少し苦味が美味しいマンデリン。

## 春寒にまだまだ冬を仕舞えない

宮田 風 露

歳を重ねるたび寒がりになった。昼は暖かいのに朝晩は冷える。ジジ、ババシヤツが身近にあると安心してしまふ。

## 雑草と呼ばれているが花は咲く

山野 すみれ

昭和天皇や牧野博士の「雑草という草はない」という名言はよく知られている。人それぞれに固有の姓名がちゃんとある。オバちゃん、おばあちゃんとはなく正しくフルネームで呼んでほしい。

## 記念写真みんな平和な顔をして

田中 重 忠

「ハイ、キムチー」と韓国では言っている。哀しみや寂しさを閉じ込めた顔が微笑んでいる。

## 春色にしました今朝のマグカップ

郷田 みや

ランチョンマットや箸を変えたと、春

が新鮮になる。今日は歩数を伸ばして、薔薇やポピー、ラベンダーにも会いに行こう。

## 四年ぶり解き放たれて花の下

加藤 佳子

コロナにも感染症の5類感染症になった。移行後は自主的に判断とマスクや三密が個人の選択になった。各地で大会が実施される。柳友に四年ぶりに逢える。

## 家守るいうてもヤモリ気味悪い

阪本 秀子

我が家に夜毎遊びに来るヤモリは、シャンプー、リンス、コンディショナーと名付け、シャンプーとリンスは新婚旅行へ、今年はその子達に会えるかなあ。

## 留守しますチキンカレーありますよ

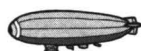
樫葉 良子

カップラーメン、うどんもあります。卵焼きぐらいはご自分でどうぞ、独りになった時困らないように。

## まばたきの数で測っている真意

真島 久美子

瞬きを忘れたように覗き込まれると、首を縦に振ってしまう。まばたきの回数が多いと疑ってしまう。友の癖だが、今日は騙されてあげるね、春だから。



## 夏を詠う

夏の訪れを告げるのが美しくも妖しげな蛍の乱舞です。早いところでは、五月の中旬から下旬にかけて、遅いところでは六月の中旬から七月の下旬にかけて「蛍狩り」の催しがあります。もちろん、「蛍狩り」と言っても蛍を捕るのではなく夕涼みを兼ねてそぞろ歩きで眺めるだけです。

優しさの中へ帰って来た蛍

小島 蘭幸

つかず離れずいもうとだろろう蛍とぶ

鴨谷瑠美子

蛍かこ兄がちよっかいかけてくる

太田扶美代

蛍のお尻見に行くツアー参加する

きとつこみつ

母ひとり蛍の里を離れない

堀 正和

子の無事を想う蛍が乱舞する

鈴木千代見

八月の「火垂るの墓」はレクイエム

斉尾くにこ

蛍のお尻が光るのはオスとメスが出会うためですが、その神秘的な点滅を見て私たちは様々な想いを広げます。また、幼い頃に父や母に連れられて眺めた不思議な光の舞いなど終生忘れられません。野坂昭如の短編「火垂るの墓」は、戦火の下、蛍の如く儚く消えた兄と妹の哀しみと鎮魂の物語。なお本欄106の「蝶と蜂と蛍」にも蛍の句があります。

ざつくりと西瓜を切れば夏匂う

門村 幸子

カップ入り細切れスイカ食べる夏

太石 洋子

夏来たる元気に転ぶ草野球

山口弘委智

まめにお茶まめにトイレが夏仕事

上田 和宏

糞暑い言葉下品になる暑さ

原 徳利

暑いから裸でお経上げてます

江島谷勝弘

ステテコでお散歩すればクールビズ

村田 博

炎天にママチャリ飛ばし墓参り

前田 楓花

夏のオヤツは西瓜が定番でしたが、最近はコンビニで手軽に買えるアイスクリームやシャーベット等に押されて需要が減っています。しかし、軽く塩を振ると水分と塩分を同時に補給できて熱中症予防になります。またビタミンCで美肌効果、カリウムで血圧改善にもなるスグレモノです。

男連中は裸でお経とかステテコで散歩とかチンタラですが、元気なおばちゃんは炎天にママチャリを飛ばしています。

猛暑日はだからだらごろり気が弛む

細田 裕花

微動だにせず酷暑の昼下がり

坂本 加代

何しても上手いかな暑い日は

坂 裕之

心頭を滅却すれば熱中症

今村 和男

この猛暑私も間引きされそうだ

今井万紗子

猛暑には冷やし甘酒飲んで克つ

山端なつみ

猛暑日の昼寝の介護扇風機

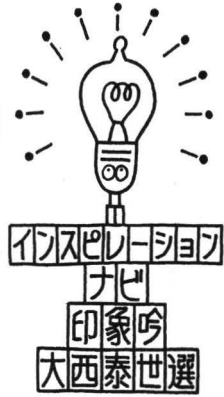
石田 孝純

この暑さ外で働く人祈る

住吉美和子

気象用語では一日の最高気温が25℃以上の日を「夏日」、30℃以上の日を「真夏日」、35℃以上の日を「猛暑日」としています。真夏日ぐらいいまでは何とか耐えられますが、猛暑日が続くと動くのも面倒でだらだらするのは誰しも同じです。

そのような猛暑日には「冷やし甘酒」でも頂いて、扇風機の爽やかな風を受けて昼寝でも…、と思いますが、屋外で働く人たちのことを忘れてはバチが当たるでしょう。



(投句 180名)

今年の夏も、またまた酷暑になりそうとか。それに台風が発生時期も早過ぎて何だか先が思い遣られます。日々の温度差も有り過ぎたりして、頑丈なつもりでいた私も体調を崩してしまいました。



鬼の霍乱、なんて言われても、しんどい時は怒る気もしないということが身に沁みました。

皆様方どうぞご自愛なさって下さいますように。

では、ナビを。

一生を貫くものがありました

(評) 仕事にしろ趣味にしろ、一生情熱を注げるものがあるのは幸せなこと。軸がブレると人生損をした気になります。

結局はカバンの底にあつた鍵

(評) あわてて捜す時ほど出て来ないん

唐津市 仁部 四郎  
津山市 高橋由紀女

ですよ。後から落ちて着いて見れば、こんな所にあつた、あつた。

夫婦つてきつと空中ブランコだ  
(評) 空中ブランコつて本当に見事です  
ねえ。宙にある手をシッカリ掴むのですから、信頼あるのみです。

マイナンバーかざし悠々あの世まで  
(評) マイナンバーは生涯に付いて回るもの。でも、エンマ様の前で名前ではなく番号で呼ばれるのは少々寂しいかも。

百均は値上げせずともやつてはる  
(評) ロシアの侵略から、便乗とは言いませんが、値上げ値上げの波。でも百均はあんまり変わっていません。

今時の幽霊足が付いている  
(評) 今はホントに何が起こってもおかしくない時代です。足の無い幽霊も見たこと無いけど、足の有る幽霊もまだ。

勲章を外すとただの老人  
(評) お隣りの国のニュースを見ましたけど、あんなに勲章一杯付けていたら外した時の喪失感や如何に！

朝が来たやることリスト読み上げる  
(評) キッチリとした真面目なお方、こ

枚方市 栃尾 奏子

西宮市 亀岡 哲子

芦屋市 新阜 義明

弘前市 福士 慕情

今治市 永井 松柏

米子市 妹能令位子

のように一日を始められたら無駄な時間なんて無くなりそう。でも、私ムリ。

時々ええことも言うお婆さん  
(評) 時々ではありません、お婆さんはいつもええことばかり言うているんです。エツ、どんなって聞かれてもねえ。

妻の味越えてはならぬ主夫の味  
(評) そうです、その通りです。妻の自尊心を傷つけて家庭の平和はありませんのです。ゴリツパです。

氣球に乗って隣の国の偵察に  
豊中市 山田 厚江

何度お手さしてもタマは覚えな  
奈良県 長谷川 崇明

木簡がバイブルとなる考古学  
池田市 太田 省三

花びら餅女系家族に一女増え  
生駒市 飛永 ありこ

積み上げる本の葉が物憂げに  
三原市 笹重 耕三

名刺代りに持たされた迷子札  
松山市 宮尾 みのり

こだわりの腕が時流に乗れず  
貝塚市 石田 ひろ子

試されているのか鍵を渡される  
堺市 澤井 敏治

探査機を凜と拒んだかくや姫



大谷 江島谷勝弘  
電球もぼつぼつ死語になりそうだ

枚方市 藤田 武人  
竹皮のおにぎり持ってツーリング

河内長野市 森田 旅人  
帰還船亡夫を連れて来るらしい

松山市 柳田かおる  
宇宙食シェフもとまどう星一つ

箕面市 出口セツ子  
振りあげた拳 終わらない戦

奈良市 山本 昌代  
脱ぎ捨てて心のままにアプローチ

大阪市 平井美智子  
本番の涙は別に取ってある

橿原市 居谷真理子  
拳骨を無理にほどこしてする握手

東大阪市 青木 隆一  
ゆっくりと流れにまかすそれもよし

三田市 野口真桜子  
シルクロード駱駝の背には水と酒

弘前市 高瀬 霜石  
いつだって倒れる時は向こう傷

松山市 郷田 みや  
最初はグー次の一手が決まらない

大阪市 森田 遊子  
ナメクジとでで虫ほどの違いだけ

熊本市 杉野 羅天  
全電源喪失キーワードはこれ

香芝市 大内 朝子  
もう少しこの世に居たい呼ばないで

佐賀県 真島久美子  
本当はフレンドリーなおバケ達

大阪市 岩崎 玲子  
夫源病ペットを飼って消えました

男鹿市 伊藤のおよし  
風になつても遊べそうオノマトペ

東大阪市 青木ゆきみ  
知識だけつめこみすぎて歩けない

神戸市 松倉 正美  
骨粗鬆症三回言つて舌をかむ

尼崎市 藤田 雪菜  
逆向きに寝てもおんなじ夢を見る

大阪市 井丸 昌紀  
特売の靴下買ったばかりに

笠岡市 藤井 智史  
からしでもいかががツーンとこない恋

尼崎市 近兼 敦子  
個性ある声で覚えていてくれる

弘前市 稲見 則彦  
回転がはやいだなんて褒めないで

西宮市 福島 弘子  
ばによぼによの猫の肉球堪らない

堺市 坂上 淳司  
金出してバンジージャンプなんまいだ

黒石市 北山まみどり  
数倍は疲れる駆け出しのキャディ

寝屋川市 川本 信子  
瓶ビールなくて栓抜き出番無し

米子市 後藤 宏之  
何者か自分でもよく判らない

鳥取市 福西 茶子  
おバキューの髪は三本あつたはず

大山市 金子美千代  
あらいいやだ風にウィッグ盗られそう

唐津市 坂本 蜂朗  
忠誠を骨一本で誓わされ

鳥取市 山下 凱柳  
私つて頭でつかちなのかしら

高砂市 裕木 るい  
身の丈を知っているバカ知らぬ馬鹿

大阪市 平賀 国和  
怠けると父の拳固を思い出す

朝霞市 前田 洋子  
輪の中で密かに舌を出す輩

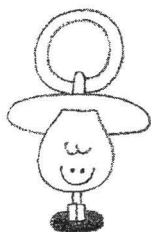
寝屋川市 平松かすみ  
パズルまだ解けずに秒針が早い

鳥取県 門村 幸子  
遣伝子に欲しい頭脳の明晰さ

河内長野市 藤塚 克三  
レストラン人気メニューがありません

宝塚市 丸山 孔一  
年を経て望郷の念いや増しぬ

## 9月号発表 (7月15日締切)



(平本 霧石人 画)

柳筆に2句

# 『良い川柳から学ぶ』

## 秀句の条件

新家 完 司 著

栗原道夫

本書は、「川柳マガジン」に平成23年8月号から連載している「名句を味わう理論と鑑賞」（現在も連載中）から532句の鑑賞文をまとめたものである（2023年4月22日初版・新葉館出版・A5判・288頁・1700円＋税）。

532句の鑑賞文をⅠ～Ⅲに分けて収録し、それぞれの扉には著者が考える「良い川柳」の条件が示されている。要点のみ抜粋する。Ⅰでは、「良い川柳は読者の心に訴えかける強い力を持っています。（略）良い川柳は作者の想いを具体的に述べて具象の力を引き出しています。」Ⅱでは、「良い川柳は一読明快でありながら味わい深く独創性があります。（略）内容

は独創的でありながら表現は簡潔明解であり伝達性を保っているのが良い川柳です。」Ⅲでは、「良い川柳は読みやすくリズムカルに仕上がっています。」

鑑賞文の中には、良い川柳や作句方法、態度などについても触れているものがある。何例か挙げておく。

人嫌いへちまのつるを首にまく

淡路 放生

観察で掴んだ具象か心象風景かは意見の分かれるところだが、いずれとも受け止めることができる句は味わい深い。

このバスでいいのだろうか雪になる

広瀬 ちえみ

多様な読み方に耐えられるのも作品の力である。

なんぼでもあるぞと滝の水はおち

前田 伍健

擬人法が成功するか否かは、作者が本当にそのように感じたかどうか、そして、その発想が斬新であるかどうかによる。

台風が近い暖簾が揺れている

伊藤 益男

わずか十七音で述べなければならぬ川柳の要諦の一つは、事象の細部を述べて全体を想像させること。

身の置き場無くて鴨居にぶら下がる

丸山 進

現代川柳では「おかしみ」が敬遠され気味だが、中でもナンセンスは作るのが難しい割には支持され難い。「評価など気にしない」と割り切った者だけが到達できる自由自在なワールドである。

ブルブルと秋をかき分けミニバイク

古久保 和子

擬音語や擬声語は既製品ではなく作者が工夫した「自家製」が効果を發揮する。

著者は「あとがき」で、「作者の実感が込められた優れた作品は、ユーモアのあつた軽い内容であつても決して薄つてはならず、読む者に様々な想いを抱かせてくれます。私の鑑賞はその奥深い味わいの一部を述べているにすぎません。読者諸兄それぞれの感性で自由に楽しんでいただければ作品もより一層精彩を放つに違いありません」と述べている。本書は、著者がその句を取り上げた理由を理解・想像しながら読むことにより鑑賞力を深め、また自分ならこのように鑑賞するなあと楽しみながら読むことができる一冊である。

# 本社 六月句会

◇六月七日(水)午後一時  
アウイーナ大阪

月間賞は居谷真理子さん(橿原市)  
(司会)武人・真理子(協取)奏子・すみ子  
(受付)孝純・雅美(懸垂幕墨書 耕治)  
(清記)憲彦・勝弘・国和

席題「肩」 江島谷勝弘 選

燕の姿を頻繁に見るようになった7日、本社句会は、116名(うち投句者18名)の参加で開催された。初出席は福島りかさん(大阪市)。今月のお話は川柳マガジンの松岡恭子さん。題は「川柳と怪談」。お化けや妖怪、霊などの語でオカルト的な作品を探すと、老人をなめたらあかん化けて出る 塩満敏 天国に酒がなければ化けて出る 新井美智子 化けて出るくらいの意地は持っている 新家 完司 幽霊になってもこなすスケジュール 藤井 智史 など。「言霊」になると、言葉の持つ力を信じて魂がこもると考えて大切に言葉を駆使している句が沢山あり、目に見えるものを超越したものをごく自然に詠まれていることに気づかされる。「川柳と霊(たましい)」をテーマにするべきだったか、と結ばれた。(眞澄)

肩組んで六甲おろしの心地よさ 森松まつお  
又少し右肩上がりだなコロナ 坂上 淳司  
朝刊を読めば肩こる事ばかり 平松かすみ  
肩組んでプーチンをやっつけようか 加藤江里子  
名人戦テレビ観ても肩が凝る 内藤 憲彦  
肩入れして正解だった照ノ富士 森 菊江  
肩触れただけで痴漢と騒ぎ立て 藤田 武人  
肩組んで赤旗振った日も遙か 山田 耕治  
肩を組みロシア民謡青春譜 水野 黒鬼  
不本意ながら肩もたたいた宮仕え 平賀 国和  
裕ちゃんのような男はもういない 上田ひとみ  
枇杷をとる遠い記憶の肩車 初代 正彦  
肩と肩擦れ合う距離にあるホの字 桃谷 和郎  
肩に手を回され意識してしまう 小野 雅美  
うっとり肩を抱き寄せ御堂筋 木嶋 盛隆  
捨てられぬ肩パッド付き半コート 藤田 雪菜  
片意地をはつて五歳のふくれづら 古今堂蕉子  
御洒落でシルダーバググレイウィット 両澤行平衛  
肩組んで効果で終うクラス会 大浦 初音  
女から母へと外す肩パッド 木本 朱夏  
肩組んでふたり一緒にこけました 島田 明美

ばあちゃんは兄ちゃんの肩ばかり持つ 村田 博  
横綱の肩にさわってみたくなる 八木 幸彦  
肩書きが取れて振ってるフライパン 平松かすみ  
何回も同じこと嗚呼肩が凝る 田原 康雄  
肩の荷を下ろせば次の荷が届く 宇都満知子  
とりあえず肩甲骨をほぐしましょ 初代 正彦  
おお怖い路肩分からぬ雪の道 桃谷 和郎  
虎造と肩までつかる仕舞風呂 内藤 憲彦  
歯の治療やつと終って肩で息 西上 遊二  
わたくしの肩でよければハイどうぞ 島田 明美  
肩の荷を下ろしたとこを狙われる 中岡千代美  
なで肩にまだ乗せている正義感 高杉 力  
肩の凝る話はやめてさあお酒 青木 隆一  
義理堅い男と飲むと肩が凝る 山崎 武彦  
約束は酒の上だと肩透かし 村田 博  
父の癖字右肩上がる遺言書 西上 遊二  
母ちゃんの肩に父ちゃんぶら下がる 齋藤さくら  
住  
酔いどれで肩と肩組む杖と杖 山野 寿之  
肩たたき券板にそつと入れた孫 藤井 宏造  
1200兆孫氏の肩は持つやろか 松岡 篤  
肉のうまきゅつとつまった肩ロース きたこうみつ  
一人つ子肩にずしりと父と母 緒方美津子  
人  
肩の凝る話はやめて酒や酒 藤井 宏造  
地  
右肩が痛い左肩はだるい 新家 完司

天

肩の荷を降ろしてゆるり棺の中 鈴木いさお

軸

ああしんど肩で息する私です

兼題「あふれる」

近兼

敦子 選

母ちゃんのおふれる笑顔給料日

反省の涙あふれる真人間

溢れ出る涙が語る行き別れ

目が合えば笑みがあふれるホの字です

一週間の汗があふれる洗いかご

割引きのシール溢れる冷蔵庫

昔はあったあふれる程の予定表

言葉より想いあふれて抱きしめる

あふれ出す湯船に誓うタイエット

懐かしい活気あふれていた昭和

古里のにおいあふれる宅急便

ぬるいコップにぬるいビールがあふれている

旅立ちの胸にあふれている希望

悲しみがあふれる夜の待合所

球児からあふれる涙もらい泣き

ベットにはあふれる愛をそそぐのに

並並と注がれ笑顔の祝い酒

思い出がじわりあふれてくる柵

むき出しは詰め放題に出る我欲

閉店セール満員の苦笑い

川端 六

山野 寿之

桃谷 和郎

初代 正彦

大浦 初音

鴨谷 瑠美子

奥澤 洋次郎

油谷 克己

栗原 道夫

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

丸岡 健

ドラマティックな出逢いもなくして最終章

此のひととドラマ夢見た青かった

妻と僕喜劇悲劇で五十年

伏線を回収し切るカタルシス

筋骨きの無いスポーツにはまり込む

千の風のち続いていくドラマ

ドラマより過酷禍のウクライナ

ドラマだなあ生まれる時も逝く時も

戦争をドラマのように観る怖さ

シナリオは私次第の空もよう

人間のドラマ行き交う交差点

十字架を背負う終わりのないドラマ

よく動くゼレンスキーにドラマ見る

フランス語のドラマボジュールだけ聞き取れる

ホスピスに命のドラマ咲く如く

今日どんな色を塗ろうか日々ドラマ

佳

環状線 駅の数だけあるドラマ

カーテンコール誰もくれないわがドラマ

人生に九回裏がある愉快

指さつねコンとひと鳴きしてドラマ

さあ朝だ今日のドラマが待っている

人

監督は妻ボクは夫を演じてる

地

人生ドラマ百態積んでゆくこの世

木本 朱夏

みざわはな

敏森 廣光

稲葉 良岩

福田 正彦

西村 哲夫

新家 完司

伊達 郁夫

初代 正彦

上田ひとみ

山野 寿之

藤井 宏造

江島谷勝弘

きとうこみつ

坂本 秀子

出口セツ子

佳

片岡 加代

西出 楓楽

石田 孝純

澤井 敏治

藤村 亜成

人

居谷真理子

地

今井万紗子

天

梅雨あい間老いのドラマを干しておく

一行詩ドラマが呼吸しています

兼題「もうい」

平井美智子 選

特攻機片道だからもうなかった

ケーキ二個女はそれで気が晴れる

煎餅を齧っただけで歯が欠けた

魅力だと思ふタイガースのもろさ

背伸びする見栄泣き虫の角砂糖

ひと押しが足りず脆くも消えた恋

横槍は強いが情にはもうい

涙もうい言うても猪口は離さない

粘り腰さかずあつさり寄り切られ

一瞬のもろさを秘める人の縁

嫁ぐ娘に涙腺緩む太い眉

鉄人もちよつと錆出る七十五

身に覚えなない青あざがここかしこ

もうい翅でした守れませんでした

気付かぬうちに錆びていた蝶番

日本列島今日どこかで揺れている

AIはもう刃の剣かも知れぬ

夜に泣く気丈な母のもろさ知る

情けには脆い男でよく転ぶ

やさしさに触れると涙もろくなる

足を入れるとガラスの靴は砕け散る

伊達 郁夫

川本 信子

長尾 千賀

大内 朝子

小島 蘭幸

石田 孝純

森 廣子

津守 柳伸

澤井 敏治

坂 裕之

中井 萌

伊達 郁夫

内藤 憲彦

阪本 秀子

折田あきこ

宇都満知子

きとうこみつ

古今堂蕉子

青木ゆきみ

川端 六次

高杉 力

中岡千代美

一言でぐらり崩れる砂の城

奢りだと聞き休肝日止めにする

人知れず情にもろい頑固者

くすぐれば意外にもろい強面

涙もろいから忠臣蔵が好き

背の高いイケメンですが骨が無い

歳を経てもろいハートも鉄となる

切れそうな糸離さないのは男

お金の前にもろく崩れてゆく理想

珍客にすぐ中止する休肝日

ランチュウの苦勞見ている金魚鉢

欲望を捨てればもういあばら骨

夫には強いが息子にはもうい

懐の寒さをついた闇バイト

犬掻きで泳ぎ続けてきたいのち

脆さを武器にゆらゆら生きて絹豆腐

別嬪に脆い焼酎にも脆い

力加減とても大事なシャープペン

鮭缶の骨のもろさと恋ごころ

もうくなつた人間らしくなってきた

もういから愛は演歌になるのです

森松まつお

島田 明美

四角くて固くてもろいお父ちゃん

耳掃除されると心太になる

地

居谷真理子

藤井 宏造

木本 朱夏

斎藤 隆浩

森 廣子

八木 幸彦

森松まつお

両澤行兵衛

大浦 初音

みざわはな

敏森 廣光

澤井 敏治

青木ゆきみ

小野 雅美

藤田 雪菜

桃谷 和郎

西出 楓楽

島田 明美

佳

新家 完司

平松かすみ

栗原 道夫

島田 明美

森松まつお

人

居谷真理子

地

藤井 宏造

天

やんわりとガラスの母を抱き起す

山崎 武彦

軸

鋼には鋼の脆さ 家族の輪

兼題「焼く」 川端 一步 選

老春をまだまだ謳歌日焼け止め

大内 朝子

夕焼けにどんな絵の具も及ばない

三宅 保州

すき焼はお祭りだった昭和の日

廣田 和織

心まで綺麗になったとんど焼き

藤井 則彦

そら豆をさやごと焼いて初夏の酒

居谷真理子

大阪は誰の家にもタコ焼き器

大久保眞澄

愛情で焼くから芋が甘くなる

青木ゆきみ

何枚も焼き増しをしたあの写真

木嶋 盛隆

焼き鳥はやつぱり屋台うまいなあ

柴本ばつは

戦争は民が犠牲の焼け野原

江島谷勝弘

ミサイルに世界手をやく北のボス

長谷川崇明

人の世話焼いて傘寿のポランティア

山野 寿之

秋吉台パノラマとなる野焼き

小島 蘭幸

妬き餅を焼く齡でなし知らんぶり

みぎわはな

手を焼いた子らに囲まれ桃源郷

斎藤 隆浩

初登山朝焼けの富士素晴しい

森 廣子

火葬場のけむり宇宙に溶けていく

山下じゅん子

値上がりをはやくも好きな玉子焼く

富永 恭子

世界が手を焼くプーチンの悪業

宇都満知子

たこ焼きもお好み焼きもチンですむ

森松まつお

焼け焦げた跡が絶えない世界地図

平井美智子

何もかも燃やす焚火が性に合う

両澤行兵衛

火葬場は数多の無念焼き尽くす

小野 雅美

廃船を焼いて漁師は島を去る

柿花 和夫

夕焼けは歌になるほど美しい

田中 廣子

冷凍のサンマを焼いて誕生日

山下じゅん子

レアに限るギフトでもらう神戸牛

きとうこみつ

茶毘に付す許されたんだとおくる

栃尾 奏子

世話を焼く好きなおばさん居た昭和

穂谷 和郎

手を焼いた孫が小遣いくれました

川端 六六

雑草を焼き払ってから出直した

坂 裕之

栗の実のはじけて笑うごんぎつね

饗庭 風鈴

日本刀焼きに心血刀鍛冶

長谷川崇明

妻が留守目玉焼きなら得意です

齋藤さくら

一日が始まる香りパンを焼く

内藤 憲彦

焦土から復活遂げた我が日本

村田 博

惚れたからお餅のように世話を焼く

青木 隆一

備長炭何を焼いてもアテになる

片岡 加代

パンを焼く平和がほしいウクライナ

立蔵 信子

人間を焼いてはならぬ核兵器

上田 和宏

住

薫風忌目刺しを焼いて一人酒

緒方美津子

ウィルスに負けないように肌を焼く

新家 完司

大阪が焼けた七つの目に涙

山田 耕治

人の棲む地球を焼いて何とする

中村 恵

焼けた街海馬に残せG7

藤田 武人

人

父の日だ秋刀魚きれいに姿焼き

柴本ばつは

地

焼け跡に耳を澄ませばゲンの声

澤井 敏治

天

戦争は人のこころも焼き尽くす

内藤 憲彦

軸

玉子焼き値上げの分も味わって

兼題「自由吟」

小島 蘭幸 選

別腹も用意してますますまだ卒寿

北野 哲男

プーチンはピース出来ない指も持つ

東 敏郎

侍のフルスイングの風の声

大沢のり子

仲直り出番待ってる豆ご飯

中井 萌

合わぬ間に八十越えたクラス会

大浦 初音

うつむくだけのあの日に君を戻さない

島田 明美

頑張れよウクライナから来た力士

森松まつお

野球帽かぶり毎日日曜日

山田 耕治

とこしえにわたしの視野に居るあなた

居谷真理子

どうせなら優しい人に弱音吐こ

近兼 敦子

真っ白な等身大でいる私

藤田 武人

兵を引けきつと話題の人となる

川端 一步

ご無沙汰の墓を洗ってくれた雨

宇都満知子

手八丁口八丁でああしんど

川端 六六

茶をいれる妻は全てをお見通し

山崎 武彦

交流戦トラもいよいよ正念場

初代 正彦

補聴器があなたの声を聞きたがる

今井万紗子

世界遺産の古墳の傍に住んでいる

鈴木いさお

平和の文字歪んで見える万華鏡

内田志津子

## 島根県川柳大会

日 時 9月17日(日) 開場 午前10時  
出句締切 午後1時30分

場 所 太田市・あすてらす  
(島根県男女共同参画センター)

参加料 1500円

欠席投句 1000円(現金または小為替)

投句締切 8月25日(金) 必着

投句用紙の規定なし

兼題と選者 (各題2句吐)

「ガラガラ」 竹治ちかし 選

「ノルマ」 寺田 勝美 選

「年金」 渡辺 康乃 選

「白」 熱田熊四郎 選

「ロマン」 長谷川康子 選

「葉」 新家 完司 選

投句先 〒693-0013 出雲市荻村町363

柳楽 たえこ 宛

電話 0853-22-6023

## 第17回 岡山県川柳大会

とき 9月10日(日)11時30分 投句締切

ところ 天神山文化プラザ 1階大ホール

岡山市北区天神町8-54

駅前から路面電車徒歩3分

◎課題と選者 (各題2句)

「王様」 藤井 智史 選

「干す」 しばたかずみ 選

「路地」 坪井 新 選

「嫁ぐ」 永見 心咲 選

「コント」 高木 勇三 選

「クレヨン」 杉山 静 選

「流れ星」 田辺と志魚 選

「沈む」 平井美智子 選

○当日席題 杜 青春 選

★参加料 1,000円(大会誌呈 弁当・記念品無し)

★欠席投句あり

投句料 1,000円 締切 8月20日(日)消印有効

投句先 〒719-0104 浅口市金光町古見新田1325-10

北川 拓治 宛 電話 0865-42-6039

※問合せ先 遠藤 哲平 電話 090-1687-9080

雨宿りできる書店が消える街  
性別を問うてはならぬ黒揚羽  
半分こ仏と食べる初西瓜  
迂回路を教えてくれた深呼吸  
アメリカで兜が称うホームラン  
おやつまで報道される聡太さん  
凡人でよいと昼間の缶ビール  
古都めぐり妻は京都派ボク奈良派  
フードコートへひとりで行ったことがない  
剃り跡の青さ息子にもう負けた  
泣かんととき私の元氣あがるから

加藤江里子  
木本 朱夏  
森 廣子  
川端 六点  
福田 正彦  
新家 完司  
折田あきこ  
鈴木いさお  
立蔵 信子  
柴本ばつは  
平井美智子

「異常なし」気分は生まれたての朝  
びつたりと去年と同じ日につばめ  
パイデンも私も転けている段差  
治療力が落ちたな三日目の朝に  
カナヘビのカナ君庭で虫退治  
輪になって踊ろう銃は捨てなさい  
恋活をやめて豚カツ食べて寝る  
佳  
眠ってる間も少し背が縮む  
悩みなさい速回りしなさいと風  
水くさいぐらいが母にいい介護

石田 孝純  
柴本ばつは  
きとうこみつ  
内田志津子  
谷口 東風  
小野 雅美  
青木 隆一  
古今堂蕉子  
立蔵 信子  
内藤 憲彦

手を繋ぐ心を通じますように  
不足言うたらキリが無いけど愛してる  
人  
皇族は一人もいない飲み仲間  
地  
ピアノを弾いていた母の日のひとり  
天  
父親になった何かをあきらめた  
軸  
声出し応援いいねタイガースもいいね  
居谷真理子  
宇都満知子  
新家 完司  
藤井 宏造  
中岡千代美

# おとせの城

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようにお願い  
いたします。

編集部

## 川柳塔みちのく(青森) 稲見則彦報

寝坊したボクを許した春の雨  
優しさは飢えてる人よいらっしやい  
優しさは母の背中に宿ってる  
母ちゃんが優しいだとは知らなんだ  
『よりそう』の言葉近頃大バーゲン  
シュークリーム財布に優し味やさし  
ばくとつで優しい人に憧れる  
一声千両母の優しさ愛のムチ  
優しさはさりげない程ジンとくる  
意地悪の後の優しさしみるねえ  
優しさに気がついた時もう鬼籍  
誰にでも優しい顔はあるのです  
幼子は優しい人を嗅ぎ分ける  
優しいが時に厳しい介護職  
席はずる小学生の手がどうぞ  
優しく綺麗なひとは他人の妻  
花びらが優しく頬を撫でて散る

ひとし 吹喜 一呑 則彦 英子 ひろ 孝子 洋子 隆子 澄子 規子 真由美 初枝 柳子 義明 風来坊 慕情

## 川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

鯛不漁ナマハゲ吠えてカモメ鳴く  
大福はやっぱり赤い方がい  
足音も立てず近づくと認知症  
真夜中に一息をつく玩具箱  
寒くてもビールで喉をきりり締め  
骨つこになつてしまったなあケヤグ  
日曜は早起き 午後にはしがみつ  
手にとつて元に戻した物価高

のぶよし 龍馬 ふさあ 島 重虎 霜石 和香子 美鈴

眼代代りに愛用している哲学書  
本物の私に出合う一ページ  
読み聞かせ母は子供に夢託す  
一本の鉛筆銃を恐れない  
立ち読みが一番頭によく入る  
こつこつと杖のリズムで歩調とり  
こつこつとあつちこつちをぶらぶらり  
こつこつと草取り終えてヤッターと  
こつこつと破れ衤もさしこする  
鉛筆をこつこつ削りさあ書くぞ  
日記には日々のヒットを記している  
さようなら六十年のコレクション  
コツコツといのちを削る出勤簿  
今時と戦後のギャップ心揺れ  
グラッと来たら奥さまよりも先逃げ  
揺れている終焉の地はふる里か  
花びらが揺れるひとりの誕生日  
終活にもつたないが揺れている

節子 紀子 滋 美知江 陽之助 大鯨 照彦 悦子 久米代 紀美恵 貴子 宣子 重利 芳江 完司 余光 美ツ千 清

## 竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

脳味噌がぶらりぶらりと揺れている  
ブランコを揺らして幼児期に還る  
千振を胃薬として飲んでる  
花粉症特効薬はないものか  
これからだ百葉の長手離せぬ  
飲んでいるはずの薬がよく残る  
旅したくまはずは薬を用意する  
薬飲み酒飲みやつと生きている  
ごちゃ混ぜの薬何かが良く効いた  
春風に躰いたのも薬です  
もう一度牡丹になれるかと媚薬

石花菜 芳光 重忠 富隆 義人 龍枝 みゆき 紀の治 貴恵 三津子 くにこ

会うことも別れることも人の道  
分かれ道どちらを選ぶ妻に聞く  
生きたとは出会いと別れの繰り返  
第二ボタン貰い夢へと桜道  
失恋ソングに私を重ねて生きてきた  
鬼・母の心に秘すドラマ  
マイドラマ最終章を演じきる  
謎解けてウマイウマイゾ今日の酒  
我が家には妻の笑顔が謎を解く  
謎めいた風貌そが売物さ  
すぐ変わる女こころのミステリー  
白木削って謎はますます深くなる  
猫撫で声又も私に向いている  
いい選手ばかりでカーブなぜ勝てぬ  
謎めいた美女女目指して里に棲む

節生 日出夫 千代美 弘子 蘭幸 敬子 比呂子 節夫 栄香 宣之 昭紀 笑子 慶子 白狐 夢香



神秘のベールでわたくしの値を上げる  
恋人の名前を付けて謎にする

悩み事誰にでもある大丈夫

努力義務八十路に辛いヘルメット

写経しても雑念が未だ残り

花吹雪私を浄化して去りぬ

みんな笑顔道ばたのチューリップ

弁当を作る母ちゃんみな偉い

あめふってさくらのはっぱになっちゃった

五歳すず

ヒザのきずバレエをがんばったあかし

小二 央

やさしいけどおこるとこわいお母さん

小三 沙弥

### 南大阪川柳会

松岡

篤報

目を細め顔が語っている旨さ

阪神勝てばお酒も旨い食すむ

見てくれは悪いが兜煮は旨い

追伸にちよびり釘も打っておく

三行でここが通う母の文

手紙ではまどろっこしいと会いに行く

励ましの手紙に生きていたくなる

追伸にさりげなく書く「カネオクレ」

父らしい手ぶらで来いと云う手紙

飢餓の子を助けたくなるコマシヤル

ああとうとう杖の助けを借りないと

手荷物をお持ちしますが疑われ

柳子

五七五は我が人生の助け舟  
世を渡る助け合つてゐる夫婦箸  
ひよっとして君は助けた雀かい  
物価高妻のへそくり助け舟  
裏方に徹し手柄は人のもの  
今一つ相手転んで得た勝利  
三十年娘と同居ラッキーだ  
処分前透かした祝儀袋から  
茶柱が立つて喜ぶ小市民  
縁を得て君と歩いた長い道  
ラッキーが続くつねると痛くない  
ラッキーといつも努力を無視される  
ビルの谷間から陽が昇るのを拝む  
切つて取るそれしかない冷めた医者  
白髪をブルーに染めてさあ旅へ  
失った記憶を戻す子守唄  
甘言に弱い自分を責めている  
この道もマスク外すと別世界  
ヘルメットマスクにめがねあったれ  
気づくことたくさんあった下り坂  
ボチ撫でて血圧下げている夫

### 和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

趣味なのか母の集める包装紙

主婦業の卒業華にする余生

親離れ子離れする卒業日

卒業の見込みのため医者通い

通帳を観るのが趣味という洪茶

国和 弘子 東風 楓楽 俊雄 篤 瑞 常男 志津子 昌紀 実 焦子 シマ子 紫 加お里 亜成 紀乃 峰子 双葉

宏枝 ひろ子 昭枝 俣子 和子

高瀬霜石選

足腰を和式トイレで鍛えてる  
挨拶をしなきゃ笑顔は生まれまい  
まだ充分あると思つていた預金  
不可侵条約を夫婦でも結ぶ  
勝ち組になれぬ仕組みができて  
Z世代軽々壁を飛び越える  
速いミサイル遅いJアラート  
お互いをいたわり歩く犬と僕  
軍拡の次は徴兵かも知れん  
墓をどうしよう実家をどうしよう

義明 昌鼓 隆彦 宏之 洋次郎 久仁雄 吹喜 ひとみ 北朗 正人

### 佳句地十選

(6月号から)

古久保和子選

緑日の父の肩から見た景色  
風ぐるま今日のドラマが回り出す  
耕した土の中にもいる命  
夕焼けは岬と海を混せて溶く  
ドーナツの丸を覗いてみな笑顔  
美しい日本語を知る古い歌  
ひとり旅時計を持たず風と居る  
人を持つポストが街角にぽつん  
小石蹴り湖面の月を笑わせる  
コンピニの灯り孤独を募らせる

則彦 昭枝 宏章 京子 史子 契子 恭子 紀乃 正彦 寿子

退屈な余生彩る川柳に

平和への願いがこもる万国旗

桜咲く便り多すぎ悩みます

趣味一つ知らない母の太い指

だんだんに残り時間が惜しくなる

印鑑をわざと斜めに押す反旗

卒業をしてからわかる親の庇護

人生に卒業式はありません

過去は卒業これからだけが人生だ

色眼鏡かけず物見る趣味の良さ

趣味一つ心のドアをノックする

息抜きの趣味シアターの二本立て

野心まだあつて磨いて続く趣味

自らの矜持の旗は降ろさない

色々ヒントいっぱい散歩趣味

多趣味でもずば抜けているものはない

振り向いてくれるの待っている手旗

年重ね余生楽しい趣味の会

平和の風に旗は一番よくなびく

茶髪の子日の丸見上げ涙する

巣立つ子にあかりと地図を贈りたい

最期まで卒業なんて考えぬ

旗のため幾方の兵盾になる

全世界国旗ひとつにまとまれば

無趣味です川柳だけを詠んでます

ときめきが趣味を大きくしてくれる

もうそろそろ卒業したいおさんどん

仰げばの世代の涙枯れて行く

まき

敏照

一雄

純子

碧

保州

起世子

善治

彦弘

義泰

あき子

明子

和美

康則

俊介

知香

八重子

眞智子

悦男

静代

桂子

幸

智子

たかこ

與一

幸彦

まつ子

夢子

マスク卒業桜が笑顔つれて来る  
趣味仲間笑顔の裏になる闘志

城北川柳会(大阪) 近藤

告白の勇気ちよつぷり酒に借り

偏差値が足りず極楽ことわられ

周囲から冷たい視線専用車

泥遊び母の度量が図られる

極楽に行く楽しみが待っている

隣近所貸し借り普通昭和の世

酒つがれふと見てみれば広瀬すず

明るい心糧にして今日も生き

一度だけ借りたい脳の人がいる

合掌の形で蓮は泥に咲く

蓮根が泥田で育ち日の目みる

どないしよううつかり乗った口車

妻の力借りて豊かな余生です

しまったなその一言で敵つくる

気兼ねせず飲みに行ける日もう真近

極楽での逢う場所妻と決めてある

若葉風マスクはずして深呼吸吸

井戸端会議今じやラインが姦しい

泥くぐり後ろ姿の渋い人

きつと花を咲かす決めて破る泥

スーパ一の惣菜褒めて妻が拗ね

今が極楽なんの文句も有りません

極楽に指名が欲しいどう生きる

泥水を飲んで男は再起する

臣展

千鶴

正報

俊雄

実

章

ゆきみ

朝子

福貴子

隆一

野鶴

一步

郁夫

正彦

繁子

廣光

峰子

隆浩

洋志

満知子

博

千恵子

北舟

宗鉄

廣子

杵香

捷二

手を借りてやっと登れた七合目  
うっかりと言うが本音はしつかりと

うっかりでは済まぬ帰りの靴が無い

久し振りに上げ膳据え膳露天風呂

極楽の境地へ誘う夢まぐら

歳の数かける百歩は歩いてる

うやむやをはつきりさせる塩コショウ

今日一日楽しく私へのノルマ

もう敵わない口八丁手八丁

卒寿すぎ指がしびれて苦労する

後悔と焦りを解かすコップ酒

長柳会(大阪) 大島ともこ

チャンスを生かせ友のひと言背中押す

誤解した潤む瞳は花粉症

親友になってしまった持病達

生けとし生ける闇から光すぐに闇

判子屋を叩きのめした判子レス

回復期美人ナースが気にかかる

答弁は全部任せたいAに

親譲りじたばたしない太っ腹

見えてきたあなたの本音生き様が

私を妻に選んだ目の高さ

風船と黄砂を運ぶ偏西風

御朱印帳めくって旅を振り返る

謎めいた笑顔に胸の灯が揺れる

都合いい誤解は解かずあの世まで

X印だんだん増えるわがパーツ

万紗子

榮子

恭子

賢子

志華子

優

和織

千賀

肇

ルイ子

和夫

ともこ

福子

ヒロ

直樹

淳司

ふみ

おくみ

たけし

かこ

正美

くにお

由夏

和子

孝代

隆彦

無印にノーブランドの意地をみる  
五十年連れ添う免許感謝する

頭頂部輝き増すが錆びる脳

向こうから見れば私が檻の中

隠し味目立たぬ様に仲間入り

嘔吐して誤嚥はいえん娘が介護

妻黙るその間が不気味正座する

雨宿り相合傘は忍ぶ仲

無印になって気軽に物が言え

ひとり夜に駄句をひねって紙の辞書

### 川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

折角の晴着も影に無視される

共に生きいつか互いの好む味

金と暇あるけど遊べぬ要介護

長生きへ百薬の長欠かせない

迷わずに即決めた夫今もなお

無理しないわが限界をわきまえる

藤が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

佗助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

### 川柳鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

蝶番持ちつ持たれつ支えあう

悪人は独りもいないゼロ歳児

浮雲も風の吹きよでせかせかと

幸子

規之

光弘

正博

孝博

靖博

純風

隆明

克巳

澄子

北澤 稠民報

哲男

稠民

重男

剛

良子

美智子

哲夫

すみえ

智恵子

純子

ひとみ

茶子報

楓花

宏章

孝子

これきりにします君の中僕はゼロ  
のんびりと雲の流れに遠い人

移る世の浮草になり根は昭和

米寿超え浮雲のごとくゆつたりと

農作業痛めた腰の蝶番

新人が一人もない新年度

満開の桜全てを語り散る

完敗だおしやれが過ぎて浮きました

春風の香りは初恋の薫り

僕だけが知らない内に浮いている

風吹けば薄毛をなでる癖が出る

思い出が花びらにのり風に舞う

口紅でホッペに0と書き量す

解らない新語の中でボクは浮く

羨ましおし鳥いつも二羽で浮く

正直に浮くから灰汁は掬われる

海上を渡る蝶なり勇氣あり

何にも言うな全ては俺が悪いんだ

浮きうきとマスク外してお茶会へ

お似合いの蝶ネクタイの七五三

桜満開内緒話が浮き上がる

蝶番がだんだん軋む老いた腰

### 富柳 会(大阪富田林)山野 寿之報

被災地へへそくり僅か義援金

救う鍵合うまで探す目と耳で

菜の花に蝶に踊り心舞う

手を繋ぐダンスあの娘へあと二人

友真

弘子

静恵

白周

ゆたか

弘六

すみれ

孔美子

完司

草文

文道

小鹿

茶子

盛桜

恒

紫陽

大鯰

蟹郎

瑞子

一平

美ツ千

重忠

寿之報

きみ子

涼子

由子

武人

逢いに行く靴には羽がついている  
じたばたと自由欲しがる人の性

楽しみは旅の夜風が待つ景色

荒天をついて決死の救助へり

寂しくなり幼なじみは皆逝って

春が逝く握りこぶしの隙間から

ふるさとの五月の森に椅子を置く

お喋りで孤独を救うボランティア

旅の夜の一人を救う波の音

縦社会離れ仲間と馴染む趣味

チャリ快調メットをつけて若返る

雨あがり地面浮きたつネオン街

有名人選挙応援命懸け

連休の高速連夜赤い帯

素顔でハグ最初で最後読む答辞

夜霧から現れ消える港町

ふわふわと春風受けて舞いあがる

修業とは現世を生きる覚悟なり

欠席のあの子今日また母介護

追加した大化け見事ヌートバー

### 倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

何もない町だが桜だけ見事

桜咲く悲しいことは忘れよう

日本中はがき一枚飛び回る

一瞬に呑み込む平和あの戦争

便利だなロボットが食事運んでる

免許を返して知る車の便利さ

恵

由夏

一文

壽峰

正義

あかり

かこ

和子

晴美

寿之

章子

正邦

欣之

きよみ

勝矢

隆充

和雪

常男

義明

完司

醉芙蓉

照彦

龍枝

紀美恵

鬼一

歴史をかたる醍醐桜が天を突く  
逢う迄は落ち着けないな曾孫来る  
桜土手ドローン使い撮影か  
うまそうに呑むビールのCMばかり

好きな人出来てそわそわその昔  
そわそわし朝刊読んで今日も没  
こわいのは地震津波が人を呑む  
三年の憂さを晴らすぞ花見酒

大谷のバント思わず息を呑んじゃった  
お金より便利な足を揉んでいる  
WBC後一球だ息を呑む  
添木され老いた桜が花咲かす

鯉のぼりさくら吹雪に酔っている  
川柳遊ぶほう会(大阪) 石田 李純報

綿棒に癒されている風呂あがり  
二日目のカレー食べ切るダンナ様  
耳かきは綿棒にする赤い鬼  
はらはらと上手に泣いて許される

明けぬ朝来ぬかもしれぬ絶不調  
告白の返事ふるえて待っている  
反省文6Bで書く雨の夜  
棒きでヒーローなりし昭和さる

翔平も人間ですよノーヒット  
八十路過ぎ時に頭が働かず  
辛い日もうまい棒食べほつこりと  
見つけたらホームランバー大人買い

棒ひとつ忍者になって駆けた日々

重忠 風露 恵子 智恵子 日出子 けいこ 凱柳 大鯨 麦青 道春 由紀子 雄大

じいちゃんのラインに謎の棒グラフ  
本棚に並んだ過去がガサゴソと  
棒鯉が一品となる祝い膳  
返納をいやがる父の横に乗る  
風呂敷を広げたあとの綱渡り  
美智子 恵子 敏郎 喜美子 孝純

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

扶けあつて生きていくしかない老後  
薄味に慣れても鰻濃い味で  
新車でも孫は軽々車庫に入れ  
AIが誤り覚え世を乱す  
主婦業のベテラン手抜きうまくなり  
美千代

川柳塔わかやま 川上 大輪報

次男次女お気軽なんて言わないで  
輪郭のどこどこにDNA  
マスク顔輪郭不明やさ男  
初恋は輪郭だけの走馬燈  
家族葬ピンボケ写真笑つてる  
人生の輪郭霧が消えてきた  
アウトライン心得ているマイブラン  
虫喰いの跡をなぞれば母の顔  
幼子のとんと見掛けぬよだれかけ  
根つからの口いやしきで出るよだれ  
セーフだったらしいドクターの笑顔  
回復の兆しよだれが垂れ出した  
春や春よだれを垂らすほど眠る  
途上国よだれ出そうな子沢山  
何とかセーフでのりきる締切日

知香 真弓 晶子 敦巳 精子 富美子 大輪 光 節子 佳子 保州 夕胡 紀子 ほか

二回めのセーフ三回めを頼む  
検査結果はどうやらセーフさくら咲く  
四捨五入の五の中にいる安堵感  
宴遊びアウトセーフの夢芝居  
玉の汗やれやれセーフ終電車  
検診やセーフの数が減っていく  
小 雪 あきこ 俣子 信勝 よしこ 八茶

ふうもん吟社(鳥取) 山下 凱柳報

賞味期限切れておーどーになった  
慣れだすとおーどーしだす議員さん  
おーどーな爺も怖がる世間の目  
おーどーなどじょうすくい腹かかえ  
(おーどー=大胆な)

独居とはこういうものか妻入院  
久しぶり交わすお酒に花も酔う  
過疎の川守る気骨の泥すくい  
スタイルが気にならなくて老いていく  
窓全開嬉しう二ユース待つている  
道標はあなただけだと天仰ぐ  
覚めないで欲しかった亡母の夢  
すぐ破る約束だったのか風よ  
五十年夫婦芝居をみた時計  
時経ても癒えることないわだかまり  
アナログの時計解雇は世の流れ  
時計には束縛されず暮らしたい  
八月の時計平和を打ちならす  
容赦ない寿命が落ちる砂時計  
あと十秒ミサイル来るぞそれ逃げろ  
無事であれば時化を乗り切り漁に出る

節子 厚子 白兎 鐘旭 哲子 みゆき 真理子 拓治 みつ子 頼太 やしこ 勲章 千賀子 欣之 勲章 蟹郎

後期高齢あと十年は無事願う  
何もかも無事を祈るも何もせず  
心配事今日もなかった酒にする  
ヘルメット割れて頭が守られる  
児童らの無事を見守り十二年  
何事もなくて静かに床につく  
向日葵も咲いた笑った今日の旅  
還暦からの青春18キップ  
思い出のページお喋り枕投げ  
誘われて墓地見学のバスツアー  
絵手紙をはみ出しそうな一人旅  
旅に出る少女やつぱりVサイン  
日本中自由に旅をする切手  
海鳴りの真つ只中を旅行中  
名門校の歴史を刻む時計台

川柳花の輪(大阪)

川本 信子報

ふらりと出ふらふら帰宅は千鳥足  
ふらふらと行きついた先パラダイス  
ふらふらと歩くのもいい繁華街  
ふらふらとふ化した蝶が天空へ  
眠りなどどこ吹く風とWBC  
行動に意味は求めぬ青い時  
子供には言って聞かせてやってみせ  
ごめんねと初めに言えば済んだのに

ブラザ川柳(大阪)

藤塚 克三報

高齢化社会の未来読み取れぬ

房江 大 振作 龍彦 勝 金祥 洋子 高明 茶人 久千代 美ツ千 稲佐嶽 無限 舞 凱柳

手を見れば年がわかると厚化粧  
含み笑い知ってますよと席を立つ  
デイに行く送り迎えのない私  
読めませんキラキラネームルビ無いと  
頭痛もちやつと一息代はヒザ  
朝市の賑わい孫の頭追いつ  
妻の手の内では夫は放し飼いの  
読み聞かせ一番にパパ高いびき  
手の内を半分明かし様子見る  
プーチンの頭の中を覗きたい  
手に書いた「人」の字読んでいざ登壇

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

物価高血圧までも負けてない  
いち早くマスク外すもバツ悪い  
目立つのはコンビニ空き地駐車場  
行く先は同じちよつぱり遠回り  
ご近所のあの手この手に感謝です  
夫と遠出しつかり遺書も書いて出る  
新緑は身も心まで解けてゆく  
心には効いた気がする美人の湯  
年金日元気もりも笑顔です  
歳がいもなくわくわくとWBC  
世の中は半導体に踊らされ  
連歌を独り春のうららにあきもせず  
婆さんと朝からあくびし合う仲  
見上げた星が光った亡父と亡母  
吠える大置いて出るのもつらいもの

園子 政夫 靖子 悦夫 景子 和代 一彌 清乃 弘光 正子 淳司 久直 ひろし 俊久 恵子 宣子 美穂 治代 令位子 菜々 瑞枝 美緒 千代 雨奇 宏之 日枝子

値上がりに入れては出してレジの籠  
シベリアの風が災い連れてきた  
紀の治

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

カジノ阻止署名のペンも無駄なのか  
ペンの自署覚悟のほどが滲んでる  
ボールペン最後の一滴見届け  
お手本でペン字練習懐かしい  
鉛筆の遺言書にはうそも入れ  
ラブレターここが勝負とペンを持つ  
ホワイトボードうっかり書いた油性ペン  
歪む世をペンの力でならみつ  
推しの歌手合いの手入れるお婆ちゃん  
脱マスクの背中を押している夏日  
すねた子になでてさすって背中押す  
八十路前跳ぶこととること忘れ  
キビキビと身体起こせぬ四つん這い  
きびきびと杖を突いてもよく転ぶ  
ダンス部員きびきびとした切れを見せ

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

愛のムチ今じやパワハラ誤解され  
マドンナも二時間遅刻コンサート  
洗い物減らしたいからマグカップ  
墓参り出来る仕合せかみしめる  
日が暮れるバス乗り違い遠廻り  
八十五歳で茶碗二杯の朝の膳  
インパウンドの後付けまわし知る穴場

多美子 契子 篤 正子 順子 久仁子 宏造 奈津子 黒兎 直子 春代 純子 勝弘 蟻日路 則彦 一弥 修平 厚江 朝子 初音 恵子 佐和子 英坊

氣に入つた嘘は何度もついている  
何かあるビールを注いでくれる妻

紀 惠

タツチパネル孫が仕切つて廻る寿司  
ワクチンは何回打てば終えるのか

和 夫

九十歳残された日々どうするか  
どうすると夜逃げの途中言われても

宗 鉄

月水金は夫が料理と決めました  
玄関の脱ぎっぱなしの靴そろえ

新 録

スポーツはルールもつて競い合い  
校則を一度破つてみたかつた

柳 明

夫婦間ルール作つて良く揉める  
スカートの丈にルールは要りません

隆 一

子に送る荷のクツシヨンに新聞紙  
この先も僕の連休まだ続く

楓 華

一度だけ下見をしたかぬぎ坊主  
菜園に忘れられたかぬぎ坊主

り こ

飲む打つ買うやるとたいがい破産する  
カップのルージュさつとふき取るいい女

純

割勘は割勘らしく飲みましよう  
イエスとノー共にあいづち打つ弱氣

健 二

終電の子を持つ母のエビピラフ  
母の愛息子の子やわんでんこ盛り

宏 造

結局は守るルールに守られる  
なるようになるのさ小石ボンと蹴る

勝 弘

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

幸 彦

声高に話し秘密は持たぬ主義  
笑い声ずっと続くと続つた日

美 籠

転勤族住めば都を実感す  
睡眠をずらすと体だるくなる

芳 香

飯設にも花は咲きます陽もあたる  
好不調聴き分けている母の耳

志 津 子

声変わり同時に孫の反抗期  
銀行は腹巻ですぞおじいちゃん

智 子

アナログな爺は無口のまま枯れる  
平和ボケ安全な国住む不安

満 作

便箋とペンにこだわるアナログ派  
住めば都粗野な浪花も厚い情

ばつは

福貴子

芳 香

志 津 子

智 子

満 作

ばつは

真桜子

龍

雅 美

克 己

憲 彦

ふりこ

さくら

篤

久仁雄

宏 造

寿 之

萌

俊 雄

うちの妻声だけ聞けば美人です  
あんたとは住んで見たいなああの世でも

敏 明

倦怠期互いにずらすタイミシング  
お母ちゃん声に出てくる呼んでみる

民 子

親切な猫で声に甘い異

哲 夫

比呂志

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

誕生日あんたは寒い朝やつた  
精神は誕生日ごと若くなる

耕 治

かあさんの自由が欲しい朝の庭  
若い芽の息吹嬉しい朝の庭

英 秋

忘れてはダメです妻の誕生日  
母親の忠告耳朶を離れない

利 子

雨上がり二輪は滑る言つたのに  
貴方には素直になれる私なの

野 薫

胃カメラに腹が黒いと意見され  
忠告と言うが嫉妬に他ならぬ

宗 鉄

白魚の指も両手で大ジョッキ

少女からレディになった愛子さま

レディファースト一番風呂が大好きで

春の風遊び心をつれてくる

夜遊びを覚えた猫の朝帰り

元気に遊ぶ最高のラストイン

若葉風ふわりふわりと三田駅

羽振りよいいちよい悪親父もてている

背は縮み髭と鼻毛は直ぐ伸びる

抜き足差し足忍び寄る原発

つまらんな遊び心の無い川柳

孫の歳に何をしてたかふと思う

要人の警護は漁協に任せたい

慣わしと言う名の壁がそり立つ

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

旗振れば鳩と雀が降りて来た

ウクライナの国旗揚げるパン屋さん

白旗も覚悟妻との口げんか

覇者の権威無くして揺らぐ星条旗

停戦へストレス多き国連旗

旗に背く私に決めた道がある

再エネの旗が家計を追いつめる

世界一おいしい桃は日本産

桃太郎軍拡の鬼退治せよ

食べるより描くのが先と筆をとる

孫が来る上等な桃食われるぞ

ダム出来て桃が流れてこない川

哲男

博

迪

廣光

千賀子

美津子

洋次郎

義博

雅尚

勝弘

洋一

和郎

義徳

温暖化桃栗2年柿6年  
触れないで目を選んでと果実店  
完全の桃に触れてはなりません  
昔の子暗くなるまで鬼ごっこ  
遊んでる時も献立て考える  
かくれんぼ鬼が来ぬ間に寝てしま  
い  
老いの身は仕事の如く遊ぶ日々  
囲碁将棋遊ぶというには深すぎる  
そうだけど遊ぶ度胸もないわたし  
好きだなあ遊び心のある川柳  
川柳で遊びましたよ二十年  
好きやなあ大阪弁のまた遊ば  
いっせいにキャベツがとれてキャベツデー

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

キラキラ光るバンクシーの背負い投げ

キラ星を二人で探す春の宵

きらきらと星降る夜の天体ショー

きらきらと輝く過去が懐かしい

一軒家きらめく正座ひり占め

約束を守った結果四面楚歌

もたつても結果良ければすべてよし

悪友がいつの間にかやら無二の友

空白の日記に結果だけ残す

手続きが大変ですと元の鞘

太鼓橋渡った結果背骨折れ

おしやれした伊達の薄着で風邪をひく

ふり返る轍にでこばこが見える

勝久

ちづる

理恵

正義

さくら

一文

ひとみ

専平

宏造

まつお

勝弘

こみつ

かつ美

残り香を支えに思い出と生きる  
残された妻には羽根が生えてくる  
人生の余白へ未練まだ残る  
今できる事に残り火掻きたてる  
サヨナラの余韻が残る大合唱  
結果だけ見て評価するのが世間  
頑張る子きつと結果もついてくる  
住んで居た人ふと偲ぶこの更地  
楽天家離婚されても楽天家  
人生に笑うチャンスはたんとある  
悔しかり君の努力は見ていたよ  
出来不出来あつて子育ておもしろい  
結果どうあれ頑張つてみる母真似て  
結果より中身は勝つていた試合  
プロセス無視生きつらくする成果主義

進  
恵子  
ひろ子  
満作  
玄也  
清  
五月  
舞夢  
富夫  
恭子  
志津子  
万紗子  
さくら  
憲

愛読書やはり周平メインです

愛すれどやはり美魔女へ目が眩む

アスリート野次を気にせず名シーン

阿吽の呼吸やんわり紡ぐ冥途まで

あげた服安く売られたメルカリで

赤い糸やんとあたたか巡り合う

あきまへんやめときなはれ目で合図

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見 柳歩報

自肅解け気持ゆるんで酒びたり

緩む頃走って君に逢いに行く

マドンナの向かいに座り緩む頬

最高にゆるむひとりの露天風呂

とも子



ドバイから迎えが来てもいい頃だ  
朝明けに素敵な予感君と僕  
予報士よりよく当たります雨男  
田舎から理想の政治家が育つ  
イーハトーブ賢治が俺の中に棲む  
あなたでも踏み絵で転ぶ多数決  
転居との知らせは遠く会えぬ地へ  
満腹になると転がす箸の先  
転移するほどに難儀なガン治療  
記憶ない転んだ時か肘の傷  
転換の羽根はやつぱり出て来ない  
すってんころり象形文字になつてゆく

川柳塔なら

大久保眞澄報

楽々と世間渡れぬ平泳ぎ  
らくらくに見えても実は火の車  
スマホさえあれば梅地下迷わない  
人生の山坂越えた楽天家  
ひと目見りや家族の悩み見抜く母  
らくらくより人生起伏あつてこそ  
緑のおばさん今では孫に付き添われ  
日本では青いとも言ふ緑色  
クレヨンの緑が早く減る五月  
春一番去つて新緑よく映える  
緑陰にセールス疲れベンチ埋め  
いささかの緑に和むビルの街  
爺はなせ緑で行かず赤で行く  
みどり児の一步踏み出す白い地図

吹喜  
ブル  
モナカ  
柳歩  
芳山  
小鹿  
米估  
雪代  
豊仙  
青帆  
知恵子  
美智子  
比呂志  
げんえい  
薫  
江里子  
よう子  
ふりこ  
和夫  
かずお  
いさお  
満作  
勝久  
俊雄  
優  
朝子

見送つてながく長く楽しまん  
乾杯の泡が消えてもまだ喋る  
良い人だ話が長いこと以外  
手術中のランブいかにも長すぎる  
長い列見れば一応並ぶ癖  
ストレスを溜めたうしの長電話  
傘寿の会幼稚園から知る仲間  
余生だと言ふには長い定年後  
傘寿過ぎ風に任せる今日明日  
長男の嫁に任せた義母の愛  
妻の任近頃重い物価高  
任せろと言つた議員が昼寝する  
軍拡が好きなお方に任されぬ  
後期高齢任せています運命に  
愚息でもおだて任せりや独り立ち  
口先で任せて何もしない人  
任せる人見当たらないが行く選挙  
トラブルは部下に任せて第三者  
官僚にすべて任せる答弁書  
神様に任すわたしのエビローグ  
大物よ出てこい日本任せよう  
川柳ねやがわ(大阪) 龍島 恵子報

みつこ  
武人  
裕之  
保州  
隆一  
恭昌  
さざえ  
恭正  
恭正  
崇明  
ゆきみ  
志津子  
昭  
一步  
羅天  
行久  
則彦  
敬子  
史郎  
定生  
ひろ子  
朝子  
祥昭  
いさお  
武人  
常男  
銀杏

核禁会議に行かぬお国の倫理感  
あんなトロフィー断捨離に出しました  
釣り日和魚の留守に油断した  
さっぱりした人にもあつた思いやり  
春うらら講師喋らせ生徒寝る  
暖かいうどん吸つて夜なべする  
師の百句写して重いなと思う  
内緒です金塊一つ持つてい  
正論を吐いて重責担がされ  
シングルで子ども育てる任重い  
ふところが軽く重たい初デート  
同じこと言つても格が重くする  
肩書の重きに耐えている名刺  
重かった父のからだがふわり浮く  
もうすでに思ひ病の地球号  
散つてなお花のじゅうたん敷き詰める  
葉桜が口惜しいよとおぼろ月  
今日も言う延命治療しないこと  
次つぎにあわてんぼうの花が咲く  
歩いたら遅れ走れば転ぶ歳になる  
面影を思い出すときホツとする  
ゲレンデに春が林立する蔵  
一歩だけ引けばまあなる絆  
無理をせず怠けもせずには花は咲く  
いい土に返ろう少しは役に立つ  
夏帽子どこか野心のするおしゃれ  
散り急ぐ桜へ虚しさがつもの  
マスク取りばあんと乗つた春の雲

鈍甲  
高志  
博泉  
美砂子  
篤  
彰一  
一步  
一弘  
一文  
千鶴子  
かすみ  
亜成  
壽峰  
武彦  
和織  
順子  
高鷲  
ルイ子  
朝子  
博泉  
泰子  
欣之  
信子  
正靖  
后子  
千賀  
賢子  
あかり



字足らずの夏がじんわりやって来る  
恵子 郁夫

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

夢を買い夢で終った宝クジ  
時子

振り返る後の君はもう鬼籍  
健二

いつ緒に歩んだつもりが深い溝  
晴子

人生を決めた番号発表日  
武彦

夢を買い夢で終った宝クジ  
時子

背を伸ばしキリリと歩むピンヒール  
次郎

花一輪かすかに香り客を待つ  
玲子

そんなに素敵ですか私の赤い服  
きらり

歩みと書いた赤ちゃん日記宝物  
英三

合歓の花静かな夏の風物詩  
真理子

人はみなかすかな希望に身を託す  
公輔

秒針のかすかな音が気になる夜  
憲央

いい笑顔人のこころの籠を取り  
敏昭

後光さす弥陀に守られ過疎に住む  
野鶴

かすかでも国産松茸嗅ぐ至福  
ヨシエ

花の香がかすかな記憶呼び起す  
義明

口裏はそうでしたねと合わせとく  
千鶴子

まだ青いワクワクが待つ曲がり角  
和宏

手をつなぎ歩む二人に翳がない  
英郎

お月さん何時も私に寄り添って  
満彦

悔いはない君と歩んだ茨道  
武人

AIに愛嬌だけは負けられぬ  
美津子

一期一会みんな仲よくしましようによ  
勝弘

亡母の香がかすかに残る母の部屋  
いさお

目障りにならぬ野草のように生き  
若玲子

マスク取るとイヤな黄砂がやって来た  
一歩

肉マンは悪魔の使いだと思ふ  
眞澄

他人を好きになるには我を先ず好きに  
則彦

君も僕も夢を見たから結ばれた  
廣光

半分は残しておこう今日の夢  
ひとみ

ボランテアの歩く姿に虹が立つ  
黒兎

ひっそりと戦後を生きたハーモニカ  
すゞ代

後悔の欠片も浮いているお風呂  
初正彦

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

春が来た値上げを連れてやって来た  
新録

タメ亭主世話女房がついている  
盛夫

座禅堂耐えて得たもの捨てたもの  
野鶴

きつとだよ来期も会おうさくらたち  
喜明

同じ夢みたいと妻がにじり寄る  
野薫

今今千年桜散りはじめ  
靖夫

四ヶ月の人の視線も温かい  
洋次郎

正論を吐いて冷たい視線受け  
良種

この余生消化試合にするまいぞ  
俊雄

言いたいこと言わなかつたら酒まずい  
富次

末っ子の甘え上手にまあるい輪  
敦子

渡されたカード幸運連れて来た  
恭子

気にしたライバルと組む好カード  
千賀子

あたたかい視線に寄ってゆく心  
敏子

視線の先にいつも貴方がいて熱い  
紀乃

バス座り痛い視線にそっと立つ  
みよし

薬飲んだ? 飲んだと思ふけどどやろ  
一徳

メッチャ甘いトラの勝利にアホになる  
邦男

平和の湯どっぷり浸かり上がれない  
緑

ヤングクアラー健気な子らに胸がキュン  
恵美子

何と幸せ月に甘えて露天風呂  
美津子

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

将棋指す藤井聡太は風雲児  
壽峰

浮世風庶民泣かせの物価高  
緑

風の噂が現在やSNSで拡散し  
太郎

二の腕の白さに惚れて今があり  
保州

腕までもちりめん皺が押し寄せる  
里子

父に負けるのに苦労する腕相撲  
保州

腕づくで奪った妻がおつかない  
敏子

あの世には楽にいさせる医者の腕  
常男

オムライス作る腕なら鳴っている  
信子

腕組むと妻がうつむく戒橋  
文

抱いてあげるけどロボットアームです  
一筒

ピンヒールもう階段は気取れない  
りゅうこ

万全に登竜門を上り詰め  
正

踊り場でふと過ぎた日を振り返る  
みつこ

段々畑インスタ映えて過疎救う  
信子

大人への階段まずは敬語から  
和郎

丁寧に拭く踊り場に母の息  
英雄

一段ずつ階段踏んで芽は伸びる  
栄子

人情が薄れずくぞくする世間  
千代

秋波送られゾクゾクとしてしまふ  
留守電にぞくぞくとする桃の声  
役者冥利カーテンコール鳴り止まぬ  
首筋に危ない気配ひたひたと  
きな臭い話に心凍りつく

難民がぞくぞく国境を越える  
日銀の債務背中が寒くなる  
階段を登り切ったら夢がある  
異次元の財源霞むこども庁  
また値上げ節約の知恵追いつかず  
保守大勝それでも守る憲法を  
同僚に済まぬ思いで取る休暇  
説明をしない総理のくぐり抜け  
武器輸出解禁を待つ死の証人  
荒野の夏君のヒマワリきつと咲く  
オデッサの乳母車見るウクライナ

### 翠 洋 会 (大阪)

原田すみ子報

ほっこりと妻の寝息を聞く至福  
大仏さん世界安寧願い座す  
地震国逃げ場どこにもありません  
老人の安全地帯はあの世だけ  
心ひらいてたまにはほっこりしませんか  
どの国も安全祈る丸い月  
シェルトーのついた物件売れそうだ  
今は昔やき芋匂うとんどの火  
セキュリティばつちり鉄壁の我が家  
こどもの日大谷兜で盛り上がる

北朗 弘子 団扇 ひとみ ゆうこ いさお 誠 裕之 雅遊 征之 遊 龍せん 昌代 万作 志津子 勝久

舞夢

確信の安全策で穴に落ち  
休んだら生きているかと電話くれ  
五類後も消毒液は欠かせぬまい  
孤独癖春のバズルは解けないまま  
人間の啓蟄やつとコロロ明け  
安全な場所でも同情する惨事  
難題を振られてからは貝になり  
ネズミ捕り安全の名の嫌がらせ  
飴もろう隣り合わせただけなのに  
ありがたい伸び代になるアドバイス  
お薄立てはっこりします甘い菓子  
木の芽和え酒はぬる目にしておこう  
もう傘寿三本足で散歩する  
第九聴くほっこり花の咲くを待つ  
風呂あがる孫の湯気ごと抱き留める

### 六甲川柳会 (兵庫)

梶谷 和郎報

なお生きるやさしい風に揺れながら  
道端の名もない花からのエール  
ブロッコリーいのちがぎゅつと詰まってる  
ぎゅつと手を握り返され決めました  
見て呉れは悪いが旨いオニオコゼ  
五杯飲みワフワフワとええ気持ち  
財布どこギョツと記憶を絞り出す  
見返りは汗がご褒美ボランティア  
亡母に似る雲一つ追う春の空  
性懲りもなく死ぬまで止まぬ浮気癖  
見た目には若く見えるが喜寿手前

大子 敬子 定生 希久子 和夫 蕉子 江里子 行久 眞澄 廣子 楓楽 恵美子 弘子 すみ子

忠志

おばちゃんも昔屋に来れば奥様に  
菌の浮いたお世辞に犬もそっぽ向く  
見られてる訳じゃないのに真つ赤つか  
明日のぞく夕焼雲がふーわふわ  
不意打ちへ心の奥が出してしまう  
コロナ五類マスク忘れもまあいいか  
飛花落花余生楽しむ花筏  
まじめです浮世の話はありません  
今夜こそあなたに全て打ち明ける  
マルかバツ俺は三角だと思おう  
ハイと言う元氣な声が聞く運  
噛みしめる奥歯なくして頼り無い  
肩書きが取れて広がる青い空  
ライバルには見せぬ奥の手磨いてる  
子や孫を動かす奥の手は諭吉  
奥の手を出してみんなを喜ばせ  
奥の手は隠しているがよく漏れる  
時々はぎゅつとネジ巻く妻がいる  
ぎゅつと口答えせぬ子の大人びて  
後期入り介護保険と言う浮き輪  
下積みもの浮く日信じて積んだ汗  
今日もまた朝一番に翔タイム  
故郷は無心の帰省もウエルカム  
「オーイーアイ」俺の頭に棲んでくれ

### 岸和田川柳会 (大阪)

石田ひろ子報

ウクライナ平和の扉いつ開く  
新しい扉見つけたさあやるぞ

武彦 宏 敦子 恭子 洋次郎 美津子 克美 ひとみ 盛夫 次郎 すみ子 隆浩 利子 美穂 正彦 光久 利恵子 哲男 狸月 正和 洋一 憲央 珠子 愛子

ヒロシマの扉を開けて核ゼロに

開けばなしいつでもなたもおこしやす

五月こそネット調べてラッキョ漬け

輪の中に赤ちゃんひとりいるだけで

詳細を読まず契約印を押す

重い扉から青息吐息漏れ

個性消し八方美人受けも消し

戦より対話で和む世を目指す

表情で母は全てを理解する

ガス電気鍵もかけたわさあいこう

みそ作りうでも確かな祖母の味

大方の事件の鍵は金か色

ビールの当て意外といけるボチの餌

合鍵を貰ったとこで目が覚めた

神様も賽銭箱に鍵かける

赤とんぼ歌って和むケアハウス

鍵かけて春のうたたね一人占め

ユニークにふあところろぶ卒寿です

百歳まで続く私のドア開ける

### 川柳藤井寺(大阪)

### 鈴木いさお報

レモンスカッシュの泡初恋に似て

さわやかな青空私は籠の鳥

酒のめば仮面の裏が垣間見え

憧れは月光仮面だったなあ

カルチャーでさわやかな夢膨らます

ひとことのゴメンで丸くいく話

何枚もあるプーチンの鉄仮面

陸子

敦己

信子

世紀子

和美

ふさゑ

タカコ

義泰

恵子

規子

現代子

喜代志

勝彦

一步

英夫

香代

あさ子

五十美

ひろ子

弁舌はさわやかなれど黒い腹

風邪治り布団干す身に春の風

ビアニッシモフルート爽やか朝を呼ぶ

マスク取り笑顔さわやか里帰り

善人の仮面のままで逝く予定

さわやかな空を見たからウクライナ

まん丸い月見て恥じること多し

さわやかな空だ素直に謝るう

仮面ぬぐ以下同文の人ででした

さわやかな妖精だったへプバーン

### 大山滝句座(鳥取)

### 新家

### 完司報

手の温み貰いハートは落ち着いた

アメ玉貰ってイエスマン通す

腹の虫鳴って安堵の健康度

無農薬野菜の虫は人がとる

紛争止まず迷路になった世界地図

マイフェアレディ毛虫が蝶になっちゃった

君好きと尺取り虫の歩で迫る

弱虫の私に護るものが無い

G7繋がっている祈りの輪

父母に貰った愛を子に返す

迷路突入シートベルトは締めました

迷路です五七五がまとまらぬ

沢山の迷路を越えて仏の座

虫キライ都会つ子夏帰省せず

苦虫を食った顔した喜寿の亡父

勝久

ちづる

比呂志

憲彦

まつお

喜代子

久仁雄

一步

扶美代

ダン吉

いさお

日本という巨大迷路に暮らしてる  
プーチン殿虫けらですか人間も  
前世は糞転がしの家系です  
虫一匹殺さぬ顔で人を食う  
安心を貰う厄払いの祈り  
水虫も定年までは勤め上げ  
カラフルを貰って帰る玉手箱  
アインシュタインの頭脳は迷路です  
ヤクマンを振り込んでからヤツは敵  
お邪魔虫人の都合を考慮せず  
正道は無難迷路は魅惑的  
芋虫も毛虫も何処へ行ったやら  
闇バイトSNSがきつかけに  
貰いもの何処に回すか考える  
吉備団子ひとつ貰って人殺し

### 川柳塔わかやま(前月分)川上

### 大輪報

ある日から繋がりにくい糸電話

あちこちが修理の効かぬ御身なり

叩いても映らぬテレビ令和です

体の故障休みなさいのメッセージ

八十年生きりやあちこち不具合が

古稀からの体あちこち修理する

親の見栄背負うて故障する子供

錆びかけた脳へ刺激の五七五

電気にはない湯たんぽの温かさ

朝市でもらうほっこり国ことば

看護師の笑顔ほっこり癒やされる

孔明

熊四郎

寛

芳光

雄大

紀の治

麦青

小鹿

芳山

ゆたか

余光

石花菜

清明

規雄

完司

航太郎

信勝

和宏

佳子

節子

あかね

八茶

寿子

保州

俣子

光

## 第46回 鳥取県川柳大会

とき 10月15日(日) 10時開場

ところ 県民ふれあい会館

鳥取市扇町 21

電話 0857-21-2266

席題なし 出句締切 11時30分

※昼食は各自でお願いします

宿題と選者(各題2句)

「おいしい」	萩原みゆき	選
「思い、想い」	木天 麦青	選
「採る」	伊塚美枝子	選
「匙・スプーン」	門脇かずお	選
「ボタン」	石橋 芳山	選
「舌」	大和 旅愁	選
「拾う」	新家 完司	選

表彰会費 鳥取県知事賞など7賞

1,500円

欠席投句 1,000円(締切9月15日必着 用紙

自由 作品集呈 小為替(切手不可))

投句先 〒689-0405

鳥取市鹿野町鹿野 1065

山野すみれ 宛

主催 鳥取県川柳作家協会

## 第54回記念

## 水戸市芸術祭参加川柳誌上大会

課題 『平』(2句詠1口・複数口応募可)

(表現自由)

選者10名 高瀬 霜石 相田 柳峰

江畑 哲男 平井美智子

矢沢 和女 他

締切 8月31日(木) 消印有効

投句用紙 所定用紙(コピー可) または便箋

賞 上位入賞者にギフト券

発表 11月予定

投句先 〒311-4152

水戸市河和田 2-2222-10

水戸川柳会 佐瀬 貴子 宛

電話 029-252-9233

銭湯でほっこり過す爺と孫  
こたつでのほっこり独り眠りこむ  
独りではないほっこりの友が居る  
ほっこりとしてますうどん一杯で  
赤ちゃんの笑顔でささくれが治る  
ドーナツは穴があるからこそ旨い  
ドーナツの輪をくぐり抜け夢紡ぐ  
ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
八十路来て頭の中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音  
ドーナツの真ん中食べたのは私

明 徑子 富美子 大輪 知香 よしこ 真弓 あきこ 敦巳 精子 紀子 胡子

岸和田川柳会(大阪)(前月分) 石田ひろ子報  
誰だってどんな場所でも輝ける  
反戦の異才輝く鶴彬  
子どもらの中に磨くと光る石  
赤ちゃんの目の輝きにある未来  
キラキラと輝く瞳好奇心  
合格が孫の笑顔をほじけさす  
孫入学輝く未来夢が有る  
侍は見事輝く金メダル  
永遠に輝きたくて脳揺する  
円満が漂うピカピカの廊下

隆雄 明 規子 節子 香代 義泰 珠子 恵子 ひろ子

日本中熱狂野球胸に金  
友達が出来たと話す子の瞳  
九条の輝く地球と戻す  
穂やかに輝く余世レイアウト  
名古屋城尾張の空に金の鯉  
四十路越え指に輝くエンゲージリング  
百歳で輝く女腹八分  
輝いていたのは他人だった頃  
季の陣の御馳走食べて幸せを  
若葉萌え歩く嬉しさかみしめる  
城石の寡黙ひとりだけの和み

親典 和美 和吉 恭子 洋二 喜代志 敏美 智三 國代 彦弘

# 柳界展望

を「願う会」を出版。27  
編所収。A4判、77頁、  
1000円＋送料250  
円。

★木本朱夏さん(和歌山

市)は、森中恵美子小論  
「白椿の人」で、第13回  
高田寄生木賞を受賞。

★川柳水柳会第19回誌上  
川柳大会。参加者262名。  
同人・誌友成績。

天位 郷田 みや  
木漏れ日で低温火傷し  
てみたい

天位 大内せつ子  
ユトリロの白い街から  
覗かれる

合点賞第一位柳田かおる  
感謝賞(長年応募者)

▽出版△ 青木 公輔

○坂上淳司さん(堺市)  
が、同級生3名で『戦火  
のなかを生き抜いて』  
80年前のわたしたち』  
「孫たちの世代にも平和

▽訂正とお詫び△

六月号P2目次下本文1  
行目「新版川柳歳時記」  
↓「新版川柳歳時記」。

P34上段1行目、美術館  
心に御洒落して帰る↓美  
術館心に御洒落して帰

る。P67上段4行目、奥  
田由実↓奥田由美。P84  
下段「バランス」9句目、  
立蔵信子↓出口セツ子。

P85上段後ろから3行目  
人の句、子悪人たまに仏  
の顔をする↓子悪人たま

に仏の顔をする。P87川  
柳研究誌上大会案内2行  
目選者、河合笑久募↓河  
合笑久募。4行目選者、

安藤波留↓安藤波留。P  
1013段目▽出版△吉村郁  
久代↓吉村侑久代。

▽ご芳志お礼△

仁部四郎さん(唐津市)  
より川柳塔まつりへ金一  
封を頂きました。

▽新誌友紹介△

三田市 岡田 晴美

紹介者 北野 哲男

四国中央市 西村 寛子

紹介者 大内せつ子

大阪市 久木野タカ

紹介者 平井美智子

大阪市 小谷 集一

紹介者 江島谷勝弘

大阪市 池野恵美子

紹介者 西出 楓楽

米子市 高橋 治代

紹介者 後藤 宏之

仙台市 竹村紀の治

大久保もとじ

▽常任理事会△

6月7日。出席21名。①

「第29回川柳塔まつり」

進捗度②六賞選考委員の

確認と選出③誌友拡大の

具体化④定例確認事項。

次回常任理事会7月6日  
(木)AM10、

## 新 同 人 紹 介

〒722-0002  
尾道市栗原町3200-8

小 川 道 子

— 蘭幸・完司推薦

〒722-00215

尾道市美ノ郷町三成206-11

小 畑 宣 之

— 蘭幸・完司推薦

## 第59回 水府忌句会

日 時 8月6日(日)  
場 所 たかつガーデン  
近鉄大阪上本町駅または地下  
鉄谷町9丁目下車11番出口  
受付開始 18時  
会 費 1000円  
お 話 水府こぼれ話 森中恵美子  
宿題と選者 (各題2句・席題なし)  
「ざらざら」 神田 良子 選  
「付 録」 西澤 知子 選  
「不 思 議」 大堀 正明 選  
「踏ん張る」 西 美和子 選  
「きっかけ」 居谷真理子 選  
「眺める」 田中 新一 選

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
あかつき 川 柳 会	14日(金) 染・解禁・ゆらいだこと 時事吟(詠み込み不可)	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
岸 和 田 川 柳 会	15日(土) 14時締切 涙・もてなす・穏やか バランス	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川 柳 たちばな	15日(土) 13時45分締切 席題・台所用品・あける・自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	15日(土) 17時締切 結論・読む・全力	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤 井 寺	16日(日) 14時締切 主張・じろじろ	会場 パープルホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南 大 阪 川 柳 会	17日(月) 14時40分締切 方言・抜ける・つつい・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊 中 もくせい 川 柳 会	17日(月) 14時締切 透明・頼る・こっそり・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 ねやがわ	18日(火) 13時締切 風上・恐ろしい・差額 うっかり・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川 柳 さ ん だ	18日(火) 13時30分締切 連想・軽い・エレベーター 払う・自由吟	会場 キッピーモール 6F(JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟4-1 村田 博
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	22日(土) 13時15分締切 泳ぐ・星・迷う	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳 会	23日(日) 14時締切 朱・忙しい・オアシス・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	23日(日) 13時から 自由吟・台本・自然 仕返し・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川 柳 塔 すみよし	29日(土) 14時締切 口・飛び上がる さすがと思う事	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

# 7 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
城 北 川 柳 会	1 日(土) 開場13時 締切14時 訳あり・ペース・笑顔・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	1 日(土) 14時締切 夏山・耕す・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	1 日(土) 14時締切 閑・規則・スコップ・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ え 社 吟	1 日(土) 13時40分締切 雨・配達・魚・泳ぐ	会場 雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
川 柳 塔 な ら	7 日(金) 13時50分締切 リサイクル・そわそわ・らしい	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩5分 〒636-0202 奈良県磯城郡西町結崎421-64 長谷川崇明
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(金)消印有効 凍る・美しきもの・印象吟・グラ デーション・衣・ヒーロー	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
六 甲 川 柳 会	8 日(土) 14時締切 席題・他人・ぎりぎり 植える・自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	8 日(土) 13時30分締切 星・捨てる・そよそよ・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川 柳 塔 わかやま 吟 社	9 日(日) 14時10分締切 兼 題＝簡単・遅い・ダンス 課題吟＝学校	会場 和歌山県JAビル1 1 階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
西宮北口 川 柳 会	10 日(月) 13時30分締切 席題・証拠・迷う・ひとまず 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほ たる 川 柳 同 好 会	11 日(火) 13時30分締切 豆・傾く・どんどん	会場 豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒鬼
川 柳 塔 さ か い	11 日(火) 14 時締切 無駄・あっさり 折句：よ・め・な	会場 東洋ビルディング(堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
川 柳 あまがさき	11 日(火) 14時締切 頼る・波(連記)・固い・自由吟	会場 東園田町総合会館2 F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

# 第29回 川柳塔まつり

と き 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

と ころ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

## 《同人総会・議事》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

## 《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏

兼 題 「刻 む」 川 柳 塔 社 藤 井 智 史 選

「まっすぐ」 川 柳 塔 社 藤 田 武 人 選

「揺れる」 川 柳 塔 社 大久保 眞 澄 選

「未来」 川 柳 塔 社 栗 原 道 夫 選

「笛」 番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句 「自由吟」(8月31日必着) 川 柳 塔 社 小 島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円 (当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

## 《懇 親 宴》

と き 令和5年10月7日(土) 午後5時～7時

と ころ ホテルアウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

\* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて  
8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

\* 会費は当日受付でお願いします。

\* 新型コロナの状況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主 催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201

〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490



# 第38回 国民文化祭・いしかわ2023 川柳作品募集要項（概要）

## ” 日本列島の真ん中・能登半島 ” 文華の粋を詠う in 七尾市 「川柳の祭典」

1. 応募受付期間 2023年5月1日（月）～7月31日（月）（当日消印有効）
2. 応募規定

（1）作品 一人各題二句詠（未発表作品に限る）

（2）応募料 事前投句1、000円、当日投句1、000円（ただし、海外投稿者、身体障害者手帳等の写しを添付された方は無料）  
振替口座 009601276220 加入者名 川柳の祭典いしかわ百万石文化祭

（3）応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入し、郵便振替請求書兼受領証又はその写しを添えて応募してください。

（4）応募先 一般社団法人全日本川柳協会 〒530・0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

### 3. 題・選者

〈事前投句〉 「祭り」 〓 梅崎流青（福岡） 「スイーツ」 〓 佐藤清泉（静岡）  
「兼ねる」 〓 大島風子（岐阜） 「先端」 〓 岡本聡（石川）  
〈当日投句〉 「地味」 〓 濱山哲也（青森） 「プラス」 〓 大竹洋（千葉）

### 第二次選者

雲石 隆子（宮城） 島田 駱舟（千葉） 大楠 紀子（奈良）  
新家 完司（鳥取） 黒川 孤遊（熊本）

### 4. 賞

文部科学大臣賞／国民文化祭実行委員会会長賞／石川県知事賞／石川県教育委員会教育長賞／七尾市長賞  
七尾市教育委員会教育長賞／一般社団法人全日本川柳協会理事長賞／石川県川柳協会会長賞

### 5. 発表会場

川柳の祭典（事前投句作品や、当日投句作品の入選・入賞発表、披露、選評、表彰式）  
2023年10月22日（日）9時30分～16時30分 七尾市文化ホール  
後日、入選作品集として刊行し、応募者全員に無料配布します。

### 6. 問い合わせ先と募集要項の依頼先

〒530・0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905 一般社団法人全日本川柳協会  
TEL（06）6352・2210 FAX（06）6352・2433

### 7. 主催者

文化庁 厚生労働省／石川県／石川県教育委員会／七尾市／七尾市教育委員会  
いしかわ百万石文化祭2023 石川県実行委員会／いしかわ百万石文化祭2023 七尾市実行委員会  
一般社団法人全日本川柳協会／石川県川柳協会

暑中お見舞い申し上げます

# 竹原川柳会

会長 小島 蘭 幸

会計 古田 比呂子

監査 國 兼 千代美

ほか会員一同

秀句奔流

## 【大山滝 (5)】

大山滝句座メンバーの佳吟秀吟 600 句（総て寸評付き）を収録。

頒 価： 1,000 円（税・送料込み）（冊子到着後送金で可）

ご注文： 〒 689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万 597 新家完司

ハガキかファックスにて、FAX 0858-52-2449

暑中お見舞い申し上げます

## 川 柳 塔 さ か い

会 長 内 藤 憲 彦  
副会長 齋 藤 さくら

綾田 清	石田 ひろ子	今井 万紗子	宇都 満知子	江島 谷勝弘	太田 扶美代	奥 時雄	鴨谷 瑠美子	古今堂 蕉子	澤井 敏治	正信寺 尚邦	高木 世紀子	谷川 憲	玉瀬 富夫	友枝 淑子	中林 佳子	西出 楓楽	村上 玄也	山内 育子	山本 進	吉田 禮子
池内 恭子	出海 素頼馬	内田 志津子	浦上 恵子	榎本 舞夢	緒方 美津子	柿花 和夫	桑原 ひさ子	佐々木 満作	柴本 ばっは	鈴木 いさお	田中 廣子	田原 勝弘	徳山 みつこ	中井 萌	西井 桂子	古川 光雄	矢倉 五月	山下 じゅん子	横山 里子	米澤 俣子

暑中お見舞い申し上げます

## 翠 洋 会

安土 理恵	東 定生	安福 和夫	池野 恵美子	榎本 舞夢	大川 桃花	大久保 眞澄	太田 昭	加藤 江里子	古今堂 蕉子	小谷 集一	佐々木 満作	高杉 千歩	高橋 敬子	田中 廣子
谷口 義	辻内 げんえい	津村 志華子	寺井 弘子	飛永 ふりこ	西出 楓楽	原田 すみ子	藤原 大子	降幡 弘美	前川 善之	室田 行久	山本 希久子	米田 恭昌	渡辺 富子	

暑中お見舞い申し上げます  
川柳塔すみよし

代表 内田 志津子

坂	齋藤さくら	古今堂蕉子	川端 一步	小野 雅美	奥村 五月	大隅 克博	大治 重信	榎本 舞夢	江島谷勝弘	宇都満知子	宇賀 史郎	岩崎 公誠	井丸 昌紀	今井万紗子	磯島福貴子	石橋 直子	石田ひろ子
裕之	長谷川崇明	野口 龍	野口真桜子	西村 哲夫	西出 楓楽	長高 俊雄	長浜 美籠	中村 民子	中井 萌	内藤 憲彦	飛永ふりこ	田中ゆみ子	田中 廣子	鈴木いさお	清水久美子	柴本ばっは	佐々木満作
		渡辺 敏明	吉村久仁雄	横山 里子	山村 猛	山野 寿之	矢倉 五月	両澤行兵衛	森松 芳香	森松まつお	宮崎シマ子	三宅 保州	松下小枝子	松岡 篤	藤原 大子	藤島たかこ	藤井 宏造

暑中お見舞い申し上げます

川柳とんだばやし 富 柳 会

栃尾 奏子	都筑 文重	土田 欣之	関 よしみ	鈴木 かこ	沢田 和子	久世 高鷺	坂本 晴美	井澤 壽峰	穂山 常男	秋田 あかり
	山野 寿之	村山 佳子	松本 正治	松谷 由夏	松井 正義	堀内きみ子	藤田 武人	肥山 一文	林 澄子	中村 恵
他一同										



暑中お見舞い申し上げます

# 南大阪川柳会

会 員 一 同

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔みちのく

主 幹 福 士 慕 情

同 人 一 同

事務局 〒036-8275 弘前市城西1-3-10

稲見則彦 (☎0172-36-8605)

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔鹿野みか月

会 員 一 同

会 長 森 山 盛 桜

暑中お見舞い  
申し上げます

## 川柳茶ばしら

早川 遡行  
板山 まみ子  
関本 かつ子  
山本 三樹夫  
金子 美千代

暑中お見舞申し上げます

## 六甲川柳会

会 員 一 同

会 長 糀 谷 和 郎

暑中お見舞い申し上げます

## はびきの市民川柳会

会 長 吉村久仁雄      会 員 一 同

暑中お見舞申し上げます

# 川 柳 さ ん だ

会 員 一 同

例会：毎月第3火曜日 開場12時30分  
JR三田駅前 キッピーモール 6F

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳あまがさき

会 員 一 同

暑中お見舞い申し上げます

ほたる川柳同好会

水野黒兔 田中螢柳

中山春代 樋口順子

池田純子 多田契子

貝塚正子 齋藤奈津子

岡田守啓 藤井則彦

倉本一弥 藤井宏造

松田蟻路 江島谷勝弘

飯牟禮 久仁子

句会 第二火曜日 午後一時より

場所 豊中市蛍池公民館



暑中お見舞申し上げます

## 会柳川せいくも中豊

同 一 員 会

暑中御見舞い  
申し上げます

川柳藤井寺

会 長 鈴 木 い さ お  
世 話 人 鴨 谷 瑠 美 子

太 田 扶 美 代  
園 田 婦 美 枝  
吉 田 喜 代 子  
津 田 シ ル ク

暑中お見舞い申し上げます

## 社吟まやかわ塔柳川

同 人 一 同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14

川 上 大 輪 方

電話・FAX 073-462-7229



暑中お見舞申し上げます

## 川柳塔きやらぼく

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304 竹村紀の治  
TEL 0859-21-7656

暑中お見舞申し上げます

## いずも川柳会

会 長 竹 治 ちかし  
会 員 一 同

事務局 〒693-0013 出雲市荻杼町363 柳楽たえこ 方  
TEL 0853-22-6023

会計監査

江島谷勝弘

”

渡辺富子

顧問

安土理恵

”

高橋敬子

”

加藤江里子

世話人

宇賀史郎

編集

安福和夫

会計

中堀優

”

飛永ふりこ

”

中堀優

副会長

長谷川崇明

会長

大久保眞澄

川柳塔なら

暑中お見舞い申し上げます

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保眞澄

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>小島 蘭 幸</p> <p>〒725-0022 竹原市本町一丁目一四―三</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>番傘川柳本社 森 中 恵 美 子</p> <p>〒566-0022 摂津市三島二丁目五番二―五一四</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>川 上 大 輪</p> <p>〒640-8482 和歌山市六十谷一一八八―一四</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>新 家 完 司</p> <p>〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万五九七</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>仁 部 四 郎</p> <p>〒847-0082 唐津市和多田天満町一―二二―一三</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>西 出 楓 楽</p> <p>〒543-0012 大阪市天王寺区空堀町八―五</p>

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>村 上 玄 也</p> <p>〒590-0016 堺市堺区中田出井町三丁目四―三二</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>木 本 朱 夏</p> <p>〒640-8392 和歌山市中之島八七一</p>
<p>この汗がビールをうまくうまくする</p> <p>平 田 実 男</p> <p>〒755-0241 宇部市東岐波区丸尾原東五三九五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>片 山 か ず お</p> <p>〒569-1022 高槻市日吉台六番町二二―一五</p>
<p>暑中お見舞申し上げます 難聴により句会の欠席を ご容赦願います。</p> <p>太 田 昭</p> <p>〒565-0851 吹田市千里山西 四―三七―一四〇一</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>久 保 田 千 代</p> <p>〒343-0023 越谷市東越谷 三一―一六―七一〇五</p>



暑中お見舞申し上げます

柿 花 和 夫

〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東二丁一八五

暑中お見舞申し上げます

古 今 堂 蕉 子

〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東二丁目四一九

暑中お見舞申し上げます

初 代 正 彦

〒569-0073 高槻市上本町五丁目二六

暑中お見舞申し上げます

岸 本 宏 章  
岸 本 孝 子

〒689-0202 鳥取市美萩野一丁目三四

暑中お見舞申し上げます

矢 倉 五 月

〒599-8103 堺市東区菩提町五丁目七一

暑中お見舞申し上げます

鴨 谷 瑠 美 子

〒583-0026 藤井寺市春日丘二丁目八一二二

暑中お見舞申し上げます

飛 永 ふ り こ

〒630  
-0122 生駒市真弓四―一三―一三

暑中お見舞申し上げます

松 原 寿 子

〒649  
-6313 和歌山市楠本三八六―四

暑中お見舞申し上げます

宇 都 満 知 子

〒558  
-0043 大阪市住吉区墨江四―十一―十一

暑中お見舞申し上げます

坂 裕 之

〒558  
-0054 大阪市住吉区帝塚山東三一九―一四

暑中お見舞申し上げます

安 福 和 夫

〒636  
-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森  
一〇〇―九三

暑中お見舞申し上げます

吉 村 久 仁 雄

〒583  
-0861 羽曳野市西浦六―四―二一

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>平井美智子</p> <p>〒550-0006 大阪市西区江之子島 一―七―二―一―三〇一</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>藤井宏造</p> <p>〒661-0953 尼崎市東園田町三―四九―五</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>藤村亜成</p> <p>〒573-1104 枚方市楠葉丘一―九―一三</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>松岡篤</p> <p>〒569-1116 高槻市白梅町五―一五―一〇〇八</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>平賀国和</p> <p>〒536-0014 大阪市城東区鳴野西 三―四―二―三〇五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>山下じゅん子</p> <p>〒639-0254 香芝市関屋北六―五―一〇</p>



暑中お見舞申し上げます

江島谷勝弘

〒536-0001  
大阪市城東区古市一―八―一四

暑中お見舞申し上げます

大久保眞澄

〒631-0078  
奈良市富雄元町一―一―七―一四

暑中お見舞申し上げます

内藤憲彦

〒590-0013  
堺市堺区東雲西町二―二―五

暑中お見舞申し上げます

栗くわ原ばら道夫

〒592-8349  
堺市西区浜寺諏訪森町  
東二―二〇八―五

暑中お見舞申し上げます

## 西宮北口川柳会

例会 毎月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館  
(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8112 甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

<p>           〒661-0953            尼崎市東園田町二―四五―八              山 田 耕 治              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒558-0013            大阪市住吉区我孫子東            三―八―二―二〇六              内 田 志 津 子              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒562-0001            箕面市箕面四―六―二六              酒 井 紀 華              暑中お見舞申し上げます         </p>
<p>           〒640-8442            和歌山市平井五五              柏 原 夕 胡              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒597-0082            貝塚市石才二五―三              石 田 ひ ろ 子              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒351-0035            朝霞市朝志ヶ丘四―二―一六            スチューディオオ 8 304号              前 田 洋 子              暑中お見舞申し上げます         </p>
<p>           〒883-0067            宮崎県日向市亀崎東四―七              黒 木 栄 子              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒861-2233            熊本県益城郡益城町惣領            一六二四―二              岩 切 康 子              暑中お見舞申し上げます         </p>	<p>           〒634-0051            橿原市白橿町五―二―二四〇五              居 谷 真 理 子              暑中お見舞申し上げます         </p>



<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>西田 美恵子</p> <p>〒797-1324 西予市野村町大西二二三</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>福士 慕情</p> <p>〒036-8275 弘前市城西一丁目九一五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>辻内 次根</p> <p>〒787-0558 土佐清水市宗呂丙一二六七一三</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>津守 柳伸</p> <p>〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北 一―三一―一</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>松本文子</p> <p>〒699-0401 松江市穴道町穴道三八五―二</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>宮尾みのり</p> <p>〒790-0045 松山市余戸中二―五一四</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>惠利 菊江</p> <p>〒889-1201 宮崎県児湯郡都農町 大字川北二〇七三四</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>澤井 敏治</p> <p>〒590-0114 堺市南区榎塚台一―六一五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>石田 孝純</p> <p>〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺 二―二一―一六</p>

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>上田ひとみ</p> <p>〒669-1324 三田市ゆりのき台三一四一九</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>敏森廣光</p> <p>〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町 二一―二一五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>糀谷和郎</p> <p>〒673-0883 明石市中崎二―四―一―六二二</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>水野黒兎</p> <p>〒561-0813 豊中市小曾根二―四―一</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>小野雅美</p> <p>〒545-0037 大阪市阿倍野区帝塚山 一―一六―三一〇七</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>大内朝子</p> <p>〒639-0251 香芝市逢坂二―七二〇―二〇</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>川端一歩</p> <p>〒536-0024 大阪市城東区中浜一―二―二七</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>榎本舞夢</p> <p>〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 二一―一―一一二七</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>田中廣子</p> <p>〒558-0055 大阪市住吉区万代六―八―二二</p>

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>鈴木 いさお</p> <p>〒583-0007 藤井寺市林五―八―二〇―三〇三</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>齋藤 さくら</p> <p>〒599-8122 堺市東区丈六 七七―四</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>山崎 武彦</p> <p>〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町 四―一―十一</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>森田 旅人</p> <p>〒586-0027 河内長野市千代田台町 二三―二五</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>太田 扶美代</p> <p>〒583-0037 藤井寺市津堂一丁目 一―一九</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>竹村 紀の治</p> <p>〒683-0804 米子市米原五―一―三一―三〇四</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>原田 すみ子</p> <p>〒540-0014 大阪市中心区龍造寺町 三一―一〇</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>小川 道子</p> <p>〒722-0022 尾道市栗原町 三二〇―〇一八</p>	<p>10月7日行くぞ！行きます!! 行けるかな？</p> <p>霜石</p>



暑中お見舞申し上げます

黒田茂代

〒797-0015  
西予市宇和町卯之町五―三二―一

暑中お見舞申し上げます

福田正彦

〒663-8141  
西宮市高須町  
二―一―三二―八三〇

暑中お見舞申し上げます

安土理恵

〒633-0054  
桜井市阿部七八七

暑中お見舞申し上げます

富山ルイ子

〒572-0043  
寝屋川市錦町八―二三

暑中お見舞申し上げます

谷口義

〒546-0043  
大阪市東住吉区駒川  
五―一〇―一六

暑中お見舞申し上げます

八甲田さゆり

〒440-0892  
豊橋市新本町六二

暑中お見舞申し上げます

富永恭子

〒651-1514  
神戸市北区鹿の子台南町  
四―四六―五

暑中お見舞申し上げます

川本信子

〒572-0063  
寝屋川市春日町一一―二六

暑中お見舞申し上げます

古手川光

〒790-0924  
松山市南久米町一七六―八

<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>杉野羅天</p> <p>〒861-8064 熊本市北区八景水谷 一三三一一七</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>本田さくら</p> <p>〒811-2502 福岡県糟屋郡久山町上山田 二五四一六</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>渡辺富子</p> <p>〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾 六二一六</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>川本真理子</p> <p>〒155-0033 東京都世田谷区代田二二四一二</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>栗田忠士</p> <p>〒791-0101 松山市溝辺町甲六一〇</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>雪本珠子</p> <p>〒596-0076 岸和田市野田町二一一八一二七</p>
<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>川名洋子</p> <p>〒193-0812 八王子市諏訪町 一九二三一一一六七〇八</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>徳山みつこ</p> <p>〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘一一二一八</p>	<p>暑中お見舞申し上げます</p> <p>上田和宏</p> <p>〒657-0011 神戸市鶴甲四一一一一一</p>

暑中お見舞申し上げます

池田純子

〒560-0022 豊中市北桜塚  
四一〇一〇一〇三〇三

暑中お見舞申し上げます

永見心咲

〒704-8194 岡山市東区金岡東町  
三一二一七六

暑中お見舞申し上げます

永井松柏

〒799-2206 今治市大西町脇甲六四〇

暑中お見舞申し上げます

津村志華子

〒582-0018 柏原市大泉一五一三六  
オリープ柏原プラス三〇五

暑中お見舞申し上げます

藤原大子

〒583-0857 羽曳野市誉田三一―一二

暑中お見舞申し上げます

緒方美津子

〒663-8123 西宮市小松東町三一六―三

暑中お見舞申し上げます

城北川柳会

会員一同



暑中お見舞申し上げます

# 川 柳 塔 社

主 幹 小 島 蘭 幸  
理 事 長 新 家 完 司  
副 主 幹 川 上 大 輪  
副 理 事 長 内 藤 憲 彦  
常 任 理 事 居 谷 真 理 子

上 田 ひ と み  
内 田 志 津 子  
宇 都 満 知 子  
江 島 谷 勝 弘  
大 久 保 眞 澄  
栗 原 道 夫  
梶 谷 和 郎  
平 井 美 智 子  
平 賀 国 和

常 任 理 事

相 談 役

会 計 監 査

藤 井 宏 造  
藤 田 武 人  
藤 村 亜 成  
松 岡 篤  
森 松 ま つ お  
山 下 じ ゅ ん 子  
吉 村 久 仁 雄  
木 本 朱 夏  
西 出 楓 楽  
仁 部 四 郎  
村 上 玄 也  
初 代 正 彦  
西 村 哲 夫

# 編集後記

★麻生路郎は昭和40年7月7日逝去。8月6日に最後は麻生葭乃選。句会終了後、野外パーティー。会費800円。

★7月6日の路郎忌句会で、路郎の胸像をじっくりと見直したい。

(道夫)

◎「本社句会あれこれ②」

本社句会場の入口に掛けられている垂れ幕は、路郎師が書かれたものです。昭和30年2月に藤田一三夫氏(同人・大阪市)からご寄贈されたものです。

◎本社句会場の演壇の懸垂は、毎回、山田耕治さん(同人・尼崎市)に揮毫いただいています。まるで印刷したような纏った懸垂は、川柳界でも日本一だと思えます。

◎本社句会の句箋は、タテ25cm、横4.5cmと大きくて書きやすいと好評ですが、鴨谷瑠美子さん(参与・藤井寺市)のご主人が

## リアルと誌上

### ひとこと

世の中は「ウィズコロナ」を目指し、行動抑制も行わない方針。川柳界もリアル句会の再開となっています。たしかに、リアル句会は、耳で聞く川柳としての楽しさや心の頷き響きがあります。誌上は、どうでしょう？ 発表誌が送付され自らの雅号を探して一喜一憂して終わります。リアルと違い、会場での臨場感はありません。しかし、目で見える川柳を作句者は意識しているのか、色々な

(藤田 武人)

経営されている「コーの夫が何年前に睡蓮鉢キーコーポレーション」を置いた。雨量計のような働きしかしていない。箒です。この度は、本社句会と同じ句箋を、どこよりも安いお値段でお分けていただけるようになります。7000枚、送料込み5000円で。句会でご活用ください。お申し込みは本社事務所まで。(勝弘)マンション住まいの我が家だが、ささやかな専ら用庭がある。チョー変人いるではないか！

(眞澄)



# 川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(9月号)」

地名

市都  
道府  
県  
姓  
雅  
号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお問い合わせいたします。

# 檸檬抄投句用紙

「サイズ」(7月15日締切)

9月号発表

川本真理子 選 —— 共選 —— 鈴木いさお 選

B

A

地名

市都  
県道  
府  
姓  
雅  
号

切らないで下さい

B

A

地名

市都  
県道  
府  
姓  
雅  
号

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい





# 川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者
	〒 -	  	<div> <div>○ ○</div> <div> 年 年  月 月  から から  一年 半年  9 5  8 0  0 0  0 円 円 </div> </div> <div> <p>該当の方に○をつけて下さい</p> </div>

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社（電話 06-6779-3490）

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい



## 作品募集

9月号発表(7月15日締切)

川柳塔(8句) 小島蘭幸選  
水煙抄(8句) 川上大輪選  
愛染帖(2句) 新家司選  
檸檬抄「記号」(2句) 鈴木いさお共選  
インスレーションナビ(2句) 川本真理子選  
一路集「合図」(2句) 大西泰世選  
「含む」 寺本実選  
「道」(3句) 加藤江里子選  
初歩教室「道」は10月号発表 平井美智子担当

10月号  
檸檬抄「本気」  
一路集「やがて」「糸」  
初歩教室「まづい」

## 第59回路郎忌本社7月句会

とき 7月6日(木) 13時開場・13時40分締切  
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間  
天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441  
おはなし「ある酪農家の川柳」  
兼題「千」  
「キラキラ」  
「ずるい」  
「日 本」  
「自由 吟」  
会費 1000円  
投句料 1000円(切手不可)  
小前新石富上水  
島中家橋永田野  
蘭知完芳恭ひと  
幸栄司山子み兔  
選選選選選氏  
(各題2句以内)

本社 8月 句会  
10日(木) 午後1時から  
兼題「ショック」「戦う(闘う)」  
「遠 い」「責 任」「自由吟」

## 本社句会欠席投句のお薦め

- \* 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- \* 投句料1000円(切手不可)。
- \* 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

〒543-0052  
大阪市天王寺区大道一丁目一四一七  
花野ビル201号室  
発行所 川柳塔社  
電話(06)六七七九一三四九〇番  
振替〇〇九八〇一四一九八四七九番

定価 八百円(送料100円)  
半年分 五千円(送料共)  
一年分 九千八百円(同)  
二〇一三年(令和五年)七月一日発行  
発行人 小島和幸  
編集人 栗原道夫  
印刷所 美研アート

川柳・俳句・エッセイ・小説  
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10

TEL (06) 4800-3018

FAX (06) 4800-3028

Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

ホームページ <https://www.bikenart.com>

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>



# 箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、

秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）



0120(11)5283

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

## あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにしてお手伝いをいたします。

美 研 ア ー ト

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール [bikenart@ea.mbn.or.jp](mailto:bikenart@ea.mbn.or.jp)

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日：土 / 日 / 祝